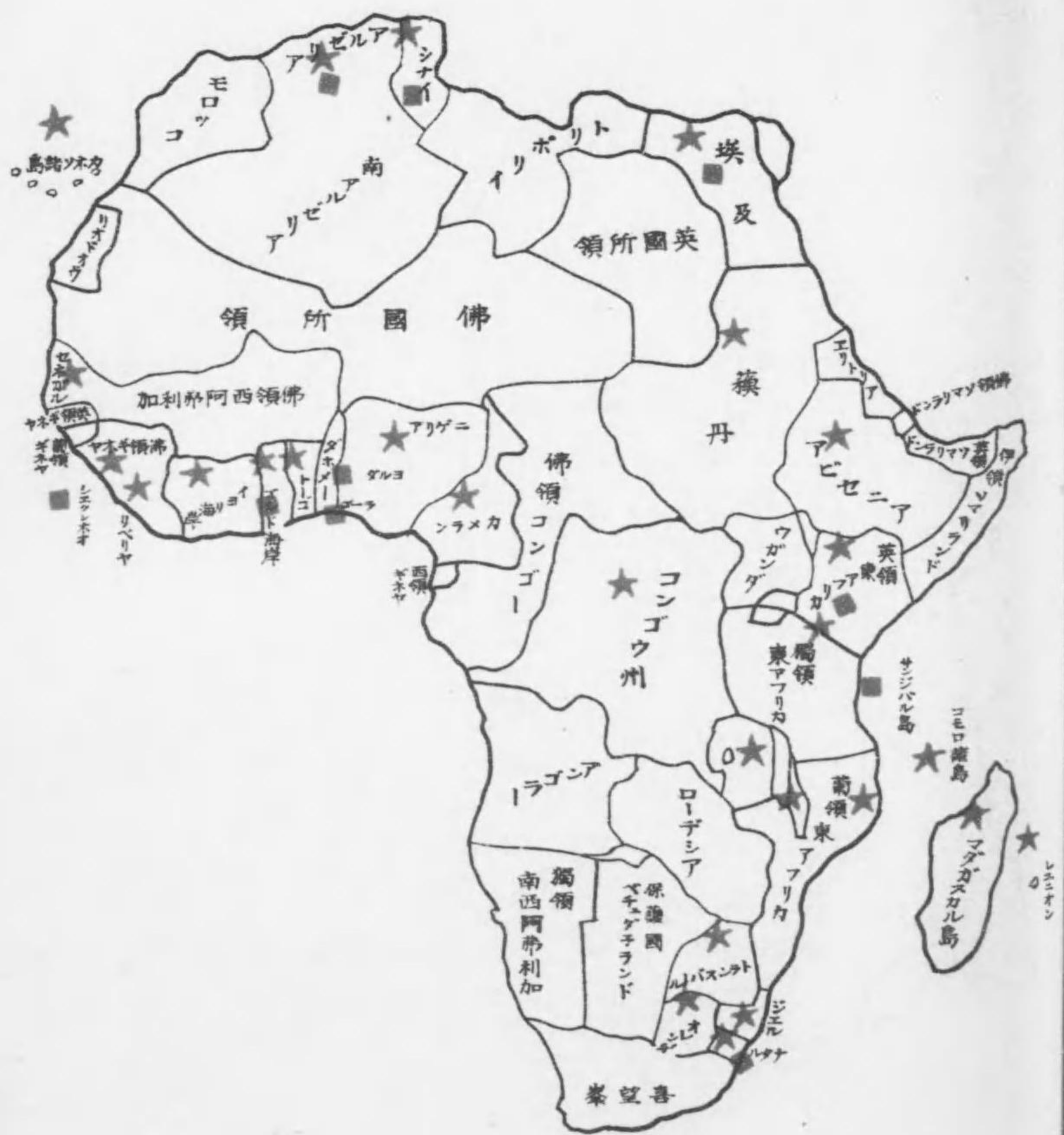


廿二、マーチンク	三八一	一六四、〇〇〇
廿三、墨士哥	七六七、〇〇五	一三、五七〇、五四五
廿四、ニカラグア	四九、二〇〇	三八〇、〇〇〇
廿五、バラガキ	一五七、〇〇〇	四三二、〇〇〇
廿六、巴奈馬	三一、五七一	二八五、〇〇〇
廿七、ペーリウ	四六三、七四七	二、六六〇、八八一
廿八、ホルト、リコー	三、六〇六	九五三、二四三
廿九、サルヴハードル	七、二二五	一、〇〇六、八四八
三十、トリニダッド	一、七五四	二五三、〇〇〇
卅一、ウエネジュラ	五九三、九四三	二、三二三、五二七
三、亞細亞		
卅二、錫倫	二五、三三三	三、五七八、三三三
卅三、支那	四、二七七、一七〇	四二六、〇四七、三二五
卅四、交趾支那	二三、一六〇	二、四〇〇、〇〇〇
卅五、印度	一、七六六、六四二	二九四、三六一、〇五六

卅六、日本	一六一、一九八	四六、四五三、二四九
卅七、瓜哇	五〇、五五四	二六、一二五、〇〇〇
卅八、朝鮮	八二、〇〇〇	一〇、五二八、九三七
卅九、馬來諸州	二六、五〇〇	六七六、〇〇〇
四十、比律賓群島	一一四、三二六	七、〇〇〇、〇〇〇
四十一、サモア	一八一	五五、〇〇〇
四十二、海峽植民地	一一、五四三	五七二、〇〇〇
四十三、スマタラ	一六二、三一〇	三、四七二、〇〇〇
四十四、土領バクダット	五四、五〇三	八五〇、〇〇〇
四、大洋洲		
四十五、クインスランド	六六八、四九七	五〇三、二六六
五、歐羅巴		
四十六、伊太利	一一〇、五五〇	三二、四七五、二五三
共計	一四、四六四、一五八	九一九、八五八、二四三

第一圖ヨリ第六圖ニ至ル圖中標點ノ解釋

第一圖



★印ハ十二指腸蟲病ノ事ヲ記載セル書物ノ中ニ於テ其病毒感染ノ箇所ヲ表示スルモノトス
 ■印ハロツクフヘーラー氏衛生委員會ノ收受シタル報告中ニ於テ其病毒感染ノ箇所ヲ指示シタルモノ是レナリ



第三圖



吐布

第五圖



第六圖





十二指腸蟲病豫防心得

流行ノ事

十二指腸蟲病今ヤ世界到ル所ニ之レナキハナク熱帶及之ニ次ケル地帯ニ散在セル國々ハ皆ナ此害毒ヲ蒙ラサルハナシ、蓋シ此病毒タルヤ既ニ數世紀ニ亘リテ幾百萬ノ人民ノ心身發達ヲ沮碍シタルヤ知ルヘカラス、然レトモ之ヲ治療シ之ヲ豫防スルノ方法ハ極メテ單純無造作ノモノナレハ人々平生心得置カサルヘカラス

成育セル十二指腸蟲ハ如何

充分ニ成育シタル十二指腸蟲ノ大サ如何ト云フニ先ツ其長サハ一時ノ三分ノ一、二分ノ一、或ハ時ニ三分ノ二位ノモノアリ、而シテ其太サハ頭髮ノ留針大若クハ三十筋ノ絲ヲ束ネタル程ノモノナリ、又タ其色ハ通常白色ナレトモ血液ヲ充分吸ヒ込ミ居ル場合ハ暗褐色ヲ帶ヘルモノト知ルヘシ、今マ顯微鏡ノ力ヲ借ラスシテ肉眼ノ儘ニテ之ヲ見タランニハ、其表皮及外形ハ小形ノ蚯蚓ニ異ナラス

十二指腸蟲ノ幼蟲ハ如何

十二指腸蟲ハ卵生ニシテ其卵形ハ微小ニシテ肉眼ニテハ見ヘ難キモノナリ、而シテ空氣、溫度及濕氣等適當ナル場合ニハ、其卵子孵化シテ微細ノ蟲形様ノ胎子トナルヘシ、然レトモ同シク肉眼ニテハ善ク見ルコ

トヲ得ス、斯ル胎子期ニ際シテハ其活動力甚ク強ク機會アラハ人體中ニ侵入セントスルモノナリ、但人體中ニ入り込ムヘキ機會ナキ場合アラシカ、斯ル場合ニ於テハ六週間乃至一ケ年位ニシテ死滅スヘシ、其死滅スルマテノ期間ニ長短アルハ畢竟スルニ胎子ノ周邊ノ狀態如何ニ基クモノト知ルヘシ

十二指腸蟲ノ人體ニ侵入スル徑路如何

十二指腸蟲ノ原蟲カ人體ニ侵入スルノ徑路ハ一ニシテ足ラスト雖モ概シテ皮膚ヨリ侵入スルモノト知ルヘシ、今マ茲ニ人アリ跣足ニテ十二指腸蟲ノ原蟲カ存在シ居ル地上ヲ歩ミタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ直チニ其原蟲ハ其足ニ附着シテ其皮膚面ヨリ其侵入スヘキ途ヲ啓キ行クヘシ、殊ニ其足ノ趾ト趾トノ間ニ一時塵埃附着シ居リテ其部分ノ表ハ一層柔カニナリ居レルカ故ニ、此等ノ箇所ヨリ侵入スヘキ途ヲ啓キ行クコト多キニ居レリ、斯ル次第ニテ暫時ノ中ニ此等ノ原蟲數百カ人體中ニ入り込ミ得ヘキナリ、斯ク多數ノ十二指腸蟲ノ原蟲ノ侵入シタル局部一種ノ惡シキ疥癬的痛痒ヲ感スルモノナリ、南部合衆國ノ人民ハ之ヲ呼シテ『地上疥癬』ト云ヘリ

十二指腸蟲ノ内臟ニ侵入スル徑路如何

十二指腸蟲ノ幼蟲ニシテ一タヒ皮膚ヲ通過シタランニハ血管ニ入ラント欲シ、夫レヨリ心臟及肺臟ニ入ラントスルモノナリ、然ルニ此等ノ幼蟲如何ニ小形ナリト雖モ肺臟中ノ血管ヲ通過シ得ヘキモノニアラス、故ニ血管ノ或ル部分ヲ打チ破リ其破リタル箇所ヨリ空氣ノ入り込ミ來ルヲ待チテ其空氣ト共ニ亂入シ、夫

レヨリ氣管、咽喉部ニ上リ、復タ胃管ニ下リ小腸ニ入りテ其所ニ永住スルニ至レルモノト知ルヘシ

或ハ此幼蟲カ野菜若クハ果物等ニ附着シ居リテ人ノ之ヲ食スルト共ニ體中ニ入り込ムコトアリ、是レハ内臟ニ入り込ムノ捷徑ナレトモ斯ル場合ハ甚ハタ少ナキモノナリ

腸内ニテ十二指腸蟲ノ發育スル有様如何

此等ノ幼蟲ニシテ一タヒ腸内ニ入り込ミタランカ、其粘膜ノ皺襞中ニ這ヒ込ミテ速カニ發育シ數倍ノ大サトナルヘシ、既ニシテ充分成長シタランニハ腸ノ内面ニ食ヒ込マシムハアラス、其口ハ恰カモ鋭トキ鉤狀ヲ爲シ居ルカ故ニ或ルモノニ食ヒ込ムニ便利ナルモノト謂フヘシ

斯クテ十二指腸蟲ノ腸内ニ存在スル中雌雄互ニ接觸シテ數千ノ卵子ヲ産出スヘク、其卵子ハ糞便ト共ニ排出セラルヘシ、斯ク排出サレタル卵子ハ空氣、濕氣及溫度等其宜シキヲ得タランニハ、右ニ述ヘタルカ如キ順序ニ從ツテ孵化シ再ヒ人體ニ入り込ムヘキナリ

何人カ十二指腸蟲ヲ攜帶シ居ルカ

或ル者カ之ヲ攜帶シ居レリ、然レトモ之ヲ攜帶スルモノ成人ヨリハ幼童ノ方一層多キニ居レリ、何カ故ニ幼童ノ方ニ一層多キヤト云フニ、幼童ハ之ヲ成人ニ比スレハ跣足ニテ方々ヲ駆ケ廻ルコト多ケレハナリ、今マ夫レ成人ニシテ再ヒ此疾病ニ罹ラサル豫防法ヲ行フタランニハ、十年間乃至十五年間之ヲ避ルコトヲ得ヘキナリ

十二指腸蟲ノ身體ニ及ホスヘキ影響如何

苟クモ十二指腸蟲病ニ罹リタル者ハ其腸内ニ十二指腸蟲ノ附着シ居ルコト數千ナルヤ知ルヘカラス、而シテ此蟲ハ或ル部分ニ嚙ミ着キテ血液ヲ吸收スルモノナルカ、其嚙ミ着キタル疵口ヨリ滲ミ出シテ失ハル、血液ノ量ハ其蟲ノ吸收スル血液ノ量ヨリ一層多キモノト知ルヘシ、且ツ此等ノ蟲ハ嚙ミ付クト同時ニ一種ノ毒液ヲ分泌スルモノナリ、故ニ之ニ侵サレタルモノハ貧血、痲衝、腸加答兒等ヲ惹キ起シ從ツテ消化機能ヲ妨害スヘキナリ、十二指腸蟲ノ人ノ健康ヲ害スルヤ成人ヨリ幼童ノ方一層甚タシキモノト知ルヘシ

十二指腸蟲病ノ極メテ惡症ナルヲ如何シテ知り得ヘキヤ

十二指腸蟲病ノ重症ナルモノニ罹リタル者ハ一見以テ知ラレ得ヘキナリ、殊ニ斯ル患者ニ親シク接シタルコトアランモノハ、之ヲ見分クルコト甚ハタ容易ナリト謂ツヘキナリ、今マ斯ル患者ノ外形ニ現ハル、兆候ノ重モノナルモノヲ左ニ掲ケント欲ス、曰ク多少ヲ問ハス血色亘シカラス、皮膚ノ面蒼白ヲ呈シ、齒齦其色ヲ失ヒ身體自カラ羸瘦シ肋骨アリノトシテ數ヘ得ラルヘク、肩薄クコケテ『天女ノ翼』カト思ハル、ハカリナリ、時トシテハ顔面、體軀若クハ四肢ノ各所ニ膨脹スル所アルヲ見ルヘシ、又頭髮ハ乾燥シテ脆弱トナリ、幼童ノ發達ヲ沮害スルコト決シテ少ナカラサルナリ、實際十四歳位ノ少年ニシ此疾病ニ侵サレタリトセンカ、衰弱ノ結果十歳以上トハ見ヘサル程トナラン、而シテ其食欲ノ如キハ如何ト云フニ時トシテハ甚タシク減退スルコトアリ、時トシテハ甚タシク亢進スルコトアリ、而シテ其亢進シタル場合ニハ食物ノ良

否ハ又手置キ如何ナルモノモ擇ヒ得ヘカラサルニ至ル、例之ヘハ塵芥、粘土、石膏其他如何ナルモノニテモ全ク擇フコトナク食スルニ至ルヘシ、斯クテ腸胃ニ痛苦若クハ壓迫ヲ感スヘク、身體疲レ易ク呼吸殆ントナキカト思ヘハ復タ著シク亢奮スルコトアリ、其他頭痛、眩暈、疲勞、不眠症若クハ睡眠症ニ陥キラスンハアラス

十二指腸蟲病ノ輕症ナル場合如何

此疾病ノ重症ナル場合多キカ將タ輕症ナル場合多キカトノ問題起ラン、輕症ノ方多キニ居レリト謂ツヘキナリ、好シ此疾病ニ侵サル、モ固ヨリ輕症ナルカ故ニ、其大半ハ以上述ヘタル如キ兆候ノ何レヲモ現ハササルモノナリ、幼童ノ如キハ聊カ平生ニ異ナル所アリト見ユルモ愈々病氣ニ罹リ居レリトノ判然タル兆候ヲ現ハサル、モノアリ、然レトモ其年齡ニ照ラシテ見レハ一層小形ニ失シ顔色青サメルカ稍ヤ黃色ヲ呈シ、小學校ニ在リテハ同級生ノ後ニアルヘキナリ、今マ成人ニシテ之カ輕症ナルモノニ罹リタリトセンカ、何トナク疲勞怠惰ヲ感スルニ至ラン、輕症ナルモノニ至リテハ患者ノ糞便ヲ顯微鏡ニ照ラシテ知得スルノ一法アルノミ、即チ十二指腸蟲病流行地ニ住居スルモノハ、自カラ此疾病ノ何ラカノ兆候ヲモ感セスト雖モ、身體検査ヲ受ケサルヘカラス、是レ他ナシ自カラ知ラサルモ既ニ其病毒ニ感染シ居リテ他ニ傳播スルノ虞アレハナリ

十二指腸蟲病ノ危險ナル事

十二指腸蟲病ハ固ヨリ人ヲ斃スヘキ害毒ヲ有スルモノナリ、或ハ此疾病ニ惱マサル、コト久シキニ亘リテ身體大ニ衰弱シ、爲メニ餘病ヲ惹キ起シテ死ニ至ラシムルコト珍ラシカラサルナリ、例之ハ結核病、窒扶斯熱及肺病等ヲ惹キ起シテ死ニ至ラシムルカ如キ是レナリ

治療法

此疾病ノ治療法ハ決シテ紛糾錯雜シタルモノニアラス、極メテ單純無造作ノモノト謂ツヘキナリ、之カ治療藥トシテ最モ多ク普通ニ用ヒラル、ハ瀉利鹽及「チモール」是レナリ、蓋シ瀉利鹽ハ腸内ノ粘液及食物ノ分子ヲ清純ニシ、彼ノ十二指腸蟲ヲシテ、「チモール」ニ曝サシムルノ効用アルモノナリ、但シ瀉利鹽ハ多量ノ水ヲ混和シテ夜間ニ之ヲ用フル方便利ナルヘシ、斯クテ翌朝六時頃ニ至ラハ「チモール」一服量ノ半ヲ服シ同シク八時ニ至リテ其残りノ半ヲ服スヘシ、而シテ午後十時ニ至ラハ第二ノ瀉利鹽一服ヲ用フヘシ、但シ前晚ヨリ之ニ混和スヘキ水量ヲ一層減少センコトヲ要ス、且ツ「チモール」ヲ服用スルノ際牛乳ヲ幾「ゲレーン」カ混和シタンニハ其結果尙ホ一層良好ナルヘシ、右ノ如ク第二回目ノ瀉利鹽ヲ服用シタランニハ過度ノ「チモール」ヲ排除シ從ツテ腸内ヨリ彼ノ毒蟲ヲ驅除スヘキナリ

「チモール」ヲシテ可及的速カニ小腸ニ達セシメンニハ「チモール」ヲ服用スル毎ニ、少ナクモ三十分間ハ右脇ヲ下ニシテ横臥セン事ヲ要ス、若シ第一回ノ瀉利鹽ヲ服用スルモ更ニ其効果之レナキ場合アラシカ、斯ル場合ニ於テハ其治療ヲ中止シテ醫師ノ診察ヲ受ケサルヘカラス

ホルト、リコウ人ノ報告スル所ニ據レハ左記ノ如キ事實アリト云フ、曰ク第一回ノ治療ニテ彼ノ蟲ヲ全ク驅除シタルモノ四〇%、第二回ノ治療ニテ同様ノ功ヲ奏シタルモノ三〇%、同シク第三回ノ治療ニテ七%ニ當レリ、而シテ第四回以上八回若クハ第十回ニ及ヘルモノハ極メテ少數ナリシト知ルヘシ

「チモール」ノ服量

「チモール」ノ服用ハ醫師ノ指揮ニ從ハサルヘカラス、而シテ此藥ノ服量如何ハ實際ノ年齢ニ關スヘキモノニアラス、一見以テ幾歳ト認定セラルヘキ年齢ニ準據センコトヲ要ス、先ツ成人ナランニハ四十「ゲレーン」乃至六十「ゲレーン」ナルヘク、十歳位ノ幼童ナランニハ二十「ゲレーン」ヲ與フヘク、五歳ナランニハ其半ヲ與ヘテ然ルヘシ、此等ノ服量ヲ何レモ二回與ヘンコトヲ要ス、但シ二回トモ服量ハ全ク同一ナリト知ルヘシ

治療後ノ用心

早朝「チモール」ヲ服用シタランニハ水ノ外何モノヲモ飲食スヘカラス、苟クモ「チモール」ヲ服用シタル日ニハ肉汁、牛酪、牛乳其他脂肪質ノ食物ヲ食スヘカラス、殊ニ亞爾箇保爾及油類(容易ク「チモール」ヲ溶解スヘキモノ)ハ非常ニ危険ナルモノナレハ、少ナクモ數日間ハ之ヲ避ケサルヘカラス、特許賣藥ハ殆ント全ク亞爾箇保爾ヲ含ミ居ルカ故ニ危険甚ハタシキモノト知ルヘシ

十二指腸蟲ノ豫防法

靴ヲ穿チテ歩マンニハ病毒ノ感染ヲ豫防スルニ足ルヘキナリ、好シ病毒ノ布散セル地上ヲ歩ミタリトスルモ、靴ヲ穿チ居タランニハ危険ナカルヘキナリ、然レトモ病毒ノ豫防上土地ヲ清潔ナラシメンコトハ、靴ヲ穿タンヨリ尙ホ一層重要ナルコト、謂ツヘキナリ、而シテ土地ヲ清潔ナラシメンニハ只タ僅カニ一法アルノミ、即チ清潔ナル便所ヲ建設スルコト是ナリ、尙ホ之ヲ委シク云ハンカ、地上到ル所勝手次第ニ大便ヲナスカ如キハ其不潔ナルコト如何トモ名狀スヘカラス、然ルニ之ヲ清潔ナラシメンニハ適當ナル便所ヲ建設シテ必ラス之ニ由ラシムルコト、セサルヘカラス、土地ヲ清潔ナラシメンニハ僅カニ此一法アルノミ、乃チ今マ所謂ル清潔ナル便所ノ構造如何ト云フニ、糞便ノ容器ナルモノハ古桶若クハ「バケツ」様ノモノニシテ蠅ヲ防キ液體ノ洩レサルモノナラサルヘカラス、而シテ此等ノ容器ニ溜リタル汚穢物ハ最モ注意ヲ密ニシテ適當ニ處分セサルヘカラス、此等ノ汚穢物中ニハ十二指腸蟲ノ卵子無數ニ混入シ居ルモノナレハ、斯ル卵子ヲシテ他ニ散布セシメサル様注意センコト最モ肝要ナリ、蓋シ此汚穢物ノ處分法ハ左記ノ方法中ノ何レカニ從ハンコトヲ要ス

- (イ) 適當ノ箇所ニ深キ穴ヲ掘リ此中ニ汚穢物ヲ投シテ其上ヨリ土ヲ蔽ヒ被セル事
 (ロ) 遠隔ノ地ニ携ヘ行キ蠅ノ群集セサル方法ヲ取りテ之ヲ溜メ置キ酸酵セシムル事
 (ハ) 化學作用ニ從テ之ヲ處分スルコト、即チ病原體ヲ滅殺セシムル事
 (ニ) 之ヲ燒却スル事

萬國結核豫防會議

序論

一千九百十二年羅馬ニ於テ開催サレタル第十回萬國結核豫防會議ハ第十一回同會議ヲ一千九百十三年伯林ニ於テ開催スヘキコトヲ議決シタリ、而シテ其際開會期間ハ同年十月二十二日ヨリ二十六日マテ五日間ト定メラレタリ、蓋シ伯林ニ於テ曾テ同會議ヲ開催シタルコトアリ、一千九百十三年ニ於テ同所ニ同會議ヲ開クハ恰カモ是レ二回目ニ當ルヲ以テ、一ハ同會議創立記念ノ意味ヲモ含ミテ伯林トハ定メラレタルモノナリ

抑モ結核病カ廣ク一般ニ蔓延シテ其暴威ヲ逞フスルヨリ之ヲ討伐センカ爲メニハ、文明諸國カ皆是レ共同一致シテ其事ニ當ラサルヘカラス、是レ事態ノ必要上然ラシムル所ニシテ其必要ヲ感シタルハ正ニ是レ一千九百二年ノ事ナリキ、之ヲ換言スレハ事態ノ必要上始メテ此年ニ於テ萬國結核豫防會議ナルモノ創設セラレタルナリ、而シテ萬國結核豫防會議カ創設以來今日ニ成シ遂ケラレタル事業如何ト云フニ、創立當時ノ期待セシ事ニ適合セルコト甚タ多キヲ證スルニ足ルヘキナリ、是レ伯林ニ於テ開催スル第十一回會議ヲ以テ創立記念會ト爲ス所以ナリ

右會議ノ順序書中學理的分科ニ屬スルモノヲ舉レハ概ネ左ノ如シ、曰ク社會生活ノ各段階ニ於ル人類の結核病ニ關スル學說ヲ統括的ニ觀察スル事、殊ニ人類の結核病ノ研究問題ハ實驗醫學ト如何ナル關係ヲ有スルヤ等ヲ調査スルコト是レナリ、此外肺結核ノ醫療等ノ如キハ會議順序書中ノ重モナルモノト謂ツヘキナリ

又タ社會的分科ノ方ニ就テ之ヲ言ハンカ、主トシテ保險制度ト結核征伐トノ關係ニ屬スルモノ是レナリ、抑モ結核征伐ノ事ヲ社會政策ノ一トシテ研究ヲ始メタルハ蓋シ日耳曼國ナリ、日耳曼國ハ其研究ノ結果當初ノ着想ヲ最モ充分ニ實現セシメタリシナリ、此結核征伐ト最モ親密ナル關係ヲ有スルモノハ左ノ如キ問題是レナリ、曰ク少年ニシテ初メテ何等カノ業務ニ就キテ若干ノ賃銀ヲ得ヘキ年齢ニ達シタル場合其少年ニシテ結核病ニ罹リ居ランニハ果シテ如何シテ可ナルヤノ問題はレナリ、此問題解決ニ就テ保險制度ノ必要起ラスンハアラス、是レ即チ保險制度ト結核征伐トノ關係ヲ研究スルコトヲ以テ、此會議ノ社會的分科トナス所以ナリ

『萬國結核豫防會議』ノ創設セラレタルハ一千九百二年ニシテ、當時其會場ニ充テラレタル箇所ハ、伯林ノ國會議事堂ナリシカ、第十一回ノ同會議モ亦タ是レ均シク此國會議事堂ニ於テ開催セラル、コト、ナレリ、今ヨリ十年前日耳曼帝國ノ皇后陛下ハ畏クモ『結核征伐日耳曼中央委員會』ノ保護者トナリ賜ヒシカ、今日モ亦タ是レ依然舊ノ如ク自カラ其保護者トナリ賜ヘリ、而シテ國會議事堂カ此會議ノ會場ト定メラル、

ニ就テハ國會議長自カラ最モ懇切ニ斡旋ノ勞ヲ取ラレタリ、即チ議事室ハ言フヲ要セス議事室内ノ各室ハ皆ナ是レ會議用ニ充テ、妨ケナカラシメタリ、又タ『日耳曼中央委員會』ノ手ニ依リテ『特別會議委員會』ナルモノカ設ケラレテレーチポール公カ名譽會頭ノ任ニ當ラレタリ、記憶セヨレーチポール公ハ一千八百九十九年ニ於テ伯林結核會議ノ議長ノ職ニ就カレタルコトアリシヲ、而シテ日耳曼帝國皇室ノ推薦ヲ以テレーヒンノー氏カ一千九百十三年ノ會議ノ議長ト定メラレタリ、斯クテ會議ノ開カル、ヤ内務大臣デルブラツク氏、レーチポール公及市醫務顧問ドクトル、ウエバー氏カ伯林市ヲ代表シテ夫々祝辭ヲ述ヘラレタリ

諸外國政府ノ代表者及日耳曼聯邦ノ各代表者等重要ナル問題討論審議ノ爲メ夫々參列シタリ

茲ニ大ナル遺憾トスヘキハ巴里ノレオン、ブールゼオイス氏カ止ムナキ故障ノ爲メ議長ノ席ニ就クコト能ハサル是レナリ、因リテ伯林ノバンム氏ノ議長ニ選ハレバンウキツチ氏カ名譽書記ニ選ハレタリ

エジンバルフノセンナン氏ノ口述

人類ノ結核病理解剖ニ就テ

凡ソ此集會ニ參列セラレタル人ニシテ結核病ノ事ニ就テ堅固ナル意見ヲ有セサルモノハ殆ント之レナカルヘシ、蓋シ其堅固ナル意見ハ臨床上ノ實驗ヨリ來レルカ、若クハ作業室ニ於テ長年月ヲ費シタル研究ノ結果ニ外ナラサルヘシ、故ニ吾人ノ意見ハ通常ノ知覺ト理解力トヲ有スル人ヲ満足セシムルニ足ルヘキ價アル

コトハ亦タ疑フヘカラサルナリ、然レトモ今マ子ノ考フル所ヲ以テスルニ、結核病ニ關スル種々様々ノ意見ヲ對照比較シテ之ヲ一致セシメンコト、及結核ニ關スル聯合作業場ヲ設ケンニハ數多ノ困難ナクンハアルヘカラス、思フニ予ト同感ノ人モ亦少ナカラサルヘシ

予ハ熟慮ノ末反對ノ意見ヲ互ニ調和セシメンコトハ到底不可能ナルヘシトノ決論ヲ得ルニ至レリ、思フニ反對ノ意見ヲ有スルモノハ互ニ辯難討論ヲ爲スコソ然ルヘケレ、蓋シ其間眞理ヲ發見スルノ機會アルヘケレハナリ

個人個人ノ實例ヲ多數集メテ以テ統計表ヲ作成スヘキ事

結核病ノ事ヲ研究討尋セント欲セハ先ツ左記ノ如キ手順ヲ以テ之ニ從事セサルヘカラス、曰ク結核病ニ關スル諸種ノ報告即チ男女兩性ノ結核病ニ罹ルコト、之ニ罹レル年齢如何、種々ノ邦國、市府等ニ結核病ノ發生シタル事等ノ報告ヲ得タランニハ、此等ノ事實ヲ材料トシテ統計表ヲ作成スルコト是レナリ

予ハ右ノ如キ目的ヲ以テ英吉蘭及蘇格蘭ノ登記所報告ヲ調査シ其結果ヲ以テ左ノ如キ表ヲ作成シタリ

第一表

今マ左ニ示ス所ノ表ハ英吉蘭及蘇格蘭ニ於ル人口毎百萬ニ就テノ死亡率ヲ現ハシタルモノナリ、蓋シ此等ノ材料ハ英吉蘭及蘇格蘭ノ登記所報告ヨリ得タルモノニシテ、其期間ハ英吉蘭ノ方ニ在リテハ一千八百九十一年ヨリ一千九百年ニ至ルマテ、蘇格蘭ノ方ニ在リテハ一千八百九十一年ヨリ一千九百年ニ至ルマテ、

一千九百一年ヨリ一千九百十年ニ至ルマテト知ルヘシ、而シテ死亡者ノ年齢別ハ都合之ヲ十一ニ分チタルモノナリ

年 齡 不 明	英 吉 蘭			蘇 格 蘭		
	自一八九一年至一九〇〇年	自一八九一年至一九〇〇年	自一九〇一年至一九一〇年	自一八九一年至一九〇〇年	自一八九一年至一九〇〇年	自一九〇一年至一九一〇年
零 歲ヨリ五 歲マテ	二,〇一〇	一,三九一	一,三六一	二,三六一	一,六八四	二,〇九〇
五 歲ヨリ十 歲マテ	三,九〇〇	四,一〇三	三,八四一	三,八四一	五,二一六	三,七六〇
十 歲ヨリ十五 歲マテ	七,四〇〇	七,〇〇〇	一,一六五	七,九一	七,九一	一,一七〇
十五 歲ヨリ二十 歲マテ	六,六九	三,六八	一,九六	七,四九	七,四九	三,〇〇〇
二十 歲ヨリ二十五 歲マテ	一,三六六	一,一四四	二,四八五	二,二二四	三,六一	一,五九〇
二十五 歲ヨリ三十五 歲マテ	一,九六六	一,七〇〇	二,九五四	二,七〇一	二,二五	二,〇〇〇
三十五 歲ヨリ四十五 歲マテ	二,〇三三	二,三三三	三,〇四四	二,八〇一	一,五九	二,五〇〇
四十五 歲ヨリ五十五 歲マテ	二,七四〇	二,三九三	二,七七一	二,六七一	二,三三	二,三三〇
五十五 歲ヨリ六十五 歲マテ	二,〇〇〇	一,八八八	一,六六三	一,五七三	一,〇九	一,五六〇
六十五 歲ヨリ七十五 歲マテ	一,三三三	一,五五五	一,〇一一	八四	一,〇九〇	九一〇
七十五 歲 以上	五二二	四七	五三	四六	五三	三九二

右ニ掲ケタル表中最モ著ルシキ事實ト謂ツヘキモノハ左ニ記載スル事柄是レナリ、曰ク英吉蘭ト蘇格蘭ト

ニケ所ノ如キハ最モ親シク隣接シ居ルニモ拘ラス、生活ノ状態及病毒傳染ノ有様等著シク相違セルコト是レナリ、即チ英吉蘭ニ於テハ結核病ノ死亡率ノ最モ高キハ三十五歳ヨリ四十五歳マテノ期間ナルニ、蘇格蘭ニ於テハ右死亡率ノ最高度カ二十五歳ヨリ三十五歳マテノ期間ナルヲ見テ知ルヘキノミ、且ツ右ノ表ニハ年齢ノ早キ期間中ニハ肺結核以外ノ結核（全身羸瘦、腸間膜炎、瘰癧、腦膜炎、骨炎、關節炎ノ類）ノ最多数ニシテ、年齢ノ長スルニ從ツテ著シク減退シ行クヲ示セリ、其他蘇格蘭ノミニ就テ之ヲ云ハンニ肺結核ノ死亡率ハ耽カニ減退シ居ルコトヲ知ルヘシ、即チ一千八百九十一年ヨリ一千九百年ニ至レル十ヶ年間ニ於テ肺結核ノ死亡率ハ人口毎百萬ニ就テ百六十八人ナリシモ、一千九百一年ヨリ一千九百十年ニ至レル十ヶ年間ニ於テハ其死亡率減シテ百三十八人トナレリ、然ルニ肺結核以外ノ結核ノ死亡率ハ之ニ反シテ各年齢別ニ於テ實際増加シ居レルコトヲ知ルヘシ

第二表

一千九百十三年一月ヨリ六月ニ至ルマテ蘇格蘭中大ナル市府ニ於ケル正確ナル死亡率

蘇格蘭全部	一千九百十三年 半年ハノ人口	死亡全數	結核ニ就テノ死亡	
			全數	死亡毎百ニ就テ 人口毎千ニ就テ
蘇格蘭全部	四、七三三、七〇〇	三九、四一七	四、三六九	一一、〇八
パース	二〇、二〇〇	二九一	二八	九、六〇

ケリーノック	七、七八〇	七六二	一〇六	一三、九〇	二、七二
ケリーノック	七、七八〇	七六二	一〇六	一三、九〇	二、七二
インヅハーネス	二一、三〇〇	一九四	二六	一三、五〇	二、四四
グラスゴウ	一、〇二一、五〇〇	九、四四二	一一七八	一一、四〇	二、三〇
ペイスレー	八五、六〇〇	六九一	九二	一三、三〇	二、一五
コースブリツヂ	四三、四〇〇	三六一	四五	一二、四六	二、〇七
ダンジ	一六五、九〇〇	一、五二二	一六九	一一、一〇	二、〇三
フハルカーク	三五、六〇〇	二五九	三三	一二、七〇	一、八五
アベルジーン	一六二、七〇〇	一、五六二	一五〇	九、九〇	一、八四
エジンバルフ	三二〇、三〇〇	二、四七四	二八六	一一、五六	一、七八
カーグカルデー	四〇、〇〇〇	二八七	三四	一一、八〇	一、七〇
エアードリー	二四、〇〇〇	一八五	一四	七、五〇	一、一六
フホルフハー	一〇、四〇〇	八五	四	四、七〇	〇、七七
セント、アンドリウス	一五、〇〇〇	八〇	五	六、二五	〇、六六

右第二表ニ於テハ左ノ如キコトヲ示シ居レリ、曰ク一千九百十三年ノ前六ヶ月ニ在リテ蘇格蘭中各所ノ市邑ニ於ケル結核病ニ就テノ正確ナル死亡率ノ互ニ差異アルコトヲ示セルコト是レナリ、蓋シ各市邑ニ就テスル統計表ヲ取リタルコトハ未タ曾テアラサリシナリ

右ノ如ク此市邑ト彼ノ市邑トノ間ニ死亡率ノ差異アルハ、人口ノ多寡若クハ人口ノ粗密ニ比例スヘキモノニアラサルナリ、畢竟スルニ地方々々ノ死亡率ニ影響スル所以ノモノハ、其地方ノ状況有様ニ基因セス

ハアルヘカラス、即チ降雨、生活上習慣ノ異同、其他ノ動力ノ如キモノ是ナリ
各年齢別期間ニ於ル死亡率

第三表ハヘルレンバーク氏ノ提出ニ係ルモノナリ、蓋シ此表ハ普魯西ニ於テ人口每一萬ニ就キ結核病ニ因
レル各年齢死亡率ヲ示セルモノ是レナリ、尙ホ此表ニ據ル時ハ人口毎千、毎十萬及毎百萬ニ就テノ死亡率
ヲモ算出スルコトヲ得ヘシ

第三表

此表ハ一千九百九年中ニ於テ普魯西ノ人口每一萬ニ就キ結核病ニ因レル死亡率ヲ示セルモノ是レナリ

年 齡	男	女	兩 性
零 歳ヨリ一 歳マテ	二四、九二	二二、三五	三二、六五
一 歳ヨリ二 歳マテ	一七、〇一	一五、五二	一六、一七
二 歳ヨリ三 歳マテ	八、八七	八、九六	八、九一
三 歳ヨリ五 歳マテ	六、一七	六、〇一	六、〇九
五 歳ヨリ十 歳マテ	四、〇〇	四、九九	四、四九
十 歳ヨリ十五 歳マテ	四、〇二	六、七七	五、三九
十五 歳ヨリ二十 歳マテ	一、六四	一四、六四	一三、一三
二十 歳ヨリ廿五 歳マテ	二〇、七六	二〇、四六	二〇、六一

廿五 歳ヨリ三十 歳マテ	一八、五九	二〇、二九	一九、四四
三十 歳ヨリ四十 歳マテ	二〇、七一	二〇、九八	二〇、八五
四十 歳ヨリ五十 歳マテ	二五、二一	一六、一七	二〇、六〇
五十 歳ヨリ六十 歳マテ	三二、一八	一七、二六	二四、三〇
六十 歳ヨリ七十 歳マテ	三〇、八八	一九、八三	二四、八〇
七十 歳ヨリ八十 歳マテ	二〇、九一	一五、二〇	一七、六九

右ヘルレンバーク氏ノ表ニ據レハ結核ニ因レル死亡率ハ、五歳ヨリ十歳ニ至ルノ期間ヨリ六十歳ヨリ七十
歳ニ至ルノ期間ニ至ルマテ、恒例トシテ若干カツ、増加シ居ルヲ知ルニ足ルヘシ、即チ六十歳ヨリ七十歳ニ
至ルノ期間ニ於テ最多數ニ達セルコトヲ知ルヘシ、而シテ男子ノ部ニ於テハ五十歳ヨリ六十歳ニ至ルノ期
間マテ次第ニ死亡率ノ増加シ居ルヲ見ルヘシト雖モ、女子ノ部ニ於テハ二十歳ヨリ四十歳マテノ期間ハ實
際停止シテ變化ナク、其以後六十歳ヨリ七十歳マテノ期間ヲ除クノ外死亡率ノ減退シ居ルヲ見ルニ足ルヘ
シ

第四表

蘇格蘭、一千九百一十一年ヨリ一千九百一十年ニ至ル十ケ年間ニ在リテ各年齢別期間ニ於ル人口每一千ニ就テノ
死亡率、但シ其死因ハ總テノ結核病肺結核、腸結核、惡性的疾病ナリト知ルヘシ

不明ナル年齢	總テノ結核		肺結核		腸結核		惡性的疾病	
	男	女	男	女	男	女	男	女
零歳ヨリ三ヶ月マテ	二、七	二、〇〇	一、四	一、三	〇、三	〇、三	〇、七	一、〇
四ヶ月ヨリ六ヶ月マテ	六、七	五、五	〇、五	〇、四	一、〇	一、四	〇、〇	〇、〇
七ヶ月ヨリ一歳マテ	六、三	五、三	〇、七	〇、六	一、七	一、五	〇、〇	〇、〇
一歳ヨリ二歳マテ	二、七	二、五	〇、三	〇、三	〇、六	〇、七	〇、〇	〇、〇
二歳ヨリ三歳マテ	一、〇	一、一	〇、二	〇、二	〇、五	〇、六	〇、〇	〇、〇
三歳ヨリ四歳マテ	〇、八	一、一	〇、一	〇、一	〇、五	〇、六	〇、〇	〇、〇
四歳ヨリ五歳マテ	一、七	二、〇	一、三	一、七	〇、九	一、八	〇、〇	〇、〇
五歳ヨリ六歳マテ	二、八	二、六	二、二	二、三	〇、九	一、三	〇、〇	〇、〇
六歳ヨリ七歳マテ	二、五	二、四	二、一	二、二	〇、九	一、二	〇、〇	〇、〇
七歳ヨリ八歳マテ	二、四	二、三	二、〇	二、一	〇、九	一、一	〇、〇	〇、〇
八歳ヨリ九歳マテ	二、三	二、二	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十歳ヨリ十一歳マテ	二、二	二、一	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十一歳ヨリ十二歳マテ	二、一	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十二歳ヨリ十三歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十三歳ヨリ十四歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十四歳ヨリ十五歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十五歳ヨリ十六歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十六歳ヨリ十七歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十七歳ヨリ十八歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
十八歳ヨリ十九歳マテ	二、〇	二、〇	二、〇	二、一	〇、九	一、〇	〇、〇	〇、〇
二十歳以上	〇、五	〇、一	〇、二	〇、三	〇、〇	〇、〇	七、一	七、七

死亡率ノ最モ高キハ生後滿一ケ年以内ニシテ夫レヨリ第三年目ヨリ第四年目ニ達スルマテハ速カニ減退スルモノナリ、而シテ五歳ヨリ十歳ニ至ルマテノ期間ニ於テハ死亡率ノ減退スル度合稍ヤ緩徐トナルモノナリ、其他女子ノ方ニ在リテハ十歳ヨリ十五歳ニ至ルマテノ期間ニ於テ其死亡率徐々ニ高クナリ、十五歳ヨリ二十歳ニ至ルマテノ期間ニ於テハ其死亡率急速ニ上ルヘシ、然レトモ二十歳ヨリ二十五歳ニ至ルマテノ期間ニハ其度合再ヒ徐々トナルヘシ、斯クノ如クニシテ二十五歳ヨリ三十五歳ノ間ニ於テ最高度ニ達シ、以後徐ロニ下降シ三十五歳ヨリ四十五歳ニ至ルノ期間ニ於テ輕度ニ向上シ恰カモ凹線ヲ畫スルニ至ルヘシ、又タ男子ノ方ニ於テハ如何ト云フニ十歳ヨリ十五歳ニ至ルノ期間マテハ其死亡率引キ續キテ下降スト雖モ、其時ニ至リテ突如トシテ上ルヘシ、然レトモ十五歳ヨリ二十歳ニ至ルノ期間ニ於ケル女子ノ死亡率ト比較シタランニハ一層低位ニアリト知ルヘシ、然レトモ二十歳ヨリ二十五歳ニ至ルノ期間ニ於テハ其死亡率、女子ノ死亡率ヨリ一層高クナリテ、爾後ノ年齢別期間ニ至リテハ其高クナリタル儘ニテ持續スルモノナリ、故ニ此間ニ於ケル死亡率ノ曲線ヲ畫センカ女子ノ凹線ト全ク反對ニシテ凸線ヲ畫スルニ至ルヘキナリ、之ヲ換言スレハ右ノ如キ年齢別ノ期間ニ於テハ女子ニ比較シテ男子ノ死亡率著シク増加シ居ルヲ知ルニ足ルヘシ、殊ニ四十五歳ヨリ七十歳マテノ期間ニ於テ然リトナス

肺結核ニ因レル死亡率ト其他一般ノ結核ニ因レル死亡率ト著シキ差異アルハ幼年ノ中ナリト知ルヘシ、後漸次年長スルト共ニ此傾向少ナク成リ行ケルモノナリ、試ミニ見ヨ女子ノ年長スルト共ニ結核ニ因レル

死亡率ノ減退シ行クハ明カナル事實ナリ、然レトモ他ノ惡性的疾病ノ爲メニ斃ル、モノ一層多キヲ加フルハ亦タ疑フヘカラサルナリ、此ニ於テカ吾人ハヒルレンベルグ氏ノ表ニ示シタルカ如キ事實即チ年長スルト共ニ女子ノ死亡率減退スト云ヘル説ニハ服スルコト能ハサルナリ

第五表

(原書中不分明ノ所アルヲ以テ譯文ヲ缺ク)

次ノ表(第六)ハ結核ニ因レル死亡比例ト其他總テノ疾病、總テノ年齢ニ於ケル死亡比例トノ關係ヲ示シタルモノ是レナリ、蓋シ此表ハ議論ノ材料ニ適スヘキモノニアラスシテ、寧ロ沈思熟慮ノ用ニ供スヘキモノナリ、乃チ吾人ハ人ヲシテ此表ニ依リテ一ノ事實ヲ知了セシメント欲スルモノナリ、所謂ル其事實トハ他ニアラス、蘇格蘭ニ於テ女子ノ十五歳ヨリ二十歳ニ至ルノ期間ニ在リテ結核ニ因レル死亡比例ハ、同期間ニ於テ女子ノ全死亡數ノ百分ノ五十以上ニ相當シ居ルコト是レナリ、又タ男子ノ方ニ於テ結核ニ因レル死亡比例ノ最モ高キハ二十歳ヨリ二十五歳ニ至ルノ期間ナリシ、其他諸ノ結核及肺結核ニ因レル死亡比例ハ一歳以上遞次ニ増加シ居ルコトヲ見ルヘキナリ

第六表

蘇格蘭、一千九百一年ヨリ一千九百十年ニ至ル、諸ノ疾病、結核、及惡性的疾病ニ因レル死亡百分比例

不明ナル年齢	總テノ結核		肺結核		腸結核		惡性的疾病		
	男女	男	女	男女	男	女	男女	男	女
零 歳ヨリ三ヶ月マテ	三、三六	三、七六	三、四三	八、三	八、三〇	八、三	一、二九	五、五	四、五
四ヶ月ヨリ六ヶ月マテ	〇、八	〇、八	〇、七	〇、〇五	〇、〇四	〇、〇五	〇、三	〇、三	〇、三
七ヶ月ヨリ一歳マテ	五、七〇	五、六〇	五、七〇	〇、〇四	〇、〇四	〇、〇五	二、一五	〇、〇九	〇、〇一
一歳ヨリ二歳マテ	七、九〇	八、三〇	七、六〇	〇、九	〇、九	〇、六	二、四三	二、二	〇、〇一
二歳ヨリ三歳マテ	一、二、五	一、三、一	一、一、九	一、四	一、五	一、三	三、五	〇、六	〇、五
三歳ヨリ四歳マテ	一、八、三	一、九、五	一、七、七	二、七	二、七	二、六	五、一	〇、三	〇、三
四歳ヨリ五歳マテ	二、七、七	二、六、七	二、八、三	七、一	五、八	八、四	六、三	〇、三	〇、三
五歳ヨリ十歳マテ	三、六、三	三、七	三、七	一九、五	二、七	二、六	六、三	〇、三	〇、三
十歳ヨリ十五歳マテ	三、六、三	三、七	三、七	一九、五	二、七	二、六	六、三	〇、三	〇、三
十五歳ヨリ二十歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	三、五	三、〇	四、六	五、九	〇、六	〇、六
二十歳ヨリ二十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
二十五歳ヨリ三十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
三十五歳ヨリ四十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
四十五歳ヨリ五十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
五十五歳ヨリ六十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
六十五歳ヨリ七十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
七十五歳ヨリ八十五歳マテ	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七
八十五歳以上	四、六、三	四、六	四、六	四、〇	四、〇	四、〇	二、六	〇、七	〇、七

病院統計表

右ニ掲ケタル統計表ハ廣ク一般ニ亘レルモノナルカ、今マ之ニ次キテ左ニ一種ノ統計表ヲ示サント欲ス、蓋シ此一種ノ統計表ト云ヘルハエヂンバルフニ於ル欽定幼兒病院ノ死後解剖報告書ニ基キテ作成シタルモノ是レナリ

斯ル病院ニ於ル結核病ヲ社會全般ニ影響ヲ及ホスヘキ疾病トシテ論述センハ事ノ變態ニ屬スルノ嫌ヒナキニアラス、然レトモ斯ル大規模ノ病院ヨリ出テタル事實ハ一種ノ趣味アルモノト云フヘキナリ、但シ此等ノ事實ニ就テ判斷ヲ下サント欲スル場合ニハ、左記ノ如キ事態ヲ先ツ其心中ニ留メ置カンコトヲ要ス、曰ク斯ル病院ニ收容サレタルモノハ社會ノ中ニテ衣食住ノ不充分ナルモノ即チ下等ノモノ、子弟ノ許多ナルコト是レナリ

一千八百八十六年六月ヨリ一千九百二年四月ニ至ルマテノ期間、及一千九百十年十二月ヨリ一千九百十三年八月ニ至ルマテノ期間ニ於テ死後其體軀ヲ解剖シテ其病原ヲ研究シタルモノ一千四百十六人ニ及ヒタリ、但シ其幼童ノ年齢ハ十四歳ヲ最終トシテ様々ナリシト知ルヘシ、而シテ此等ノ死亡者ノ内五百六十二人即チ百分ノ三十六ハ結核若クハ其他ノ疾病ニテ斃レタルモノナリ、中ニ就テ此結核病以外ノ疾病ト云ヘルモ畢竟スルニ結核病ノ傳染シタルモノニシテ、潜伏シテ尙ホ未タ表面ニ發セサルモ内部ニテハ既ニ其勢カラ現ハシ居タルカ、若クハ其勢力ヲ現ハスニ至ラサリシニ過キササルノミ但シ潜伏期中ニ屬スルモノハ結

核病全數中百分ノ四以上ニ上リ居ラサルナリ、今マ事實ノ上ニ照ラシテ之ヲ考ヘ見ヨ、結核病以外ノ疾病ニテ死亡シタル幼童ノ遺骸ヲ解剖シタル結果ヨリ之ヲ見ルニ、實際結核病ニ感染シ居ラサルモノハ殆ント稀レナリ、即チ早晚結核病ニ斃ル、運命ヲ有シ居タルモノニ外ナラサルナリ、是レグーベル氏ノ實驗說ナリトス

今マ左ニ示ス所ノ表(第七表)ハベスヘ氏ノ用ヒタル年齢別ニ從ツテ區分サレタルモノニシテ予ノ事例ヲ解剖セルモノナリ、但シ予ノ年齢別ノ總數ハ一千四百十六ナリシモ、此年齢別ノ總數ハ一千二百七十七ト知ルヘシ

第七表

年 齡 別	一 零 歲 一 ヲ ヲ ヲ		三 一 ヲ 月 一 日 ヲ ヲ		五 三 ヲ 月 一 日 ヲ ヲ		五 十 四 ヲ 月 一 日 ヲ ヲ	
	全 數	非 結 核	全 數	非 結 核	全 數	非 結 核	全 數	非 結 核
年 齡 別	三八一・〇	三一四・〇	四一八・〇	二二六・〇	一七二・一	八六・〇	三〇七・〇	一四四・〇
結 核	六七・〇	一八二・〇	一八二・〇	八五・〇	一六三・〇	一六三・〇	一六三・〇	一六三・〇
百 分 比 例	一七・六	四三・五	四三・五	四九・七	四九・七	四九・七	五三・一	四九・七

第八表ハベスヘ氏ノ書類ニ基キテ調製シタルモノナリ

第八表

年齢別	全 核 數	非 結 核	結 核	百 分 比 例
零歳ヨリ一歳マテ	五八・〇	四四・〇	一四・〇	二四・二
一歳一ヶ月ヨリ	二八・〇	一七・〇	一一・〇	三九・三
三ヶ月一ヨリ	一四・〇	七・〇	七・〇	五〇・五
五ヶ月一ヨリ	三四・〇	一四・〇	二〇・〇	五八・八
十ヶ月一ヨリ	一三四	八二	五二	

而シテ今マセルベツヘ氏ノ百分比例ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク零歳ヨリ一歳マテ七・二%一歳一ヶ月ヨリ三歳マテ二六・一%三歳一ヶ月ヨリ五歳マテ五〇・%五歳二ヶ月ヨリ九歳マテ四七・五%ノ如キ是レナリ
次ニ掲クル所ノ表ハエツチ、アルブレヒト氏ノ百分比例ト予カ爲シタル研究ノ結果ト對照比較シタルモノト知ルヘシ

第九表

年齢別	全 核 數	非 結 核	結 核	百 分 比 例
零歳ヨリ一歳マテ	三八一・〇	三一四・〇	六七・〇	一七・六
一歳一ヶ月ヨリ	六五〇・〇	三五三・〇	二九七・〇	四五・七
六歳一ヶ月ヨリ	二四六・〇	一一三・〇	一三三・〇	五四・〇
十歳一ヶ月ヨリ	一、二七七	七八〇	四九七	

讀者ニシテ右ニ掲ケタル數個ノ表ヲ熟讀セラレタランニハ自カラ左記ノ如キ事實ハ明ラカナルヘシ、曰クエチンバルフニ就テ予カ調査シタル統計表ハベスヘ氏及セルベツヘ氏ノ統計表ヨリモアルブレヒト氏ノ統計表ト一層親シク接近シ居ルコト是レナリ
且ツ右ニ掲ケタル表ノ示ス所ニ據レハ年齢ノ増加スルニ從ツテ結核病ニ罹ルノ割合モ亦タ高ク上リ行クコトヲ證明シ居ルヲ知ルヘシ、然レトモ予ノ掲ケタル實例ハ其年齢別單純ナルカ故ニ結核病ノ増加スル割合然カク明ラカナラサルナリ

第十表

年齢別	全 核 數	非 結 核	結 核	百 分 比 例
零歳ヨリ一歳マテ	三六一	三二四	三七	一七・六
一歳一ヶ月ヨリ	二六九	一六二	一〇八	四〇・二
二歳一ヶ月ヨリ	一〇九	七五	三四	四九・六
三歳一ヶ月ヨリ	五三	三三	二〇	四〇・六
四歳一ヶ月ヨリ	八〇	三三	四七	五七・〇
五歳一ヶ月ヨリ	六〇	三三	二七	四九・二
六歳一ヶ月ヨリ	五八	二二	三六	六〇・三
七歳一ヶ月ヨリ	五四	二〇	三四	四四・四
八歳一ヶ月ヨリ	三九	二二	一七	六六・四
九歳一ヶ月ヨリ	三三	一九	一四	四〇・六
十歳一ヶ月ヨリ	二六	一三	一三	五〇・〇
十一歳一ヶ月ヨリ	三三	九	二四	五九・二
十二歳一ヶ月ヨリ	一七	八	九	五九・二

エチンバルフノ事例中格段ナルモノ

予ハ既ニ前段ニ於テ結核病ノ事ニ關シテ稍ヤ委シク述ル所アリタリ、蓋シ是レ一千九百年ヨリ一千九百九

年ニ至ルマテノ事柄ニ關スルモノニシテ、其材料ハエヂンバルフノ病兒收容ノ病院ノ記録(一千八百八十六年ヨリ一千九百二十年ニ至ルノ期間ニ於ルモノ)ヨリ拔萃シタルモノナリシカ、今マ再ヒ其所論ノ結論ニ就テ簡短ニ之ヲ述ヘ、而シテ聊カ他ノ事實ヲモ附加スル所アラントス

男女兩性ノ死亡數カ互ニ相伴隨スル事、十四歳ヲ最終ノ年齢トシテ其レヨリ以前ニ於ル各年齢ニテ幼兒ノ結核ニ罹リテ死亡シタル數何レニ多キヤト云フニ、女子ヨリ男子ノ方一層多キナリ、即チ女子ノ死亡數ノ百分比例四四・八ニ對シテ男子ノ方ハ同シク五五・一ナリシナリ、然レトモ彼ノ病院ニ收容サレタル男女兩性ノ幼兒ニシテ諸ノ疾病ニ罹リテ死亡シタルモノ、總數ノ上ヨリ打算シ來レハ、女子ノ結核病ニ斃レタル死亡率ハ四〇・六ナリシニ、男子ノ同シク死亡率ハ三八・八ナリシナリ、故ニ斯ル男女ノ死亡率ハ蘇格蘭全般ノ死亡率(第四表及第六表ヲ參照セヨ)ニ一致スヘキモノニアラスト知ルヘシ

結核ニ罹リテ死亡シタル幼童四百九十七名(第七表ヲ參照セヨ)ノ内三百三十四名ハ五歳若クハ其レヨリ以下ナリシナリ、而シテコツベツト民ノ說ニ據レハ五歳以下ノ年齢ニテ結核ニ罹レル全數ノ三分ノ一ハ牛疫菌ノ感染ニ基クモノナリト云フ、同氏ノ說ニシテ果シテ正確ノモノナリトセンカ、結核患者ノ百分比例二二・五ハ牛疫ヨリ感染シタルモノト謂ツヘキナリ、然レトモ予ハ今マ頸淋巴腺結核、骨及關節結核ニ就テ然カ云フヲ得サルナリ

淋巴腺結核

一千八百八十六年ヨリ一千九百二十年ニ至ルマテノ期間ニ於テ、發生セル結核病ニ關スル百分比例ヲ舉レハ概ネ左ノ如シ、曰ク明カニ淋巴腺ニ罹リシ者八三・七%、胸腺結核ニ罹リシ者六九・二%、腸腺結核ニ罹リシ者五四・四%二者併發ノ者三九・九%、胸腺ノミニ罹リシ者二九・五%、腸腺ノミニ罹リシ者一三・五%ナリシナリ、又タ一千九百十年ヨリ一千九百十三年ニ至ルマテノ期間ニ於テ、右ニ掲ケタルト同一ノ結核ニ罹リタルモノ、百分比例ヲ掲ケレハ左ノ如シ、曰ク六九・四%五三・一%、四五・〇%、二九・七%、一五・三%一三・五%是レナリ、今マ之ヲシテ一層明ラカナラシメンカ爲メニ左ニ之カ表ヲ掲ケン

第十一表

	一千八百八十六年ヨリ 一千九百二十年ニ至ルマテノ期間	一千九百十年ヨリ 一千九百十三年ニ至ルマテノ期間
淋巴腺結核	八三・七	六九・四
胸腺結核	六九・二	五三・一
腸腺結核	五四・四	四五・〇
前二者併發	三九・九	二九・七
胸腺結核ノミ	二九・五	一五・三
腸腺結核ノミ	一三・五	一三・五

右ニ掲ケタル表ニ據リテ之ヲ觀レハ胸腺結核ニ罹レルモノ、百分比例ハ著シク減少シ居ルヲ知ルヘキモ、

腸腺結核ニ罹レル者ノ百分比例ハ實際定止シ居レルヲ知ルヘキナリ、蓋シ斯ル事實ハ果シテ何ニ原因スルヤト云フニ、最近二十五ヶ年ノ間ニ於テエヂンバルフ内ニ結核治療所及結核病院等カ設立セラレテ、結核撲滅ノ方法其宜シキヲ得タルコト大ニ與カリテカアリト云ハサルヘカラス、然レトモ結核及肺結核ノ死亡比例ハ前世紀ノ半ハ以來駭カニ減少シツ、アルコトヲ忘ルヘカラス、(第一表ヲ參照セヨ)

腺結核ト他ノ結核病トノ關係

一百八十八十六年ヨリ一千九百二年ニ至ルマテノ期間ニ於テ縱隔膜腺(肺根部、氣管支、及氣管ヲモ含ム)ノ結核ニ罹レル者三十三例即チ一・七%ニ當レリ、但シ初期ト慢性トヲ問ハス肺結核ノ徵候ナカリシモノナリ、又タ腸腺(腸間膜、體壁、腸腔、及臟器ノ根部ヲモ含ム)ノ乾酪變性ニ罹リシモノ百五例即チ四七・五%ニ當レリ、但シ是レハ腸潰瘍ニ罹ラサルモノナリ、其他肺ノ空洞ヲ起サスシテ乾酪變性ニ罹リシモノ七十三例即チ三三%ニ當レリ、又タ或ル期間ノ全部(一千八百八十六年ヨリ一千九百二年ニ至ルマテノ期間及一千九百十年ヨリ一千九百十三年ニ至ルマテノ期間ヲ云フ)ヲ通シテ肺ノ空洞ヲ起サスシテ腸潰瘍ニ罹リシモノ百一十一例ニ下ラス即チ二二・五%ニ當レリ、尙ホ結核病ニ罹リシモノ、全數四百九十七名(第七表ヲ參照セヨ)アリ、内結核カ直接ノ死因トナリシハ結核性腦膜炎ニシテ二百二十八例即チ四五八%ニ當レリ

右ニ掲ケタル數表ハ平生予ノ唱道セル持論ノ的確ナルヲ證スルニ足ルヘキナリ、乃チ予ノ所謂ル持論ニ曰

ク或ル國若クハ或ル市邑ニ於テ發生シタル結核病ノ統計表ハ他ノ國若クハ他ノ市邑ニ適用スヘキモノニアラスト云ヘルコト是レナリ、予カ特ニ言葉ヲ強クシテ斯ク唱道スル所以ノモノハ他ナシ、畢竟スルニ斯ル事實ニ注意セサルモノ世ニ居多ナレハナリ

結核病傳染ノ性質及徑路

總論

結核病傳染ノ有様ニ關シテ結核病々理解剖ノ事ヲ論述スルニ先ンシテ論述セサルヘカラサルコトアリ、コトネット氏ノ局所論ニ關スルモノ是レナリ、然レトモ同氏ノ局所論ノ論據ナルモノハ一定不變ニシテ動カスヘカラサルカ、或ハ反對論ノ爲メニ其論據ニ何等カノ變動ヲ起スノ必要ナキニハアラサルカヲ論述セサルヘカラス、蓋シ初メテ結核病ニ傳染シ、再ヒ之ニ傳染シ、其後復タ之ニ傳染スルノ有様及徑路ニ關シ、感受性ノ過敏ナルコト及免疫スルコトニ關シ、結核菌ノ潜伏及淋巴腺肥大症等ニ關スル近時ノ學說ニ對シテ、右局所論ノ論據ニ何等カノ變動ヲ起スノ必要アルヘケレハナリ

コトネット氏ノ局所論、抑モ同氏ノ局所論ナルモノハ大不列顛國ヨリ却ツテ歐羅巴大洲中ニ於テ一層盛ンニ唱道セラレタリシナリ、今マ其局所論ノ要旨ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク凡ソ疾病取リ分ケ結核病ノ人身ニ侵入シタルコトハ、恒例トシテ當初其侵入シタル局所ノ模様如何ニ據リテ以テ認知スルコトヲ得ヘキモノナリ、尙ホ之ヲ詳言スレハ當初傳染病毒ノ侵入シタル局所ニ發シタル病症及斯ク侵入サレタル局所ノ淋巴

腺内ニ生シタル繼發病ニヨリテ認知スルヲ得ヘキコト是レナリ

然レトモ今日ニ至リテハ多クノ重要ナル實驗ニ據リテ一種ノ事實カ發見セラレタリ、所謂ル其事實トハ何ツヤ、人身ノ或ル部分ニ初メテ一種ノ細菌接種法ヲ行フタリトセンカ、從ツテ傳染病感受性ハ著シク發達増大スル事實是レナリ、既ニ斯ル事實ノ發見セラレタル以上ハ彼ノコーネット氏ノ局所論ナルモノハ、最早ヤ其論據ヲ維持スルコト能ハサルヘシ、好シ然ラストスルモ其論旨ノ重要ナル部分ヲ訂正變更セサルヘカラス

最初ノ傳染、第二回ノ傳染、尙ホ其後ノ傳染、感受性過敏ナル事

バーテル氏、ニウコーン氏、ハート氏及其他ノ人ノ説ニ曰ク今マ茲ニ一ノ試験動物アリ、既ニ結核菌ヲ接種サレタルモノナルニモ拘ラス、尙ホ前者ヨリ一層強力ナル結核菌ヲ取リテ再ヒ接種シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ其結果如何ト云フニ第一回ニ於ル場合トハ全然異ナリタル徑路ヲ示サスンハアラス、例之ハ第二回ノ接種ヲ行フタル局所ニハ何タル症候ヲモ現ハサスシテ第二回ノ接種ニハ肺結核移植ノ症狀ヲ示シ居レリ、即チ肺部ハ結核菌傳染ノ感受性一層過敏トナレルモ、身體中其他ノ箇所ニ至リテハ皆ナ是レ傳染病ニ對スル抵抗力一層増加シタルヲ證スルニ足ルヘキナリ、既ニ實驗上右ノ如キ結果ヲ生シタルヨリ右數名ノ記者モ左ノ如キ結論ヲ爲スニ至レリ、曰ク既ニ一タヒ傳染病ニ侵サレタル人類ノ肺部ハ、其感受性過敏トナリ居レルカ故ニ其病毒ノ侵入セル局所ノ症狀如何ニ依リテ其病症ヲ判定スルコト能ハサル

ヘキナリ

結核菌ノ潜伏期、以上掲ケ來レル問題ハ左記ノ如キ事實ト一致聯絡スルモノナリ、曰ク結核菌ナルモノハ餘程久シキ間淋巴腺内ニ潜伏シ居ルモノナリ、斯ル事實ハ今日ニテハ廣ク認識セラル、所ナリ、(ペーリン、グ、ウエーヒセルバーム、バーテル、ハービッツ諸氏ノ唱道ニ係レルモノ)而シテ此等ノ諸氏ハ尙ホ其他左ノ如キ事實アルコトヲ説明セリ、曰ク斯ル淋巴腺ヨリ再ヒ傳染病毒ノ發スルコトアリ、但シ斯ル場合ニ於テ此等ノ線組織中ニ認知セラルヘキ經路の變化ヲ生セサルモノト知ルヘシ、然レトモペーチツケ氏ハ一ノ説ヲ立テ曰ク結核菌ノ潜伏期中ニ於ル幼童ノ體中ニアリテハ、血液循環ノ爲メニ結核菌ノ蔓延スヘキモノニアラス、好シ之カ爲メニ蔓延スルコトアリトスルモ畢竟スルニ例外ニ外ナラス決シテ恒例トスヘキモノニアラス、其他ペーチツケ氏ハ幼童ノ淋巴腺内ニ結核菌ノ潜伏シ居ルコトヲ證明シ得ヘキ機會ニ遭遇セサリシナリ、且ツ之ト同時ニ肉眼ニテモ若クハ顯微鏡ノ力ヲ借りテモ、斯ル腺内ニ結核菌ノ存在スルコト及其行動如何ヲ見出スコト能ハサリシナリ、此ニ於テカ氏ハ確然トシテ左ノ如ク斷案ヲ下セリ、曰ク凡ソ結核病ハ何レノ所ニ存在セルモ其侵入セル門戸ヲ示スニ足ルヘキナリト、ジョースト氏及エムンツフ氏モ亦タペーチツケ氏ト同一ノ意見ヲ有セリ、即チ此等ノ二氏ノ説ニ曰ク試験動物ノ結果ニ據リテ之ヲ觀ルニ、淋巴腺組織中ニ眞ニ結核菌ノ潜伏シ居ルコトヲ證明スルコト能ハサルナリ、又タストラッフヘンハーゲン氏及ウンゲルコーン氏モ幼童ノ淋巴腺内ニ結核菌ノ潜伏シ居ルコトハ甚ハタ稀レナリト云ヘリ、然ルニホイ

ツブル氏ハ左ノ如キ事實ヲ見出セリト云フ、曰ク結核菌カ粘膜中ニ侵入シ其局所ニ認知セラルヘキ疾病ヲ醸成スルコトナクシテ、其局所ノ腺中ニ疾病ヲ發セシメタルノ例ハ蓋シ少ナカラサルナリト、但シ左ノ如キ事實ハ何人モ其心ニ銘シ置カサルヘカラス、曰ク人類ノ有スル腺ト試験動物ノ有スル腺ト比較シタランニハ、其數人類ノ有スル方甚ハタ多シト謂ツヘキナリ、而シテ此等ノ腺ハ結核菌ノ侵入ヲ防遏スルニ足ルヘキ効用ヲ有スルモノナリ、又タ左ニ掲クル所ノ説ハ信スルニ足ルヘキモノト云ツヘキナリ、曰ク結核菌ノ潜伏期カ長キニ亘レハ亘ル程該菌ノ毒性カ益々著シク減少スルノ傾向アルモノナリ、(此等ノ説ハコツセル、ウエベール、ヘユース、ステツヘンハーゲン、ニウフヘルド、ドルド、リジデマイン、グラチア、モラー、リグネアース等諸氏ノ唱道ニ係ル)尙ホ之ヲ復言スレハ結核菌ノ潜伏期長キニ亘ル場合ニ於テハ、免疫作用(其作用ハ概シテ不充分ナルニモセヨ)カ徐々ニ造成セラル、モノ是レナリ、其他吾人ハ左記ノ如キ事實ハ實際有リ得ヘキコト、思惟セサルヘカラス、曰ク抑モ結核病ノ傳染スル模様タルヤ同一ノ人ニ幾回ニテモ傳染スルコトヲ通則ト爲スモノナリ、即チ少數ノ結核菌ノ爲メニ幾回ニテモ傳染スルハ實ニ恒例ト云ツヘキナリ、故ニ好シ淋腺内ニ有毒ナル結核菌ノ明カニ潜伏シ居ル場合ト雖モ其結核菌ノ發表スルニアラスシテ新タニ外部ヨリ結核菌ノ侵入シテ結核病ニ罹ルノ例ハ珍ラシカラスト知ルヘシ

以上掲ケ來リタル理由ニ因リテ予ハ左記ノ如キ斷定ヲ下サント欲ス、曰ク今マ茲ニ淋腺内ニ結核病存シ居レリトセンカ、是レハ此淋腺ト密接ノ關係アル門戸即チ機關ヨリ傳染シ來レルヲ知ルニ足ルヘク、

而シテ最初此疾病カ如何ナル門戸ヨリ侵入シ來リタルヤハ、其局所ノ腺ニ結核菌ノ久シク潜伏シ居タルヲ以テ知ルヘキナリ、但シ結核病ノ傳染カ血液上ヨリ來リテ身體中ノ他ノ機關及組織ト同様ニ淋腺ヲ侵シ來リタル場合ハ此限ニアラス、然レトモコーネット氏ノ局所論ヲ全ク是認スヘキモノニアラス、所謂ル同氏ノ局所論ナルモノハ或ル局所ノ疾病ハ最初其侵入シ來レル箇所如何ニ據リテ判定スルコトヲ得ヘシト云ヘルコト是レナリ、斯ル説ハ今日ニ於テ決シテ是認スヘキモノニアラス、何トナレハ結核菌カ好シ粘膜ニ侵入シ得タル場合ト雖モ、最初其侵入シタル箇所ニ如何ナル痕跡ヲモ留メ置カサル場合アレハナリ、是レ今日普ネク一般ニ是認セラレタル説ナリ、而シテ此説タルヤ維納府ノ學校ノ觀察ニ據リテ以テ尙ホ一層確實ノモノトナレリ、蓋シ此學校ノ觀察ノ結果ニ據レハ氣管支腺ヲ侵シ來レル結核ハ何レノ場合ト雖モ、必ラス當初肺中ヲ侵シ來レル箇所ニ其痕跡ヲ留メ置クヘキモノニアラス、尙ホ之ト同様ニ左ノ如キコトモ是認セラレタルナリ、曰ク腸間膜腺結核(腸潰瘍ノアルト否ラサルトニ論ナク)ハ常ニ必ラスシモ嚙下の結核ト斷定スヘキモノニアラスト、此ニ於テカ予ハバウムカーテン氏ノ見解ヲ正確ナルモノト信スルコトヲ得ス、同氏ノ見解ニ曰ク吸入的結核ハ決シテ始メテ侵入シタル肺結核ニアラス、代々繼續シ來レル結核ニ外ナラスト、然レトモ予ハ左ノ如キコトヲ信スルモノナリ、曰ク始メテ結核ノ侵入シ來ルヤ其侵入ノ局所ヲ防衛セル腺ニ疾患ヲ生セシムルノミナラス、之ニ加フルニ淋巴(Lymphatic)及結核燒點ヲ諸種ノ機關ニ蔓延セシムルモノナリ、是レ稍ヤ臨床的斷案ニ出ルモノト知ルヘシ

淋巴腺肥大、パーテル氏一ノ説ヲ立テ、世人ノ注意ヲ惹ケリ、其説ニ曰ク結核菌ノ淋巴腺ヲ侵シタル時先ツ第一ノ結果中ノ一ハ其局部ノ肥大スルコト是レナリ、蓋シ斯ル變化ノ生スルハ或ハ結核菌ノ特徴ト云フモ妨ケナカルヘシト、然ルニペーチツケ氏ハ反對論ヲ起テ、曰ク淋巴腺ノ肥大スルコトハ結核菌ノ侵入シタル場合ニ限リタルモノニアラス、其他ノ原因アリテ之ト同一ノ結果ヲ生スルコトナクンハアラス、勿論結核病ト淋巴腺肥大トハ密接ノ關係アルニ相違ナシト雖モ、病理學上ヨリ之カ見解ヲ下サンニ結核病ハ必ラスシモ淋巴腺ヲ肥大ナラシムヘキモノニアラスト、尙ホ其他ノ人モ淋巴腺ト結核病トハ互ニ親密ノ關係アルコトヲ是認シ居レリ、殊ニ幼童ニアリテハ結核菌ノ淋巴腺ヲ侵スノ場合ハ少ナカラサルナリ、抑モ淋巴腺ナルモノハ疾病ノ來襲スルヲ防禦スル城堡ナリト雖モ、其來襲スル外敵ノ力非常ニ猛烈ナル場合ニ際シテハ亦タ如何トモスヘカラサルモノト知ルヘシ

バームガーテン、ボンガート、オーレツケンノ三氏ハ動物試驗ノ結果ニ據リテ血液流動ノ手段ヨリ結核菌ノ淋巴腺ニ感染スル事實ヲ見出シタリ、又ヒウキユーニヒ氏ハ左ノ如キ著シキ實例ヲ示セリ、曰ク年齢八十二歳ノ一婦人ノ淋巴腺カ遺傳性結核病ニ侵サレ居ルヲ見タリ、但シ其他ノ機關ニ至リテハ更ニ同病ニ侵サレ居ラサリシナリト

結核菌ノ人體ニ侵入スル門戶ノ事

結核菌ノ人體ニ入り込ムヘキ箇所ハ僅カニ一ヶ所ノミト限ラレタルモノニアラス、或ハ皮膚面ノ或ル部分

ヨリ入り込ムコトアリ、或ハ皮膚面ト聯絡セル種々ノ通路（内部ニ屬スル）ノ或ル部分ヨリ入り込ムコトアリ、然レトモ皮膚面及生殖器ノ方面ヨリ入り込ムコトハ甚ハ稀レニシテ、氣管及榮養管ヨリ入り込ム易キモノト知ルヘシ

今マ茲ニ人アリ結核菌ノ侵入ニ最モ深キ關係ヲ有スルハ、右二者ノ内果シテ何レナルヤヲ判知セント欲スルモノアラシカ、斯クノ如キ人ハ先ツ左記ノ如キ事ヲ知了シ置クノ必要ナクンハアラス、曰ク淋巴腺及血管カ解剖學上此等ノ二者ト親密ナル關係ヲ有スルコトヲ明カニ知悉センコトヲ要スルコト是レナリ、此外此問題ヲ解決センカ爲メニハ人類ノ一般病理學及傳染病ノ徑路等ヲモ詳カニシ置カサルヘカラス

氣管方面ノ事 結核菌ノ人體ニ侵入スルハ果シテ何レノ方面ナリト云フニ、最モ侵入シ易クシテ最モ數々侵入スル箇所ハ氣管方面ノ或ル部分ナリト云フ、是レ大多數ノ學者ノ一致シテ異論ナキ所ノ定説ナリ、此ニ於テカ其侵入シ來レル門戶如何ヲ論究センハ最モ適當ナリト信ス、然ルニ結核菌モ榮養機關ノ方面ヨリ侵入スルモノナリトノ反對論ヲ唱フルモノアリ、此反對論ヲ叙述スルノ必要ナキニアラサルモ、今マ差シ當リノ所肺部及其方面ニ於ル腺部ニ侵入シ來レル門戶如何ヲ論究セン方一層然ルヘキコト、思ハル、ナリ抑モ結核菌ノ侵入シ來レル門戶如何ニ關スル問題ハ近年ニ於ル最モ議論多キ一問題ニシテ之ニ對スル數多ノ記者ノ説モ區々ニシテ一定スル所アラス、其甚ハタシキニ至リテハ全ク正反對ノ説ヲ立ル者サヘアリ、其正反對ノ説ヲ唱フル有様ハ恰カモ柱時計ノ振子カ互ニ反對ノ方向ニ振動スルニ異ナラス、以テ此ノ問題ノ

範圍廣大ナルコト知ルヘキノミ、今マ其反對論ノ事ニ關シ實例ヲ掲ケテ以テ之ヲ證サント欲ス、一千九百三年ヨリ以前ノ事ナリシカ、ベトリング氏一ノ説ヲ立テ、曰ク人其幼稚ナルニ際シテ概シテハ結核病ニ侵サレ易キモノナリ、而シテ該病ノ侵シ來ルヤ榮養管ヨリ侵シ來ルモノニシテ、後幾干期間ハ潜伏シ居ルモノナリト、斯クテ心ヲ竭シテ此説ヲ廣ク傳播セシメタルハバームガーターン、ウエーヘセルバーム、バーテル、ニウマーン、リツター、ヴェリーング、カルメット、グハンステーンバーク、グリセツ、ホキトラ等ノ諸氏ナリシカ、又タ他ノ方面ニ於テハ各人カ左記ノ如キ事ヲ信用シ居レリ、曰ク肺結核ニ感染スルハ畢竟スルニ空氣中ニ存在スル結核菌ノ氣管ヨリ侵入シタル結果ニ外ナラスト、斯クノ如ク結核菌ノ侵入スル門戸如何ノ問題ハ區々ニシテ一定スル所アラス、而シテ斯ク區々ナル説ニモ或ハ賛成スルアリ或ハ反對スルモノアルヲ以テ其内數者ヲ左ニ掲ケント欲ス

空氣ヨリ、病毒ノ感染スル事、今マ予ノ考フル所ヲ以テスレハバステアー氏ノ舊來ノ試驗法ニ基キテ僅カニ近キ頃マテ左ノ如キ説行ハレ居タリシナリ、曰ク今マ假リニ空氣カ適當ナル通路即チ鼻孔ノ如キ箇所ヲ經過シテ、氣管中下部ノ通路ニ達シタリトセンカ、此等ノ空氣ハ從ツテ肺部ノ氣胞ニ入り込ムヘキナリ、斯クノ如クニシテ空氣中ニ含有シタル有機物及空氣中ニ浮游シ居タル微細ノ物質ハ吸收シタル空氣ト共ニ入り込ミテ其通路ノ周邊ニ附着スルハ勢ヒノ免カレサル所ナリト、又タ茲ニ人アリ戸外ニアリテ肺病患者ト最モ接近シ居タル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ其吸收スル空氣中ニハ結核菌ヲ含有スルコト亦タ疑フ

ヘカラサル事實ナリ、但シ多數ノ考證家ノ説ニ據レハ斯ル結核菌ハ最終ノ氣管小枝及細胞體ニ達スルモノニアラス、然レトモ氣管ノ粘液中ニ混入シ從ツテ上部ニ輸送セラレテ或ハ之ヲ嚥下シ或ハ之ヲ吐出スルモノナリト云フ、此等ノ説ハ左モアルヘキコト、思ル、ト雖モ左ノ如キ説ニ至リテハ亦タ疑フヘキノ餘地アラサルナリ、曰ク人其吸收シタル空氣中ニ結核菌ノ存在スル場合之レアリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其結核菌ハ終ニ細胞體ニ入り込ミ得ヘキモノナリト、又タベーチツケ氏及コツペット氏ノ如キ實驗家ノ説ニ曰ク塵埃的微細物及細菌ハ最終ノ氣管小枝及細胞體ニ侵入シ易キモノナリト、其他ギユキニ一產ノ豚及家畜ニ就テ實驗シタル所ニ據レハ、結核菌ニ感染シ易キ度合ハ食餌嚥下ニ比較シテ空氣吸收ノ方一層強キコト判明シタリト云フ、初メテ肺結核ノ人身ヲ侵シ來ルヤ必ラス循環セル血液ノ作用ニ從ツテ其病毒カ肺ヲ侵スニ相違ナカルヘク、而シテ其病毒ハ左右兩肺共ニ殆ント同一ノ度合ヲ以テ其所在ノ腺ヲ侵シ來レルモノナリト思惟セルモノ多キカ如シ、然レトモ實際ニ至リテハ然ラス、即チ成人ハ無論幼童スラ然ラサルナリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ證スヘシ、曰クステール氏(一千九百一年ニ於テ)及予(一千九百年ニ於テ)ハ共ニ結核病ノ人身ヲ侵シ來ルヤ概シテ右肺ニ於ル氣管支腺ナルコトヲ見出シタリ、アルブレヒト氏モ亦タ同一ノ説ヲ立テタリ、尙ホ之ヲ細言センカ、予ノ實驗シタル所ニ據レハ肺患者百八十三名ノ内百二十三名(六七・二%ニ當ル)右肺ノミ侵サレタルモノ、若クハ左肺ヨリ一層甚タシキモノナリシニ、残り六十名(三二・八%)ハ左肺ノミ侵サレタルモノ若クハ右肺ヨリ一層甚タシキモノナリシコトヲ見出シタリ

且ツ解剖上ノ事實ニ之ヲ徵スルニ右氣管支ニ關スル腺ハ其數左氣管支ニ關スル腺ヨリ一層多キカ故ニ、右氣管支腺ノ方結核病ニ侵サル、コト一層多キコトヲ證明スルニ足ルヘキナリ
 尙ホ其他ノ事ニ就テ之ヲ證明セン、予ノ親シク實見スル所ヲ以テスルニ左ノ如キ事實アルコトヲ見出シタリ、曰ク十五歳未滿ノ幼童ノ肺ヲ切開スルコト百二十七回ノ多キニ及ヘルカ、内左肺ノミ空洞ニナリ居リシモノ二八%ナルニ、右肺ノミ空洞ニナリ居リシモノ四二%ノ多キニ達シ、残り三〇%ハ左右兩肺共ニ病魔ニ侵サレ居タリシコトヲ見出シタリ、斯ル次第ナレハ兎ニ角右肺ノ所在腺ニ結核ノ侵シ來ルコト左肺ヨリ一層甚タシキハ確實ナリト謂ツヘキナリ、エチンバルフノ醫官ニシテウキクトリア結核病院ニ關係セルモノ、證言スル所ニ據レハ肺結核ハ當初右肺ヨリ侵シ來レルコト多キニ居レリト云フ、或ハ説ヲ爲スモノアリ曰ク人ノ幼時ニ際シテハ右肺ノ方左肺ヨリ稍ヤ強大ナリト、然レトモ右肺ノ方抵抗力強クシテ疾病ニ侵サレ難シトノ理由ハ毫モ之レナキナリ、即チ予ノ論旨ヲ打チ破ルヘキ反對論トナスニ足ラサルモノナリ

右ノ如キ次第ナルカ故ニ自カラ左ノ如キ結論ニ到達スヘキナリ、曰ク年少者ト成年者トヲ問ハス肺結核ニ罹ルモノ、大多數ハ空氣ヨリ感染シ來ルモノナリ、其血液ヨリ感染シ來レルハ割合ニ少ナキモノト謂ツヘキナリ、抑モ結核菌ナルモノ、人體ニ侵入シ來ルヤ、他ノ病原菌ト均シク其性質トシテ最モ捷徑ヲ擇ヒ採リ且ツ抵抗力最モ微弱ナル箇所ヨリセスンハアラス、是レ最モ賾易キ道理ニシテ、結核菌ノ空氣ヨリ肺ニ

侵入シ來ルモ矢張り此理ニ外ナラス

予輩カ今マ右ノ如ク論シ來レハトテ結核菌カ血液中ヲ經過シテ肺ヲ侵シ來レルコトヲ決シテ度外視スヘキモノニアラス、殊ニ感受性甚タ鋭敏ニナリタル場合及幼童ニアリテハ決シテ此事輕視スヘキモノニアラスルナリ、且ツ今マ事ノ真相ニ就テ之ヲ視ルニ初メテ結核菌ノ肺ヲ侵シ來ルニ際シテハ、其結核菌ニ關スル感受性カ特ニ鋭敏ナリシト云フヘキモノニアラス、蓋シ此感受性ノ鋭敏トナレルハ畢竟スルニ結核菌ノ攻撃久シク繼續シタル結果ニ外ナラス、而シテ此結核菌ノ攻撃シ來ルヤ空氣中ヨリスルモ血液中ヨリスルモ異ナラサルモノト知ルヘシ、今マロベルト、コツホ氏ノ説ヲ以テ此論ノ確實ナルコトヲ證サン、同氏ノ説ニ曰ク動物試験ニ據リテ之ヲ考フルニ一タヒ結核菌ニ侵サレタル後ハ之ヲ感受スルノ性益々鋭敏トナレル事ハ亦タ疑フヘカラサルナリト、是レコツホ氏ノ創説ニ係ルモノニシテ後ボン、ビルクユツト、ウエーヘルバーム、バーラルノ諸氏及其他ノ人ニ據リテ此説全ク確實トナレリ、此ニ於テ結核菌ニ抵抗スヘキ手段方法ヲ講スルニ至リタリ

再ヒ結核病ニ感染スルノ時期ハ甚ハタ大切ナルモノナレハ決シテ忽カセニスヘカラス、殊ニ初期ノ感染後幾干モナクシテ再ヒ感染シ且ツ其病勢前期ヨリ稍ヤ強キ場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ結核菌速カニ増加シ來ルハ通常ノ事ニシテ、肺ノ抵抗力從ツテ著シク減少スルハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、殊ニ幼童ニアリテハ其顯象最モ著シカルヘシ

予ハ左記ノ事ヲ事實ナルヘシト信スルモノナリ、曰ク人其幼稚ノ時代ニアリテハ肺ノ淋巴腺ノ疾患ニ感染スルハ決シテ珍ラシカラサルナリ、然レトモ予カ既ニ前述シタル見地ニ從ツテ最モ注意シテ講究スル所ナクシハアルヘカラス、予ハ多數ノ幼稚者ノ結核病ニ侵サレタルモノヲ診察セシカ、其脾臟、腎臟、肝臟片肺若クハ兩肺等ノ内ニ乾酪性若クハ纖維乾酪性ノ小結節ノ存在シ居ルハ甚タ少數ナルコトヲ見出シタリ、又タ此等ノ小結節ト肺ノ空洞（初期若クハ進ミタル）ト相伴ヒ居ルハ極メテ稀レナルニ過キス、其他此小結節ト腸胃ノ結核性潰瘍ト相伴フコト往々ニシテ之レアリト雖モ、腸間膜瘦削及氣管腺結核ト相伴フコト一層多キモノト知ルヘシ、又タ小結節ナルモノハ肺中ノ或ル箇所ニアルコトアリト雖モ多クハ肺ノ周邊ニアルモノト知ルヘシ

今マ予ノ知り得ル所ヲ以テ之カ斷定ヲ下サンニ左ノ如キ説ヲ立テ然ルヘシト信ス、曰ク動物注射試驗等ニ據リテ彼ノ病原トナルヘキ細菌ノ形狀、及其細菌ノ侵入スヘキ門戸如何ヲ斷定シ得ヘキ方法ハ、殆ント講究セラレサリシト云ツテ妨ケナカルヘキナリ、此外乾酪性ノ病竈點ト肺ノ空洞ト一致スル場合ハ極メテ稀レナリト云ヘル説ハ一ノ趣味アルモノニシテ須ラク注意ヲ拂フヘキ價値アルモノナリ

右ノ如キ次第ニテ人ノ身體中ニ初期ノ病竈點ヲ造ル場合ニハ必ラスシモ肺中ニ乾酪性ノ中心點若クハ纖維質乾酪性ノ中心點之レアルヘシトノ説ハ認許スヘカラサルモノト云ツヘキナリ、乃チ斯ル説ヲ立テタルヘインクツヘ、アルブレヒト氏ハ誤解セルモノト云ツテ可ナルヘシ

扁桃核及深頸腺結核ト肺及氣管支腺結核トハ關係アル事

初期ノ扁桃核結核ノ事ニ就テ論述セルハワールス氏ヲ以テ嚆矢トナス、又タアウトレヒト氏ハ結核菌ノ通常入込ニヘキ門戸ハ扁桃核ナリト信認セリ、トラウトマン氏ノ説ニ曰ク頸腺結核ニ罹レルハ、扁桃核ヨリ侵入シタルモノニ外ナラスト、ハンセマイン氏曰ク初期ノ扁桃核結核ニ罹レルモノハ僅カニ一〇〇〇%ニ過キスト、然ルニゲーベル及其他ノ人ノ説ニ據レハ一旦扁桃核結核ニ罹レルモノハ必ラス氣管ノ下邊ノ疾患ニ罹ラサルヲ得スト云ヘリ

予ハ一千九百十年ヨリ一千九百十三年ニ至ルマテノ間ニアリテ、エジンバルフノ幼童患者收容病院ニ於テ結核患者ノ屍體ヲ解剖セシコト百十一名ナリシカ、此際予ハ特ニ扁桃核及頸腺ノ状態如何ニ關シテ最モ注意ヲ密ニシテ視察シタル結果左ノ如キ事實ヲ見出シタリ、曰ク結核病ノ本源地ハ扁桃核ニアルコトヲ證シ得ルモノ十一名（九・九%ニ當レリ）、頸腺ノ乾酪狀ヲ呈シ居タルモノ二十八名（二五・二%ニ當レリ）ナルコトヲ見出シタルコト是レナリ、クレベス、グローバー兩氏ノ見解ニ曰ク抑モ結核病ノ感染スルヤ、直接ニ下方深頸腺ヨリ之ヲ聯絡セル肺尖ニ及ホスモノナリト、予ハ右ノ如キ解剖ヲ爲スニ際シテ最モ深キ注意ヲ拂ヒツ、兩氏ノ見解ノ確實ナルヤニ就テ研究スル所アリシカ、其結果トシテ僅カニ左記ノ如キ事實ヲ見出シタルニ過キス、然レトモ此等ノ事實タルヤ充分ノ根據アル定説ト云フモ亦タ憚カラサルナリ

第一例、年齢八歳ノ男兒、扁桃核及頸腺ノ邊痛ク侵サレ居タリ、左肺ノ全部及右肺ノ上部ハ纖維性肋膜

炎ニ侵サレ居タリ、氣管支腺ハ兩方共ニ乾酪質ニ變シ居タリ、脾臟及腎臟中ニ乾酪性ノ小結節アルヲ見タリ、腸胃ノ中ニ潰瘍ナルモノ更ニ之レナク又タ肺ニ空洞アルヲ認メス、疾患肋膜ヨリ腹膜ニ蔓延シ居タリ、腦膜ニ乾酪性結節アルヲ見タリ

第二例 年齢一歳ノ男兒、右扁桃核及頸腺ハ著シク乾酪質ニ變シ居タリ、右肺尖ハ靛カト固着シ居リ、氣管支腺ハ肥大シ、右方ハ乾酪質ニ變シ居タリ、肺、腹膜、肝臟、脾臟等ニ急性粟粒狀ノ結核アルヲ見タリ、又タ回腸中ニ結核性ノ小潰瘍一個、新タニ生シ居タリ

第三例 年齢十三歳ノ男兒、左方ノ上鎖骨腺ノ肥大シ且ツ乾酪質ニ變シ居ルヲ見タリ、左肺根ノ腺カ乾酪質ニ變シテ一塊トナリ延ヒテ肺尖ニマテ及ヒ居タリ、厚肋膜ニ多數ノ黃色結核アリ、左肺ニモ同シク黃色ノ結核アリ、右肺尖ニ小空洞アルヲ見タリ、此外根部縱隔膜ノ肥大シテ乾酪質ニ變シ居ルヲ見タリ

右第二例及第三例ハ第一例ト均シキ徑路ニ出テタルモノト謂ツヘキナリ、即チ均シク是レ扁桃核及下部ノ氣管ヲ經過シテ感染シ來レルモノト斷定シ得ヘキモノナリ

右ノ如キ理由ナルカ故ニ予ハ左記ノ如キ立論ニ對シテ同意ヲ表スルモノナリ、曰ククレベス氏及グローバ氏ノ説ハ所謂臆說ニシテ取ルニ足ラサルモノナリ、肺結核ナルモノ、上鎖骨腺ヨリ來レルコトハ極メテ稀レナリ、若クハ直接ニ上鎖骨腺ヨリ肺ヲ侵シ來レルコトハ決シテ之レナキナリ

結核病ハ、脛腺、ヨリ、上部、ノ、縱隔膜、腺、及、氣管支腺、マテ、侵シ、來レ、ル、ハ、如何

腺ノ肥大シテ乾酪質ニ變シタルモノカ連鎖狀ヲ爲シテ、乳頭突起ノ近傍ヨリ肺ノ根部ニ蔓延シ居ルヲ見ルハ決シテ珍ラシカラサルナリ、但シ左ノ如キ例外ノ場合ナクンハアラス、曰ク有効ナル試験ノ結果トシテ頸ノ根部ニ於ル病竈ハ、何等カノ刺激ニ依リテ或ハ昇リ或ハ降り行クヘキ事ヲ認識スル場合ノ如キ是レナリ、此等ノ場合ハ之ヲ例外トシテ其他ノ場合ニ於テハ其疾患カ下方ニノミ向ツテ蔓延スルヲ見ルコト多キニ居レリ、他所ハ姑ラク之ヲ差シ置キエヂンバルフニ於テハ然カ云フヲ得ヘキナリ

エヂンバルフニ於ルミツチエル氏ノ作業ハ實ニ人ノ耳目ヲ惹クニ足ルヘキモノト謂ツヘキナリ、即チ同市ニ於ル幼童カ扁桃核及頸腺ノ方面ヨリ結核病ニ罹リテ危險状態ニ陥ル、コトヲ同氏ノ見出シコト是レナリ、尙ホ之ヲ細言センニ同氏ハ左ノ如キコトヲ實驗シタリ、曰ク上部ノ深頸腺ノ結核ニ罹リタル幼童六十四名ヲ引續キテ解剖ニ付シテ其徑路如何ヲ研究シタル結果、内三九%ハ扁桃核ノ結核ニ侵サレ居タルコトヲ見出シタリ、其他臨床上頸腺ノ健康ナルモノ九十名ノ内解剖上扁桃核ノ結核ニ侵サレ居タルモノ六・五%ナルコトヲ見出シタリ、又タエヂンバルフノ幼童病院ニ於テ頸腺ノ結核病ニ侵サレタルモノ七十名ヲ検査シタルノ結果六五%乃至九〇%ハ牛の細菌ニ屬シ、人類細菌ニ屬シ居タルハ七%乃至一〇%ナルコトヲ見出シタリ、生後第二ケ年中ノ幼童ニシテ消毒セサル牛乳ニテ養育セラレタル者ノ結核病ニ侵サレタルハ八四%ノ多キニ達セリ、然レトモ消毒劑ノ牛乳ニテ養育セラレタル幼童六十五名ノ内肺結核ニ罹リタル

モノハ曾テ之レナキナリ、其他肺結核ニ罹リタル幼童ヲ實際調査シタルニ五〇%ハ地方ヨリ來リタルコトヲ知ルヲ得タリ、而シテ此等ノ地方ノ狀況如何ト云フニ都會市邑ト其趣ヲ異ニシテ、乳牛ニ對シテ獸醫學的監督ノ如キハ更ニ行ハレサリシナリ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ牛乳ノ良否ハ幼童ノ健康上ニ大關係アルコト得テ知ルヘキノミ。

レウキツス氏ノ説ニ曰ク頸部結核淋巴腺炎ニ就テ之ヲ云ハンニ、年齢十五歳以上ノ少年ノ五分ノ四ハ人類の細菌ノ感染ニ罹リ、同シク十五歳未満兒童ノ九分ノ七ハ牛の細菌ノ感染ニ罹レルモノナルコトヲ知レリ。

カーミツチエール氏及ステレス氏ハ頸腺結核ニ罹リタルモノニ就テ五十名ノ扁桃核ヲ研究セシカ、其結果トシテ内七名(一四%)ハ解剖學上結核病ニ罹リ居タル證據ヲ見出シタリ。

肺結核

肺ニ於ル局所結核ニ關聯シタル事ニ就テハ尙ホ未タ満足スヘキ定説アラサルナリ。

バクメースター氏及リウベン氏ハ左記ノ如キ試驗ヲ爲シタリ、曰ク南京兎ノ肺ノ上部ヲ壓搾シテ以テ尖頭結核ヲ生セシメ、長キ時間ニ亘リテ少數ノ結核菌ヲ之ニ投入シタリ、又タオースス氏ノ説ニ曰ク下肋間膜ノ色素ハ肋部ノ空間ニ聯絡セル部分ニ於テ最モ廣大ナルモノナリ、且ツ同一ノ局部ニ於テ從來ノ結核ノ病跡ヲ見ルヘキモノナリ、故ニ色素ノ如キ細菌ハ肺中細胞ノ動力最モ少キ箇所ニ停住スルモノト知ルヘシ。

ト、蓋シ同氏ノ結論ハ正確ナルモノト云ツヘキナリ、然レトモ予ノ經驗スル所ヲ以テ之カ斷定ヲ下サンニ、同氏ノ見解ハ尙ホ未タ精密ナルモノト云フヲ得サルナリ、所謂ル予ノ經驗スル所ハバーチツケ、アスコツフ、マーカンド等諸氏ノ所説ト一致スルモノニシテ、彼ノ色素ノ如キハ當初肋骨所在地ト聯絡スル部分ニ停住セルコトヲ唱道スルモノ是レナリ、此所説ノ確實ナルハ左記ノ事實ニ依リテ容易ク證明スルコトヲ得ヘキナリ、曰ク肺ノ肋膜ニ面スル部分ハ肋骨ノ壓迫ヲ受ケテ溝狀ヲ呈シ、嵩高ナル灰白色ノ肺臟化肝ヲ現出セルコト是レナリ。

ベンジャミン、ムール氏ハ左ノ如キ事實ヲ是認セリ、曰ク結核菌ノ選ンテ停住スル箇所ハ肺中酸素ノ最モ少ナキ場所是レナリ、セロツグ氏モ亦タ是レ其觀察ノ結果トシテ此見解ヲ賛成セリ、而シテセロツグ氏ハ左ノ如キ二個ノ實例ヲ示シタリ、曰ク動脈瘤ノ爲メ大氣管支カ壓迫ヲ受ケタルヨリ從ツテ其氣管支ニ聯絡セル肺ノ部カ結核病ニ罹レルモノ二人ヲ見出シタリ。

スフヘモール氏ハ第一肋骨ノ爲メニ肺尖ノ或ル部分ノ壓迫セラル、ト云ヘル説ハ誤解ニ出テタルモノナリトテ之ヲ非難セリ、然レトモ同氏ノ所謂ル溝狀ヲナセルコトハ常ニ肺尖結核ニアルヘキモノニアラス、ハート氏及フレウンド氏ノ自信セル説ニ曰ク第一肋骨ノ軟骨部カ化石シタランニハ、肺尖部面ノ官能カ妨害セラレテ終ニ結核病ヲ醸成スヘキナリト、然レトモスフヘールツ氏、スフヘール氏、レヴエツ氏等ハ右ノ如キ説ハ何等ノ實證ナキモノナリ、第一肋骨ノ軟骨部ノ化石スルハ畢竟スルニ肺尖部面ニ固質物ノ附着シ

タル結果ニ外ナラスト云ヘリ、今年齡中年以後ニシテ肺尖部面ノ化石シタルモノヲ死後解剖シテ視察シタル結果ヨリ之ヲ斷定センニ、肺ニ關係ナクシテ肺尖部面ノ然カナランハ聊カ疑フ所ナクンハアラス、肺葉ノ尖頭ノ近傍ニ結核ノ伏在スルハ果シテ如何ナル理由ナルカ尙ホ未タ明カナラス、是レ吾人カ左モアルヘシト許ス所ナリ、然レトモ是レ恐ラクハ肺中斯ル局所ノ空氣吸收作用上障礙ヲ生シタルコト大ニ與カリ居レリト謂ツヘク、且ツ幾分カハ吸收シタル空氣ト共ニ入り來レル何等カノ分子カ肺ノ上部ニ停住シタルニ基キシナルヘシ

今マ幼童ニ就テ之ヲ云ハンニ肺ノ或ル部分ニ凹窪狀ヲ呈スルコトアリ、乃チ肺ノ尖頭ニ於ルト同様ニ其下底ニモ之ヲ見ルコト珍ラシカラサルナリ

右ノ如ク肺中ニ凹窪狀ヲ呈スルコト生後幾干モ立タサル嬰兒ニ見ルコトアリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ言ハシニ予カ自カラ親シク取扱フタル患者中ノ一人ハ、生後僅カニ三ヶ月ニ過キスシテ斯ル症狀ヲ呈シ居タリ、幼兒ノ結核病ニ罹リタルモノニシテ稀レニハ臨床的變化ヲ生スルモノアリ、即チ其結核菌速カニ蔓延シテ危險状態ニ陥キラシムルカ如キコト是レナリ、然レトモ斯ク幼稚ノ時ト雖モ時ニ或ハ之ニ抵抗スルノ實證ヲ示シタルコトナクンハアラス、ゲーベル氏ハ生後僅カニ三ヶ月ノ嬰兒ニシテ其肺中ニ結核病竈ヲ生シ六ヶ月ニ至リテ化石トナレルコトヲ見出シタリ、斯クテ予ハ自カラ左記ノ如キ事實ヲ見出シタリ、曰ク生後二ヶ月半ニシテ舊キ空洞アルコト、同シク四ヶ月ニシテ肺中ニ舊キ硬質ノ乾酪性ノ病竈アルコト、同シ

ク五ヶ月ニシテ臨床的結核性肋膜炎ニ罹レルコト、同シク九ヶ月ニシテ氣管支腺ノ化石トナレルコトヲ見出シタルコト是レナリ

癆癆、或ル場合ニ於テハ乾酪性根腺ヨリ直接ニ肺ニ蔓延スルコトハ全ク正確ナル事實ナリト思ハル、而シテ彼ノ癆癆ノ如キハ右ノ結果中ノ一ト謂ツヘキナリ、スラツフヘンハイゲン、レオン、レスレー、ジヨルダン等ノ諸氏及其他ノ人モ此問題ニ關シテ討論スル所アリシカ、此等ノ病理學者ハ皆ナ是レ右ノ事實ヲ證セシハアラス、ゲーベル氏ハ肺結核中ノ或ルモノハ氣管感染ニ基ツケルノ觀ナクンハアラスト云ヘリ、エリツヒ、スリウカ氏ハ「エツキス」光線ノ力ヲ借りテ三十七名ノ患者ニ就テ右ゲーベル氏ノ所説ノ確實ナルコトヲ證明シ得タリ、而シテジヨルダン氏レスレー氏ハ共ニ是レ「エツキス」光線ハ察病上大ニ必要ナルコトヲ認メ得タリト云フ

結核病退治ニ關スル保險事業ノ効果

フランケル氏ノ説、紐育

一千九百年七月英國ニ於テ結核豫防會議ノ開催セラレタル時、米國ノ保險會社ノ一員タルドクトル、フレデリック、エル、ホツフマン氏ハ一ノ書類ヲ朗讀シタリシカ終ニ左ノ如キ結論ヲ爲シタリ、曰ク工業保險會社ノ立場ヨリ之ヲ觀ルニ結核患者ヲ收容スルノ目的ヲ以テ療養所ヲ建設シ且ツ之ヲ維持シ行カン事ハ、經濟上不可能ノ事ニ屬シ尙ホ其他不便利ナル所アリト云ハサルヘカラス、又タ同氏ノ説ニ曰ク工業保險會

社ハ其被保險者ヲシテ療養所ノ恩澤ニ浴セシムルノ時機全クナキニアラサルヘシ、蓋シ其時機ハ餘リニ遠キ將來ニアラサルヘシト、又々同シク英國ノ結核豫防會議ノ際サー、ジョン、バルデン、サンダーソン氏ハ其自説ヲ述ヘテ曰ク、日耳曼國ニ於テ發達シタルカ如キ保險制度ハ英國若クハ米國ニ於テ實行セラルヘキモノニアラス、且ツ個人トシテノ被保險者ノ結核病ニ罹リタルモノニ對シテ如何ナル方法カ取ララル、トモ、有志者ノ計畫ニナレル保險會社ノ力ヲ借ルニアラサレハ其効果ナカルヘシ

英國カ前述セル結核豫防會議以後急進的手段ニ出テ、國家的疾病保險條例ヲ制定スルニ至リタルハ、實ニ世人ノ耳目ヲ惹クニ足ルヘキモノト云ツヘキナリ、抑モ此法律制定ノ精神ハ英國ノ勞働者ノ疾病及無職ニ關スル保險ヲ主トスルモノニシテ、其他結核病療養所ヲ建設シテ該病根絶ノ趣意モ此内ニ含マシメタルモノト知ルヘシ

一千九百一十一年十一月紐育州ニ於テ第二慈善感化會議ノ開催セラレタル時、當記者ハ一ノ書面ヲ朗讀シタリ其大意ニ曰ク、今マ一方ヨリノカ觀察ヲ下サンニ今マ合衆國ニ於テ強制的疾病保險制度ヲ設ケ、尙ホ此内ニ結核病治療ニ關スル適當ノ方法ヲモ含マシメントスルハ、到底實行シ得ラルヘキモノニアラス、又々他方ヨリ之ヲ見レハ結核病保險制度ノ設ケラル、コト全ク望ミナキニアラサルナリ、結核病保險ノ問題ニ就テ日耳曼國ノ記者達カ著述シタルコト一ニシテ足ラサルナリ、中ニ就テ最モ著名ナリシハ一千九百九年ニ於ル「ガンザー」、ホン、マルチニデ氏ノ著書『結核病』及同年一月和蘭國ノ保險會社ニテゼー、ウエルナー氏

ノ講述セラレタルカ如キモノ是レナリ、而シテマルチニデ氏カ結核病保險ヲ唱道セララル、ニ就テ其論旨トスル所ノ大要ヲ擧ケンニ曰ク、結核病ニ侵サレ易キ人民ノ大部分ハ日耳曼國ノ職工保險條例ニ該當スヘキモノニアラス、從ツテ國立保險制度ニ基キテ建設セラレタル結核療養所ニ收容スルコト能ハサルナリ、此ニ於テカ此等缺陷ヲ補ハシカ爲メニ適當ノ方法手段ナルヘカラス、即チ所謂工業保險ノ如キ保險會社ヲ設立シテ結核患者ヲ治療スヘキ方法ヲ設ケルコト是レナリ、又タウエルナー氏カ和蘭ノ保險會社ニ於テ演説セラレタル主意ニ曰ク、生命保險ト結核病保險ト一致合同セシムルコトハ實際行ハレ得ヘカラス所ナリ、サレハトテ生命保險會社ハ結核病保險會社ヲ設立スルニ就テ更ニ力ヲ費スヲ要セストノ主義ニハアラサルナリ、蓋シ生命保險會社カ相當ノ助力ヲ與フルニアラスハ結核病保險ヲ成リ立たシムルコト能ハサルナリ、生命保險ト結核病保險トハ元來其性質ヲ異ニシタルモノナレトモ、結核病保險ニ至リテハ他ノ力ヲ借ルニアラスハ殆ント成立スルコト能ハサルモノナリ

右ノ如キ論旨カ一タヒ發表セラレシ以來歐羅巴ニ於テ保險會社ノ多數カ結核病保險ノ或ル形式ヲ成立セシムヘキ計畫ヲ爲スニ至リタリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ示サンニ瑞典ストツクホルムニトリツグ生命保險會社ナルモノアリ、試ミニ此會社ト一致聯結シタル結核病保險ナルモノヲ組織シタリ、今マ其詳細ナルコトニ就テ之ヲ言ハンニ左ノ如シ、曰ク工業保險契約者ニシテ通常ノ保險料ノ外ニ一週間毎ニ五「オーレ」最少額通貨ノ名)乃至十五「オーレ」ヲ納付シ(年齢別ニ從ツテ納付金ニ差アルモノト知ルヘシ)其保險ノ金額五

百「クローン」(一「クローン」ハ我五拾錢餘ニ當ル)ナリトセンカ、斯ル保險契約者ハ結核保險ノ資格ヲ有スヘキモノトス、斯ル保險契約者ニシテ其契約期限中ニ其保險會社ニ於テ醫師ノ診察ヲ受ケタルカ如キ場合アリトスルモ其保險期限ヨリ一ヶ年前ニ其保險金ノ全部ヲ受取リ得ヘキナリ、若シ又タ僅カニ一回タモ其保險期限中ニ斯ル診察ヲ受ケタルコトナシトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其保險期限ヨリ二ヶ年前ニ其保險金ノ全部ヲ受取リ得ヘキナリ、尙ホ其他斯ル保險契約者ニシテ結核病ニ罹リタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ(イ)直チニ會社ヨリ患者ニ二百五十「クローン」ヲ拂ヒ渡サル、カ、若クハ斯ル患者ヲ結核患者療養所ニ入レテ會社ヨリ此金額ヲ前拂トシテ治療セシムヘキモノトス、而シテ保險證書ノ額面ヲ減シテ二百五十「クローン」トナサンコトヲ要ス、(ロ)斯ル保險契約者ハ其疾病ノ初期ヨリ其終期ニ至ルマテ更ニ保險料ヲ拂ヒ込ムヲ要セス

其他ストツクホルムニテウル保險會社ナルモノアリ、前者ト均シク結核保險ノ制度ヲ組織シタリ、今マ其保險組織ノ計畫ニ就テ同保險會社々長ノ云フ所ヲ舉クレハ左ノ如シ、曰ク斯ル保險契約者ニシテ契約ヲ爲セシヨリ二ヶ年ヲ經過シテ後結核病ニ罹リタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ當保險會社ハ此患者ヲ適當ナル療養所ニ送付シテ治療セシムヘキモノトス、而シテ之ニ要スル費用ノ半額ハ全ク會社ノ負擔ニ屬スルモノトス、然レトモ此等ノ事ニ關シテ稍ヤ制限スル所ナクンハアラス、即チ其費用ノ如キ一日ニ就キニ「クローン」ヲ超過スルヲ許サス、又タ其治療日數ノ如キ百八十日以上ニ至リテハ會社ノ負擔タラサ

ルモノトス、且ツ當會社カ斯ク結核病ニ就テ保險スルハ左ノ如キ療養所ニ限ルヘキモノトス、曰ク國家或ハ市府ヨリ補助セラル、療養所ニシテ瑞典、諾威、丁抹若クハ芬蘭内ニ在ルモノニ限レルコト是レナリ、又タ保險會社ニ對シテ治療費支出方ヲ要求セン場合ニハ、必ラス其療養所擔任ノ醫師ヨリ左ノ如キ證明書ヲ提出セサルヘカラス、曰ク此患者ハ治療ノ結果恢復ノ見込アルコトヲ證明スト

又タ芬蘭ニフヘシニア生命保險會社ナルモノアリ、結核保險問題ニ就テ一種ノ解決ヲ與ヘタリ、抑モ此生命保險會社ハ將ニ特種ノ療養所ヲ建設セントセリ、蓋シ保險契約者ニシテ普通ノ生命保險料ノ外ニ若干ノ保險料ヲ納付シタランモノハ、結核病ニ罹リタル時右ノ療養所ニ收容サレ別ニ治療費ヲ要セスシテ治療セラル、コトヲ得ヘキモノトス、此療養所ハ目今差シ當リノ所二十名ノ患者ヲ收容スルニ足ルヘキ寢臺ノ備付アリト雖モ、行クハ之ヲ増加シテ五十名ノ患者ヲ收容スルニ足ルヘキ餘裕アリト知ルヘシ、保險契約者ニシテ結核ニ罹リタル場合右ノ療養所ニ入りテ治療ヲ受ケント欲セハ、一週ニ付少ナクモ二十五「ペンニー」ノ保險料ヲ納付セサルヘカラス、即チ保險證書ノ額面芬蘭ノ通貨ニテ少ナクモ、一千「マーク」ナラサルヘカラス、斯ル保險契約者ハ保險會社附屬ノ療養所若クハ芬蘭國內ナル其他ノ療養所ニテ費用ヲ要セスシテ治療セラル、コトヲ得ヘシ、但シ其治療期間ハ百三十五日ヲ踰ヘサルモノトス、苟クモ被保險者ニシテ通常ノ保險料ノ外ニ追加保險料ヲ納付シタランモノハ、或ル場合ニ於テ一日ニ就キ五「マーク」乃至十「マーク」ヲ給與セラル、コトアルヘシ、若シ又タ彼ノ療養所カ滿員ニシテ被保險者タル患者カ其自

宅ニテ療養スル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ會社ヨリ一日ニ就キ四「マーク」乃至五「マーク」ツ、ヲ給與セラル、モノトス、但シ療養所ニ缺員ノ生シタランニハ直チニ療養所ニ送付セラレンコトヲ要ス、又タ斯ル被保險者ニシテ結核病ニ罹リタランニハ、一ケ年間保險料拂込ヲ免除セラル、モノトス

和蘭國ニウキツト、ゼネラル生命及疾病保險會社ナルモノアリ、此保險會社ハ一千九百十年二月生命保險事業ト相關聯シテ結核保險事業ヲモ營ムコト、セリ、今マ此結核保險ノ概略ニ就テ之ヲ云ハニ、年齢三十歳マテノモノナランニハ通常生命保險料ノ外ニ一週毎ニ追加保險料トシテ二「ギユルデン」(「一ギユルデン」ハ我八十錢餘ニ當ル)半ヲ、三十歳以上ナランニハ同シク一「ギユルデン」半ヲ納メタリトセンカ、サスレハ斯ル被保險人ノ結核病ニ罹リタル場合ハ此保險會社ヨリ一百「ギユルデン」ヲ拂ヒ渡サルヘキモノトス、尙ホ被保險人ニシテ追加保險料ヲ今マ一層多ク納付シタランニハ、其結核病ニ罹リタル時從ツテ一層多クノ保險金ヲ受ルコトヲ得ヘシ、然レトモ結核保險金ニ就テハ制限セラル、所ナクンハアラス、即チ如何ナル場合ト雖モ此保險會社ヨリ結核保險金トシテハ二百五十「ギユルデン」ヲ踰ユヘカラサルコト、セリ、且ツ此結核保險金ノ最高額ヲ受クヘキ被保險人ハ生命保險金ノ額面一千「ギユルデン」ヨリ以上ノモノニ限ルヘキコト、セリ、又タ此結核保險金ナルモノハトリツグ保險會社ノ場合ト同様ニ、被保險人ニ拂ヒ渡スト均シク其保險證書ノ額面ヨリ引キ去ランコトヲ要ス、而シテ通常ノ保險金ハ普通ノ拂渡期限ヨリ一ケ年前ニ受取り得ヘキモノトス

今マ予カ親シク確知シ得タル所ニ據レハ歐羅巴洲中結核保險問題ヲ善ク解決シタル生命保險會社ハ僅カニ右ノ數者アルノミ

合衆國

合衆國中ニ生命、健康若クハ變災ニ關スル私立保險會社ナルモノ數多之レアリト雖モ、此等ノ會社中特別ニ結核保險ナルモノヲ組織セント計畫シタルモノ未タ曾テアラサルナリ、所謂工業衛生及變災ニ關スル保險會社ノ數ハ殆ント八十アリ、其保險料ハ概ネ一週間拂ニシテ疾病或ハ變災ニ際シテ若干ノ保險金ヲ得ヘキ仕組ナルカ、此内結核病ノミニ關スル保險組織ナルモノハ未タ曾テ計畫サレサリシナリ、但シ此等ノ會社中ノ數者ハ其被保險人ニシテ結核病ニ罹リタル場合ニ於テ規定ノ保險證書ニ基キテ疾病保險金トシテ若干ノ金圓ヲ給與スルコト之アリト雖モ、其之ヲ實行スルニ至リテハ其間甚ハタシキ差ナクンハアラス、蓋シ此等ノ會社ノ大半ハ其被保險人ニシテ結核病ニ侵サレタル場合ニ際シテハ、其保險金拂渡期限前ニ之ヲ拂ヒ渡スカ或ハ其保險金中ノ僅カニ一部分ノミヲ拂ヒ渡スコト往々ニシテ之レアリ

合衆國中ニテハ結核保險ノ原理ニ關シテ概シテ無頓着ナルコトハ明カナル事實ナリ、然レトモ學者ニシテ此原理ヲ廣ク普及セシメンカ爲メ時々之ヲ筆ニシテ世ニ公ニシタルモノ蓋シ少ナカラサルナリ、中ニ就テドクトル、エッス、アドルフス、ノツフ氏ハ一書ヲ著ハシテ名ケテ「結核病豫防ト關聯スル生命保險」ト云フ、而シテ同氏ハ一千九百九年六月アトランチック市ニ於テ開催サレタル米國醫學實地試驗協會ニ臨ミテ

結核保險ノ必要缺クヘカラサルコトヲ講演シタリ、復々同氏ハ其後一千九百十二年華盛頓府ニ於テ開催サレタル米國公衆衛生協會ニ臨ミテ一場ノ講演ヲ爲シタリ、蓋シ其講演ノ趣旨トスル所ハ其著書タル『合衆國ニ於ル結核病對滅戰ノ最新問題及最新論旨』ノ摘要ニ係ルモノ是レナリ

一千九百十年結核病研究及豫防國民協會カ第六回ノ年會ヲ開催シタル時、此報告ノ記者タル自分ハ同會ニ臨ミテ一場ノ講演ヲ試ミタリ、而シテ其講演ノ主眼トスル所ハ『結核保險』ト題スル一書ノ概要ニシテ、生命保險會社カ結核保險ニ對シテ是レマテ如何ニ無頓着ナリシカ、其無頓着ナル理由ニ就テ聊カ述ル所アリシカ、今マ其講演中ノ一斑ヲ摘ミ來リテ開陳セント欲ス左ノ如シ

『今マ予カ冒頭第一ニ述ヘント欲スル所ハ他ニアラス、凡ソ私立保險會社ナルモノハ其工業保險ナルト通常保險ナルトヲ間ハス、其被保險人ノ結核病ニ罹リタル時之ヲ保護シ之ヲ救助スルノ方法手段ヲ取りタルモノ曾テ之レアラサルナリ、而シテ斯ル方法手段ノ曾テ之レナキハ何等カノ理由アリテ然ルカト云フニ確乎タル理由之レナシト斷言スルコト是レナリ、然レトモ是レマテ結核病保險ノ行ハレサリシコトニ就テハ實際左モアルヘシト思ハル、點ナキニアラス、今マ其一ニヲ左ニ掲ケント欲ス、從來生命保險會社ノ被保險人ニシテ更ニ結核病保險ニ入ラント欲セハ、必ラス追加保險料ヲ納付セサルヘカラス、追加保險料ノ負擔ニハ到底耐フヘカラストノ觀念ヲ抱キテ或ハ躊躇シタルモノアリシナルヘシ、其他生命保險會社ヨリ結核病保險ヲ爲スヘキ旨廣告スル場合アルモ、之ニ應スルモノ殆ント之レナキコトアリ、蓋

シ其之ニ應セサルモノ、意見ニ曰ク我々ノ家系ハ祖先ヨリ以來立派ナルモノニシテ病弱ナルモノ曾テ之レナク、且ツ自分ノ身モ極メテ健全ナルモノナレハ結核病杯ニ侵サル、ノ恐レ毫モ之レナキナリ、故ニ我々ハ結核病保險ニ加入スルノ必要ヲ見サルナリト、斯ル事實モ或ハ之レアリシナラン、然レトモ他ノ方面ヨリ之カ觀察ヲ下セハ大ニ然ラサル所ナクンハアラス、即チ私立生命保險會社ノ被保險人中男女老幼間ハス體質遺傳的虛弱ニシテ疾病ニ罹リ易シト自覺セルモノアリ、過去ニ於テ既ニ疾病ニ侵サレタル事實アリ、現在ノ健康甚ハタ宜シカラス從ツテ將來結核病ニ罹リ易シト自カラ思惟スルモノアリ、或ハ既ニ斯ル患者トナルヘキ道途ニ就キ居レリト自信セルモノアルヘシ、蓋シ被保險人中斯ル種類ニ屬スルモノ多數ナルヘシ

生命保險會社中或ハ結核病保險事業ヲ計畫スルモノ之レアルモ、尙ホ是レ駭カニ會社自カラノ利益ヲ計ラスンハアラス、試ミニ其實例ヲ左ニ掲ケン、第一、斯ル被保險人タランコトヲ出願スルモノアラン場合ニハ、先ツ醫師ノ嚴重ナル診察ヲ受ケサルヘカラス、體質ノ甚ハタ宜シカラサルモノハ此診察ニ落第セサルヘカラス、第二、總テノ被保險人ハ一定ノ特別期間即チ六ヶ月間、一ケ年間若クハ二ケ年間保險料ヲ納付シタル後ニアラスンハ、其保險證書面ニ記載サレタル若干ノ保險金ヲ受取ルコトヲ得ス、第三、保險證書面ニ記載サレタル期限ニ先キタチテ保險金ヲ受取ラント欲スルカ、若クハ治療ヲ受ケント欲スル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其保險金ヲ幾千カ減額シテ之ヲ渡スカ、若クハ治療期間

ヲ幾干カ短縮シテ治療セシムヘキモノトスト、斯クノ如キ規定ハ保險會社側カラ之ヲ觀レハ充分ナリト雖モ、結核病療養ノ目的ヲ達スルコト能ハサルナリ、尙ホ之ヲ詳言センカ右ノ如キ規定ニテハ最モ結核病ニ侵サレ易キ人ハ到底被保險人タルコト能ハサルナリ、又タ引續キテ療養セラルヘキ必要アル患者モ之ヲ中止セサルヘカラス、其他被保險人ニ取リテ療養以外ノ利益ノ減少、即チ其疾病中其家族ニ補給セラレヘキ金圓ヲ減少セラル、カ如キコト是レナリ、斯クノ如キ有様ニテハ結核患者ノ回復ヲ沮碍スルニ過キスト謂ツヘキノミ

今マ其レ保險會社ニシテ其被保險人ノ疾病ヲモ保險スルコト、ナシタランニハ、其被保險人カ實際疾病ニ罹リ居ラサルニ之ニ罹レリト僞リ稱シテ保險金ヲ受取ラント欲スルモノアリ、之カ爲メニ會社ハ甚ハタシキ損害ヲ蒙ラスンハアラス、是レ疾病保險ニ伴フ一ノ弊害ナリトノ説ヲ立ルモノアリ、或ハ斯ル事モアリ得ヘキコトニ相違ナカルヘシ、然レトモ保險會社ニシテ假リニ結核病ノミニ限リテ保險スルコト、ナシ他ノ疾病ニ對シテハ一切保險セサルコト、ナシタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ好シ右ノ如キ損害アリトスルモ其損害ノ如キハ極メテ僅些ナルモノニシテ毫モ意トスヘキモノニアラサルナリ、試ミニ見ヨ今日ニ至リテハ結核病ナルモノハ其病症善ク判明セラレテ、普通ノ開業醫ニテモ決シテ其診斷ヲ誤ラサルナリ、但シ最モ早期ニ屬スル結核病ハ此限ニアラス、斯ル次第ナルカ故ニ被保險人ノ僞リテ結核病ニ罹レリト稱スルカ爲メニ會社ノ損害トナルヘキコトハ僅些ナリト謂ツテ不可ナカルヘシ

合衆國ニ於テハ結核病保險ニ關シテ如何ナル形式モ曾テ組織セラレタルコト是レナキナリ、是レ事實ノ證明スル所ニシテ亦タ疑フヘカラサルナリ、一千九百九年ニ於テ都府生命保險會社カ最モ慎重ノ態度ヲ以テ一ノ問題ヲ講究シタルコトアリ、所謂ル其問題トハ同會社ノ被保險人及社員ノ爲メニ療養所ヲ設ケテ病者ヲ治療セント欲スル問題是レナリ、抑モ此保險會社設立ヲ許可シタルハ紐育州ノ官憲ナルカ、同州ノ法律ニテハ斯ル保險會社ハ事務所用ニ充ルモノ、外不動産ヲ所有スルコトヲ許サ、ルナリ、斯クテ右保險會社ヨリ一ノ療養所ヲ建設スルニ必要ナル不動産ヲ購入致シ度ニ付御許可相成度云々ノ願書ヲ保險事業監督官ノ許ヘ差出シタルカ、該監督官ハ法律ノ許サ、ル所ナレハ願意ノ趣聞キ届ケ難シトテ却下シタリ、然ルニ右保險會社ハ右監督官ト好意的協商ヲ遂ケタル後右裁決ヲ不當ナリトシテ紐育高等法院ヘ起訴シタリ、而シテ此高等法院ハ之ニ對シテ一種ノ趣味アル判決ヲ與ヘタリ、其判決ニ曰ク一ノ團體ハ其團體ノ事務ヲ取扱フ者ノ疾病ニ罹リタル場合ハ、管ニ之ニ對シテ相當ノ救護策ヲ施コスヘキ權利ヲ有スルノミナラス、當ニ然カ爲スヘキ義務ヲ有スルモノトスト、然レトモ此判決中ニハ左記ノ如キ意味ヲ含ミ居ラザリシナリ、曰ク一ノ保險會社ニシテ其被保險人ノ疾病ヲ治療センカ爲メ一ノ療養所ヲ建設セントスルノ際、相當ノ不動産ヲ購入スル權利ヲ有シ居レリトナスコト是レナリ

全ク近年ニ至リテ合衆國ニ於ル生命保險會社中極メテ注意ヲ密ニシテ人命保持問題ヲ研究シタルモノ決シテ少ナカラザリシナリ、而シテ年一年斯ル問題ヲ研究スルノ結果益々其利益ノ多キコトヲ知ルニ至レリ、

今マ實例ヲ舉ケテ之ヲ云ハンニエクキテ一ブル生命保險會社及ボスタル生命保險會社ノ如キハ既ニ數年間人ノ健康問題及之ニ附帶シテ結核問題ニ關スル印刷物ヲ一々其被保險人ニ配布シタリ、又タ紐育市生命保險會社ハ其工業的被保險人ニ對シテ秩序立チタル行動ヲ取ルニ至リタリ、即チ其被保險人タル團體ヲシテ相當ノ教育ヲ受ケシメタランニハ、其死亡數大ニ減少スルニ至ルナラントノ信念ヨリ之ヲ教育スルノ方針ニ向ツテ行動ヲ取リタルモノ是レナリ、抑モ同會社ノ目的トスル所ハ理財上ニアルニアラス、畢竟スルニ人ヲシテ長壽ヲ保タシメ死亡數ヲ減少セシメント欲スルニ外ナラス、今マ其之ヲ實行スル方法ニ就テ之ヲ言ハンニ同會社ノ被保險人中疾病ニ罹リタルモノアラシキ場合ニハ、資格ヲ有スル看護婦ヲ派遣シテ適當ノ看護ヲ爲サシメ、之ニ加フルニ日常注意スヘキ衛生事項ヲ懇切ニ訓諭シ、生活狀態ヲ一層高カラシメントスルコト是レナリ、斯ク會社ヨリ看護婦ヲ派遣シテ病者ヲ看護セシメ且ツ衛生事項等ヲ訓諭セシムルニ就テハ、被保險人ヲシテ左ノ如キ觀念ヲ懷カシムルコトヲ得ヘシ、曰ク保險會社ノ長及其他ノ役員等ハ平生保險料ヲ集蒐シ及死亡者アリタル場合保險金ヲ支出スルノミノ義務ヲ有スルモノニアラス、併セテ我々ノ疾病ヲモ救護スルモノナリト、獨リ巡回看護婦ニ依リテノミナラハ尙ホ其他ノ機關ニ依リテ左記ノ如キ事柄カ實行サル、ニ至リタリ、曰ク勞働社會ノ大多數ノ家庭ヲシテ從來ニ比シテ一層愉快ヲ増サシメタル事、衛生狀態如何ヲ一層善ク知ラシメタル事、生計上ノ危害困難ニ對シテ自分及其家族ヲ保護防衛スルノ途ヲ一層能ク知ラシメタル事ノ如キ是レナリ、保險會社ニシテ右ノ如キ行動ヲ取リタルカ爲メ管ニ死亡率

ヲ減少セシメ從ツテ被保險人ノ死後保險金ノ支出額低減シタルノミナラス、此行動タルヤ利他主義ニシテ人道ニ適シタルモノト謂フヘキナリ、又タ生命保險會社側ノ自カラ信スル所ニ曰ク其被保險人ヨリ少額ノ保險料ヲ拂ハシメテ以テ之カ利便ヲ計ルコト少ナカラスト

生命保險會社カ勞働的被保險人ニ對シテ右ノ如キ行動ヲ取リタル所以ハ實ニ明白タラスンハアラス、今日勞働者タル男女及幼童ヲ併セテ都府生命保險會社ノ被保險人トナリ居ルモノ、總數ハ一千一百万以上ニ達セリ、而シテ一千九百二十二年中ニ右保險會社ヨリ死亡シタル被保險人ノ爲メニ支出シタル總金額ハ一千八百十二萬零五百八十二弗ノ多額ニ達シタリ、内此總金額ノ殆ント二〇%ハ結核病ノ爲メニ斃レタル被保險人ニ拂ヒ渡サレタリシナリ、然ルニ今マ假リニ結核病ノ爲メニ斃ル、被保險人ノ數カ幾千カ減少シタリトセンカ、久シキ年月ニ亘レル内從ツテ保險金支出額モ減少スヘキハ數ニ於テ明カナル所ナリ、既ニ保險金支出額ニ於テ減少シタリトセンカ、勞働社會ノ保險料モ從ツテ自カラ減少スヘキナリ、是レ獨リ結核病ノミ然ルニアラス、其他ノ疾病ニ於ル場合モ亦タ然ラスンハアラス、勞働者中ニ死亡率ノ甚ハタ高キハ果シテ何ニ原因スルヤト云フニ、其日常從事スル職業ト其生活狀態ノ不衛生的ナルニ基カسنハアラス、即チ其職業上ノ危險ナルト其生活狀態ノ不衛生的ナルヨリ其活力ヲ減損シ從ツテ其生命ヲ短縮セシムルモノ是レナリ、如何ナル時代ヲ問ハス下等勞働者ノ死亡率ハ所謂中等普通ノ階級ノ人ニ比シテ一層高キハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ

都府生命保險會社ハ一千九百九年ニ於テ右ニ述ヘタルカ如キ下等労働者ノ悲惨ノ有様ヲ改良センカ爲メニ左ノ如キ方法ヲ取りタリ、曰ク結核病ノ原因、豫防及治療等ニ關シテ極メテ文章ヲ平易ニシ、何人ニテモ讀ミ易キ様書キ綴リタル一枚摺ノ印刷物ヲ廣ク労働社會ノ被保險人ニ配布シタルコト是レナリ、此等ノ印刷物ノ第一ニ配布セラレタルモノハ『肺病トノ戰爭』ト命名セラレタルモノナリシカ、最モ廣ク配布セラレタルモノニシテ其數五百萬以上ニ達シタリ、而シテ此印刷物ニ次テ配布セラレタルモノハ、合衆國ニ於テ結核病ノ治療ヲ主トスル療養所、病院及其他ノ團體ニ係ル一覽表是レナリ、斯クテ第三ニ印刷セラレタル一枚摺ハ『外氣中ニ於ル棲息及睡眠ニ就テノ案内』ト命名セラレタルモノニシテ、是レハ療養所ニ入ルコト能ハサルモノカ其家庭ニアリテ適當ノ治療ヲ爲シ得ヘキ方法手段ヲ平易ニ示シタルモノト知ルヘシ、同保險會社ハ此外年四回發兌ノ雜誌ヲ有シ其雜誌中ニハ特ニ『衛生』ト云ヘル一欄ヲ設ケテ毎號衛生上注意スヘキ事柄ヲ掲ケテ被保險人タル讀者ニ提供スル等注意ヲサシ、怠ラサリシナリ、尙ホ最近ノ事ナルカ同保險會社ハ其被保險人中年齡六歳以上十四歳マテノモノヲシテ『健康及幸福組合』ナルモノヲ組織セシメタルカ、之ヲ組織セシメタル當初組合員既ニ十萬人ノ多キニ達シタリ、蓋シ此組合員タラント欲スルモノハ先ツ左記ノ如キ誓約書ニ自カラ調印セサルヘカラス、曰ク決シテ席上ニ唾ヲ吐カサルコト、決シテ普通ノ酒盃ヲ手ニセサルコトヲ誓フ、是レ他ナシ此等ノ二者ハ結核病蔓延ノ媒介タレハナリト

右保險會社カ結核病ニ基ツケル死亡率ヲ減少セシメンカ爲メニ取りタル行動一ニシテ足ラスト雖モ、中ニ

就テ最モ重要ナル行動ハ巡回看護婦制度ヲ設ケタルコト是レナリ、蓋シ此巡回看護婦制度ナルモノ今日ニ至リテハ最モ大ニ擴張セラレ、合衆國及加奈太ニ於ル都會市府ニシテ此制度ヲ用フルノ數一千六百二十五ノ多キニ達シタリ、而シテ一千九百十一年中及一千九百十二年ノ前半六ヶ月中ニ於ル巡回看護婦ノ關係セ

都府生命保險會社
結核病患者ノ表解、巡回看護婦ノ行動

肺 結 核	患 者	看 護 婦 ノ 巡 回	
		全 數	每 患 者 ニ 就 テ ノ 巡 回 數
肺 結 核	數	數	數
其 他 ノ 結 核 病	二、八四三	三、七、六五四	六、二
結 核 病 全 部	四、五、六	九、九、八六	一、六
	三、二九九	四、七、六四〇	七、七
		百 分 比 例	百 分 比 例
		四、五	四〇、五
			一、八、八
			一、五、五弗
			一、三、七弗

死 亡	保 險 金 平 均 額
死 亡	數
其 他 ノ 結 核 病	九、九、八
結 核 病	七、五
	百 分 比 例
	四〇、五
	一、八、八
	一、五、五弗
	一、三、七弗

結核病全部	一、〇七三	六七・五	四五〇	一五三弗
-------	-------	------	-----	------

肺結核	保 險 期 間			
	三ヶ月未満	三ヶ月以上六ヶ月未満	六ヶ月以上一歳未満	一歳以上
肺結核	七八	九二	一七六	四八四
其他ノ結核	一七	一四	三六	一一四
結核病全部	九五	一〇六	二一二	五九八
				三三八
				六六
				九三六
				一〇六九

一千九百二十二年ノ前半六ヶ月間

肺結核	患者	巡		回
		全數ノ百分比例	數	
肺結核	一、九七一	三・六	二、三、四、五〇	五・五
其他ノ結核	四一六	〇・八	七、四九一	一・八
結核病全部	二、三八七	四・八	三〇、九四四	七・三
				一三・五
				一・二、四
				一八・五
				一三・五

其他ノ結核病全部	七〇	一七・三	一三六弗
結核病全部	七八〇	三四・一	一五三弗

肺結核	保 險 期 間			
	三ヶ月未満	三ヶ月以上六ヶ月未満	六ヶ月以上一歳未満	一歳以上
肺結核	四九	五六	一三〇	三七三
其他ノ結核	一六	一五	三〇	一〇五
結核病全部	六五	七一	一六〇	四七八
				三三五
				六〇
				四七五
				一〇〇
				一〇〇
				七一二

右ニ掲ケタル被保險人ノ多數ハ或ル事情ノ爲メニ療養所ニ入りテ治療ヲ受クルコト能ハサルモノ、若クハ療養所ヨリ退キ來リシモノト知ルヘシ、既ニ斯ル次第ナルカ故ニ巡回看護婦カ初メテ訪問シタル時、其病勢餘程進ミタルモノ多キニ居レルハ復タ争フヘカラサル事實ナリシ

抑モ巡回看護婦ノ効果如何ヲ知ラント欲セハ事物ノ順序トシテ一言説明スル所ナクシハアルヘカラス、保險契約書中ニハ被保險人ニシテ巡回看護婦ノ利便ヲ受クヘキコトハ明記シアラサルナリ、然レトモ被保險人ヨリ願望スル場合ニハ保險會社ヨリ無料ニテ巡回看護婦ヲ派遣スルコト、セリ、元來此巡回看護婦派遣ノ事ハ急性の疾病ニシテ患者ノ狀況如何ニ基ツケルモノナリシカ、偶然ノ事ヨリ専ラ結核患者ノ許ヘ派遣セシムルコト、ナリシカ、後ニハ急性のナラサル疾病ニ罹レル者マテモ看護セシムルコト、ナレリ、生命

保險會社ノ被保險人ニシテ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ會社ヨリ派遣セシムル看護婦ハ、皆ナ是レ看護婦學
 校ニ入りテ全科ヲ練習シ了リテ之カ卒業證書ヲ受ケタルモノニ限レリトス、尙ホ之ニ加フルニ社交上ニモ
 相當ノ經驗アリ、殊ニ醫學上及社交上ノ見地ヨリ結核病ニ關スル意見ヲ有シ居ラサルヘカラス、此外看護
 婦カ被保險人ノ家庭ニ入込メル場合ニ於テ其心得置クヘキ事ニ就テ二三ヲ掲ケンニ、其被保險人タル患者
 ヲ看護スルハ固ヨリ云フマテモナク、其患者ノ家庭ノ有様ヲモ出來得ヘキ丈ケ改良セシムヘキ様勤メサル
 ヘカラス、患者ニ對シテ疾病ヲ平癒セシメンカ爲メニハ食物其他爾カノノ衛生上ニ關シテ注意ヲ怠タル
 ヘカラサル旨ヲ懇ロニ訓諭シ、又家族中他ノ者ニ傳染セシメサル様斯クノ豫防法ヲ施コサ、ルヘカラ
 サルコトヲ教示スルカ如キコト是レナリ、而シテ斯ル看護婦ニシテ同一ノ患者ヲ訪問スルコト久シキ時月
 ニ亘ルコト往々ニシテ是レアリ、斯ル場合ニ於テハ右ノ如ク訓諭シ且ツ教示シ置キタル事柄カ果シテ善ク
 實行セラレ居ルヤ否ヤニ就テ常ニ視察センコトヲ要ス

然ルニ茲ニ一ノ疑問起レリ、曰ク右ニ掲ケタル巡回看護婦制度ノ効果ハ果シテ如何ナリシヤト、蓋シ斯ル
 疑問ニ答フルハ極メテ容易ナランノミ、曰ク此巡回看護婦制度タルヤ創業日尙ホ淺クシテ未タ充分ニ發達
 セス、幼稚ノ有様ナレハ其結果如何ヲ舉示スルコト能ハサルナリ、既ニ前段ニ於テ述ヘタル如ク保險會社
 カ當初此巡回看護婦制度ヲ設ケタルノ趣意ノアル所、純然タル會計理財ノ點ニアラサリシナリ、今マ他ノ
 方面ヨリ之カ觀察ヲ下サンニ此制度實施ノ結果トシテ死亡率ニシテ幾干ノ減少シタリトセンカ、是レ會社

側ヨリ觀レハ好結果ヲ得タルモノト謂フヘキナリ

今マ或ル推論ヲ下スコトヲ止メテ右會社ノ調査ニ係ル一ノ統計表ヲ示サン、蓋シ此統計表ハ一千九百十
 一年、一千九百十一年ノ前半六ヶ月及一千九百十三年ノ前半六ヶ月ニ係ルモノト知ルヘシ

都府生命保險會社

一千九百十一年及一千九百十三年(前半六ヶ月)ニ於ル結核病(總テノ種類)ニ就テノ労働者ノ死亡數

一千九百十一年	死亡數	死亡全數ニ就 テノ百分比	保險金要求者ノ數	支出シタル保險金	支出シタル保險金 全額ニ就テノ百分 比例
一千九百十一年(前半)	一七、八九四	一七・五	二四、七六一	三、三九二、一四七	二〇・〇
一千九百十一年(後半)	九、八一二	一七・九	一三、五六二	一、八六一、一六六	二〇・五
一千九百十三年(前半)	九、七八八	一七・一	一二、六六二	一、九一二、〇九三	一九・六

一千九百十一年	六ヶ月未満	六ヶ月以上	一歳以上	三歳以上	五歳以上	十歳以上	十九歳以上	二十歳以上
		一歳マテ	三歳マテ	五歳マテ	十歳マテ	十九歳マテ	二十歳以上	
一千九百十一年(前半)	七二一	一、一〇九	三、九七〇	三、〇〇四	六、〇八五	七、三八五	二、四八七	
一千九百十一年(後半)	三九八	六二一	二、二二九	一、六三九	三、三〇五	四、〇二五	一、三四五	
一千九百十三年(前半)	三九五	五七八	二、〇四七	一、六二一	三、一三六	四、二六八	一、六一七	

右ニ掲ケタル統計表ニ據リテ之ヲ觀ルニ死亡全數ニ對スル結核病ニ係ル死亡率ハ次第ニ低減シタルコトヲ

知ルニ足ルヘキナリ、即チ一千九百十一年ノ前半六ヶ月間ニ於ル同死亡率ハ一七・九ナリシモノカ、一千九百十三年ノ前半六ヶ月間ニ於ル同死亡率ハ低減シテ一七・一トナレルコト是レナリ、斯ク死亡率ノ低減シタルハ果シテ何ニ原因スルヤト云フニ、一千九百九年以來勞働社會ニ屬スルモノヲシテ衛生ノ何モノタルヲ知ラシメ巡回看護婦制度ヲ設ケタルノ結果ニ外ナラスト謂ツヘキナリ、是レ取リモ直サス最近四ヶ年間ニ彼ノ生命保險會社カ主トナリテ巡回看護婦制度ヲ設ケテ之ヲ實施シタルノ結果ニ外ナラサルナリ

○結核病治療ニ關スル報告ノ要領

- 第一、結核病療養所ニ獨リ成年者ヲ收容シテ治療ヲ施コスノミナラス、既ニ結核病ニ感染シタル若クハ感染ノ疑ヒアル幼童ヲモ併セテ治療スル所トス
- 第二、幼童ニシテ結核病ニ罹リタランニハ出來得ヘキ丈ケ速カニ療養所ニ送致センコトヲ要ス、既ニ療養所ニ入レタランニハ全ク平癒スルマテ充分ニ時月ヲ費サシムヘク、若シ又タ療養所ニ通フテ治療ヲ受ルモノナランニハ成ルヘク屢々通ハシメンコトヲ要ス療養所ヲシテ好結果ヲ得セシメント欲セハ必ラス然カセシメサルヘカラス
- 第三、冬季ニ際シテ結核病ニ罹リタル幼童ヲ治療スルノ効果ハ非常ニ大ナルカ故ニ、此季節ニ際シテ治療セラル、ノ幼童甚ハタ多キヲ加フルニ至レリ
- 第四、疾病ニ罹レル幼童カ療養所ニアリテ治療ヲ受ケ居ル間ニハ、衛生上等ニ就テ心得トナルヘキ事ヲ懇

ロニ訓諭セラル、ヨリ、自カラ治療モ好結果ヲ得ヘキナリ

- 第五、結核病ニ罹レル幼童ノ治療ヲシテ好結果ヲ得セシムル所以ノモノ一ニシテ足ラスト雖モ、今マ其一ニラシメタルカ如キハ、其治療ヲシテ好結果ヲ得セシムルニ大ニ與カリテ力アルモノト謂ツヘキナリ、然レトモ多年ノ經驗ニ基キ且ツ一定ノ規則ニ從ツテ實行サレタル治療法、衛生法及食事療法ノ如キモ尙ホ是レ前者ト同様ニ大ニ與カリテ力アルモノト謂ハサルヘカラス

第六、「ホーヘンリッペン」療養所主義ト云ヘル一種ノ治療法アリ、抑モ此主義ノ治療法如何ト云フニ適當ナル治療法ヲ行フコトハ固ヨリ云フヲ要セス、之ニ加フルニ療養所ニ在留中衛生上許ス限リ何等カノ業務ニ就カシムルコト是レナリ、斯クノ如ク何等カノ業務ニ就カシムルノ習慣ヲ養成スルコトハ、當人ノ生涯ヲ通シテ益アリ且ツ將來賃錢ヲ得ヘキ素地ヲ作ラシムルモノト云ツヘキナリ

第七、少年保護ノ事ニ就テ責任ヲ有スヘキ公共團體殊ニ市府ノ如キニ至リテハ左記ノ如キ事ニ關シテ深ク注意スル所ナクンハアルヘカラス、曰ク一般ノ衛生状態ヲシテ一層發達セシムル事、又タ他方ニ於テハ年少子弟自カラ選ンテ何等カノ業務ニ從事セントスルノ場合、若干ツ、カ貯金セシメテ療養所治療費ヲ支辨セシムル餘地アラシムル方法ヲ設クルコト是レナリ

第八、療養所治療ノ効果如何ニ就テ疑團ヲ抱クモノ往々ニシテ是レアリ、今マ此等ノ疑團ヲ氷解セシメン

ニハ少年療養所ノ好結果アルコトヲ統計表ニ據リテ示サ、ルヘカラス、但シ斯ル統計表ヲ示ス前ニ差シ當リ左ノ如キ事實ヲ示サンコトヲ要ス、曰ク一旦療養所ヨリ退去シタル幼童ハ爾來其儘ニ看過セラルヘキモノニアラス、出來得ヘクンハ引續キテ適當ナル監督ノ下ニアラシメンコトヲ要ス

教育界ニ於ル結核病

第一、教育界ニ於ケル結核病問題中最モ重大ナルモノト謂ハサルヘカラス、試ミニ見ヨ苟クモ子弟ヲ教育スル責任アル教師ニシテ最早ヤ隱蔽シ得ヘカラサル結核病ニ侵サレタリトセンカ、其病毒ノ蔓延スル所推シテ知ルヘキノミ、之ニ加フルニ好シ臨床的結核病ニ罹リタル者ハ、學童ニ對シテ適當ナル教育ヲ施コスニ足ルヘキ身心ノ力ヲ有スヘキモノニアラス、是レ教育界ニ於ル結核病問題ノ重大ナリト云フ所以ナリ

第二、右ノ如キ次第ナルカ故ニ苟クモ教師ノ中ニ結核病ニ罹リタルモノアランカ、是レ由々シキ一大事ニシテ決シテ輕々ニ看過スヘキモノニアラサルナリ、且ツ教師ノ侵サルヘキ諸ロノ疾病ヲ一纏メニシテ之ヲ研究シ、内結核病ハ如何ナル割合ナルカ、教師中之ニ侵サル、モノ往々ニシテ之レアルヤ否ヤヲ斷定センコトヲ要ス

第三、今マ右ノ如キ斷定ヲ下サンハ他事ハ又手置キ第一ニ解決スヘキ重大問題ナルカ、之ヲ解決センニハ統計表ニ依ルノ外他ニ途ナキナリ、而シテ所謂ル其統計表ナルモノモ既ニ過去ニ於テ調製セラレタルモ

ノナレハ從ツテ誤謬モ自カラ少ナカラサルナリ、此等ノ誤謬ハ蓋シ避クヘカラサルコトナレトモ、忍耐シテ善ク調査シタランニハ其誤謬ヲ減少スルコトヲ得ヘキナリ

第四、今日マテニ既ニ調製セラレタル統計表ニ據リテ之ヲ考フルニ、教師ノ内ニテ結核病ニ罹レルモノ、統計表ニ於テ互ニ反對ノ事實ヲ示セルモノアリ、即チ甲ノ統計表ニテハ教師ニシテ結核病ニ罹レルモノ甚ハタ多キコトヲ示セルニ、乙ノ統計表ニテハ他ノ職業ニ従事スル者ニ比較スレハ、教師ノ結核病ニ侵サル、者ノ數一層少ナキコトヲ示スカ如キコト是レナリ

第五、今マ吾人カ最モ正確ナル統計表ヲ得ント欲セハ、右ノ如ク反對ノ結果ヲ生シタル理由如何ヲ研究セシコトヲ要ス、蓋シ之ヲ研究センハ左マテ難事ニハアラサルナリ

(イ) 從來調製セラレタル統計表中ノ所謂ル教師ニシテ結核病ニ罹レル者ノ數ヲ示セルモ、眞ニ是レ今日ノ所謂ル結核病ト云フヘキモノニアラサルナリ、但シ幾千カ結核病ノ徵候アリシナラント想ハル、斯ル不正確ナル統計表ニ基キテ彼此對照スルハ謂レナキモノト謂ツヘシ

(ロ) 肺尖加答兒、心臟違和、肺ノミノ結核、若クハ他ノ機關ノ結核病ナルヲ問ハス、調査上結核病ノ中ニ算入セラルヘキモノヲ基礎トシテ統計表ヲ調査シタルモノナレハ正確ナルモノニアラス、

(ハ) 教師ノ疾病取扱上ト學生ノ疾病取扱上トハ自然ノ情勢トシテ其間自カラ異ナラサルヲ得ス、即チ學生ノ診斷ヲ爲サントスル場合ニハ同時ニ多數ノ學生ヲ診斷スレトモ、教師ノ診斷ヲ爲ス場合ニハ一人

ノ醫師ニシテ一人ノ教師ヲ診斷スルカ如キコト是レナリ、又タ從來ノ統計表ニ示サレタル數字ノ如キモ小數ノモノヲ多數集メテ合計シタルモノニ外ナラス、然ルニ個々小數ノモノハ其間事情ノ異ナルアリテ之ヲ一括シテ合計シ得ヘカラサルモノアルヘキナリ、故ニ從來ノ統計表ノ數字ハ正確ナルモノト云フヲ得ス

(二) 教師ノ中結核病ニ罹リテ死亡シタルモノ、員數ヲ示シタレハトテ、諸種ノ疾病ニ基ツケル死亡統計如何ヲ知ラサレハ、教育界ニ於ル結核病ノ度合如何ヲ知ルコト能ハサルナリ

第六、科學上ノ見地ヨリ注意スヘキ價値アル結核豫防法ノ基礎ヲ立テント欲セハ、必ラスシモ左記ノ要求ニ應セサルヘカラス

- (イ) 出來得ヘクンハ結核病ニ關スル調査ヲ國家事業トシテ之カ統計表ヲ蒐集セサルヘカラス、而シテ此目的ヲ達センカ爲メニ先ツ第一着ニ爲スヘキコトアリ、即チ結核病調査ニ關シテ共同一致ノ方法ヲ取ル事及結核病ニ算入セラルヘキ方法ヲ同一ナラシムコト是レナリ、其他均シク是レ結核病ニテモ既ニ表明セラレタルモノト或ハ潜伏期中ノモノトノ區別ヲ立ルカ如キ是ナリ
- (ロ) 結核病検査ノ範圍ハ男女兩性ノ國立學校及公立學校等ノ教師ヲ包含センコトヲ要ス、又タ個々別々ノ統計表ニテハ某地方ニテ幾千ノ教師カ此疾病ニ罹レルカ、且ツ斯ル教師カ原動力トナリテ如何ナル有様ニテ如何ナル程度マテ蔓延センカヲ調査センコトヲ要ス

(ハ) 結核病患者ノ數ニ算入セラルヘキモノハ左ノ如キモノニ限ラルヘキモノトス、曰ク資格ヲ有スル醫師カ斯ル疾病ト斷定シ既ニ一致協和シタル方法ニ從ツテ治療シタル患者是レナリ、斯ク醫師ノ診斷シタル事ハ全ク確定シタルモノニシテ、好シ教育界ノ調査アリト雖モ復タ動カスコトヲ得ス

(ニ) 學校ニ醫師ノ設置セラレタル場合ニハ其醫師タランモノハ右ノ如キ任務ニ服スヘク、而シテ此等ノ學校ノ教師ハ隨時校醫ノ診斷ヲ受クヘク醫師ハ其結果ヲ其筋ヘ報告センコトヲ要ス

第七、右ニ掲ケタル諸ロノ要求カ直チニ實行シ能ハサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ責メテイ、項ニ掲ケタル準備ニ着手センコトヲ要ス、而シテ此目的ヲ達センニハ左ノ如キ手續ヲナスヘキモノトス

『肺病豫防國民協會』ヲ組織シテ之カ委員ヲ任命シ此豫防問題ヲ研究調査シタル結果確定ノ説ヲ立テ、翌年ノ議會ニ提出スヘキ事

第八 右ニ掲ケタル諸ロノ要求カ幾干カノ時月ノ内ニハ實行セラル、ニ至ルヘシト雖モ、此等ノ要求ノ實行セラル、ニ先ンシテ教師間ニ於ル結核病ノ豫防ニ就テ注意スル所ナクンハアルヘカラス、今マ差シ當リ之カ豫防法トシテ左ノ如キ方法ヲ取ランコトヲ要ス

(イ) 今マ普通小學ノ教員ニシテ向上心熾ンナルヨリ或ル大學及其他ノ練修學校ニ入學セント欲スルモノアラシカ、斯ル場合ニ於テハ其入學セサルニ先ンシテ最モ注意ヲ密ニシテ其身體ヲ検査セサルヘカラ

ス、而シテ其検査ノ結果トシテ其教師カ疾病ニ罹リ居レルカ、若クハ其疑ヒアルモノハ、其入學ヲ中止セシメンコトヲ要ス、斯クノ如キ検査ハ年々之ヲ實行センコトヲ要ス

(ロ) 教師ニシテ結核病ニ侵サレ居ルコトカ蔽フヘカラサル程度ニ達シタランニハ、爾來其職ヲ休メシメンコトヲ要ス、然レトモ其給料ハ減額スル所ナク從前ノ如ク仕拂ハサルヘカラス、是レ他ナシ其地方ノ衛生状態ヲ改良シテ斯ル患者ヲ生セサラシムルハ其地方人民ノ職責ナレハナリ

(ハ) 苟クモ結核病(蔽フヘカラサル程度ニ達シタル者ノミナラス其他ノモノヲモ包含ス)ニ罹リタル教師ハ無料ニテ療養所ニ收容セシメサルヘカラス、但シ之ニ要スル費用ハ國家ノ負擔ト爲スカ、若クハ其他ノ手段ニ據リテ支出センコトヲ要ス

(ニ) 結核菌ヲ恐怖スルノ結果苟クモ之ニ感染シタル教師ハ、皆ナ悉ク休職セシメントスルハ決シテ當然ノ處置ト云フヘカラス、其程度如何ニ據リテ斟酌スル所ナクシハアルヘカラス、即チ其休職如何ノ處分ハ老練ナル醫師ヲシテ一々診斷セシメテ後醫師ノ意見ニ從ハサルヘカラス

萬國結核豫防協會ノ規則

(一千九百二十二年ノ改正ニ係ルモノ)

命 名

第一章

此協會ヲ名ケテ『萬國結核豫防協會』ト云フ

目 的

第二章

本協會ノ目的トスル所ハ結核病ヲ征伐勦滅セント欲スルニアリ、蓋シ此事業タルヤ本協會ニ加入シタル各國カ互ニ協同一致シテ事ニ當ラサル以上ハ、其成功ハ得テ期スヘカラサルナリ、今マ各國カ互ニ一致協同ノ歩調ヲ取ルヘキ事柄ヲ列擧スレハ概ネ左ノ如シ、曰ク結核病ニ關スル各國ノ法律規定ノ研究、結核病ト公衆衛生ト密接ノ關係アル諸問題ノ研究、之ニ關スル萬國統計法ヲ採用スル事、各國民ノ内ニ結核病ノ蔓延スル状態ノ調査、結核病ニ關スル文庫及展覽會等維持方法ノ調査、各國ニ於テ結核病問題ニ關スル書籍分配ノ事、當協會行動ノ詳細ナル事、及各國ノ結核征伐ニ關スル有様ヲ知ラシメンカ爲メニ、協會々員全部ニ以上ノ事柄ヲ記載セル雜誌ヲ配布スル等是レナリ、當協會ハ結核豫防ニ關スル萬國會議ノ行動ヲ幫助スヘキモノトス

本協會ヲ組織スヘキ會員ノ事

第三章

本協會ハ通常會員、通信會員及名譽會員ヨリ組織セラル、モノトス

第四章

通常會員ハ各國ニ於ル中央結核豫防協會ヨリ任命セラルヘキモノトス
各國ハ少ナクモ二名ノ通常會員ヲ選出センコトヲ要ス、但シ人口一千萬以上ノ國ハ每五百萬ニ就テ一名ツ
ツノ割合ヲ以テ増加スヘキモノトス、然レトモ一ケ國ノ代表者ハ全數五名ヲ限リトナシ此以上ニ踰ユルコ
トヲ許サス

數ケ國ノ聯合ヨリ成レル國ハ一ケ國ト見做ス、特ニ中央結核豫防協會ノ設置ナキ國ニアリテハ、其國ノ政
府ヨリ此協會ニ派遣スヘキ代表者ヲ任命センコトヲ要ス

第五章

通信會員ハ結核豫防ニ關スル國民協會ノ申請ニ從ツテ秘密會議ニ於テ選定シ若クハ罷免スヘキモノトス

第六章

名譽會員ハ秘密會議ノ指名ニ從ツテ總會議ニ於テ選定スヘキモノトス

事務ノ處理ニ關スル事

第七章

本協會ノ事務ハ左記ノ部局ニ於テ取扱フヘキモノトス

- (一) 事務局 (第八章ヨリ第十一章迄ヲ参照セヨ)
- (二) 秘密會議 (第十二章、第十四章ヨリ第十六章ヲ参照セヨ)
- (三) 總會議 (第十五章ヨリ第十六章迄ヲ参照セヨ)

事務局ノ事

第八章

本協會ノ事務ハ一切事務局ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

事務局ノ役員ハ局長一名、局員ハ少ナクモ二十一名ナランコトヲ要ス、而シテ此等ノ役員ハ秘密會議カ其
通常會ニ於テ選定スヘキモノトス、此等ノ役員ノ任期ハ何レモ三ケ年ト定メラル、モ其滿期ニ際シテ再選
セラル、モ妨ケナキモノトス

事務局ハ之ヲ伯林ニ置ク

第九章

局長ハ通常ノ事務ヲ取扱フモノニアラス

通常ノ事務ハ事務局書記長ノ司トルヘキモノトス、書記長ハ事務局ヨリ任命セラルヘキモノニシテ其任期
ハ三ケ年ナリトス

第十章

事務局ハ助手ヲ任命シテ書記長ノ事務ヲ補助セシムヘキ機能ヲ有ス

第十一章

書記長ハ名譽職ノ資格ヲ以テ其事ニ當ルヘキモノトス、又タ本協會ノ事務取扱ヲ命セラレタル助手ハ他ヘ派遣セラル、ノ場合旅費日當ヲ給與セラル、モノトス

秘密會議

第十二章

秘密會議ハ通常會員ヨリ組織セラル、モノトス、但シ此議員ニシテ止ムヲ得ス出席ナリ難キ場合ハ其代理者ヲ指名シ置カンコトヲ要ス、又タ名譽會員ハ如何ナル會議ニモ出席シテ其意見ヲ述ヘ且ツ投票數ニ加ハルコトヲ得ヘシ

第十三章

秘密會議ノ通常會ハ年々春期ニ於テ開催スヘキモノトス

臨時集會ハ事務局ノ必要ヲ認メタル場合ニ開クヘキモノトス

秘密會議ノ集會ニ於テハ専ラ事務ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

第十四章

秘密會議ハ本協會ノ目的遂行ノ爲メ取ルヘキ處分如何ヲ決定シ、事務局ノ歲計豫算ヲ編成シ、事務局前年

中ノ事務報告ヲ受ケテ調査ノ上承認ヲ與ヘ、又タ此會議ニ委任セラレタル選舉事務ハ其通常會ニ於テ取扱ハサルヘカラス

總會議

第十五章

苟クモ本協會々員タランモノハ皆ナ是レ總會議ニ參列センコトヲ要ス、蓋シ總會議ハ此等ノ會員ヨリ組織セラルヘケレハナリ、而シテ此總會議ハ恒例トシテ三年目毎ニ一回開催スヘキモノトス、且ツ事情ノ許シタランニハ結核豫防會議ト同時ニ開カンコトヲ要ス、結核豫防會議ハ本協會ノ事業成績ヲ受クヘキモノトス

名譽會員ノ選定及結核豫防協會ノ規則改正等ハ此總會議ニアラスンハ爲スコト能ハス、尙ホ此規則改正ニ至リテハ秘密會議ノ申請アル場合ニ限リテ之ヲ爲スヘク、且ツ出席會員ノ大多數若クハ三分ノ二ノ協賛ヲ經ルニアラスンハ決定スルコト能ハス

第十六章

總會議及秘密會議開催ノ案内狀ハ事務局長ノ名ヲ以テ發センコトヲ要ス

會計

第十七章

本協會ノ費用ハ總テ納付會費及寄附金ヲ以テ支辨スヘキモノトス
各國ノ結核豫防協會ハ年々萬國結核豫防協會ヘ若干ノ會費ヲ納付セサルヘカラス、其金額ハ通常會員數ニ準スヘキモノトス

各國ノ結核豫防協會カ本協會事務局ヨリ二回マテ催促アリタルニモ拘ラス尙ホ一ケ年分ノ會費滯納アル場合ハ、第二ノ催促後三ヶ月ヲ經テ本協會ノ名簿ヨリ削除セラル、モノトス、但シ其滯納會費ヲ拂ヒ込ミタル場合ハ復活スヘキモノトス

通信會員ハ萬國結核豫防協會ヨリ發スル年報及月刊ノ雜誌『結核』ノ代價トシテ年々八志ヲ納付セサルヘカラス、但シ各國ノ結核豫防協會ハ斯ル通信會員ノ納付スヘキ年額ヲ免除シテ、通常會費ヲ納メシムルコトアルヘシ

若シ萬國結核豫防協會カ右ニ掲ケタル收入金ヲ以テ其費用ヲ支辨スルニ足ラサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ日耳曼中央肺病豫防委員會ヨリ立替方法ヲ取ランコトヲ要ス

醫師登記法

「ウキクトリア」即位第二十二年及第二十二年ニ於テ國會ヲ通過シタル條例ニ從ツテ組織セラレタル『聯合王國醫事教育及醫事登記中央會議』ノ指命ヲ受ケテ出版公表シタル法律是レナリ、名ケテ内科及外科ノ開業醫ノ資格ヲ規定スル條例ト云フ

目 録

登記吏及登記所ノ事

登記手数料ノ事

登記出願者ノ注意スヘキ重要事件

(イ)表 一千九百十三年一月一日ヲ以テ制定セラレタル中央醫務會議ノ議長、議員、會計掛及登記吏ノ氏名ヲ示セルモノ

(ロ)表 一千八百五十八年ノ創設當時ヨリ一千九百十三年ニ至ルマテノ期間ニ於ル中央醫務會議ノ議長、議員、會計掛及登記吏ノ氏名及任期ヲ示セルモノ

(ハ)表 一千八百五十八年醫業取締條例ノ發布セラレタルヨリ、一千九百十三年一月一日ニ至ルマテノ期間ニ於テ毎年開催サレタル中央醫務會議、實行委員會及三支會議ノ度數ヲ示セルモノ

一千八百五十八年ヨリ一千八百八十六年ニ至ルマテノ間ニ於テ發布セラレタル醫業取締條例ヲ舉レハ左ノ如シ

- (イ) 一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ内科及外科開業醫ノ資格ヲ規定セルモノナリ
- (ロ) 一千八百五十九年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ一千八百五十八年發布ノ醫業取締條例ノ改正ニ係ルモノナリ
- (ハ) 一千八百六十年ノ發布ニ係ル醫業取締條例改正條例
- (ニ) 一千八百六十年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ欽定醫學校ニ關スルモノ及一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例ノ改正條例、是レハ欽定倫敦醫學校、欽定エジンバルフ醫學校、皇帝及女帝ノ直轄ニ屬スル愛爾醫學校ニ關スルモノナリ
- (ホ) 一千八百六十二年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ聯合王國ノ醫事教育ニ關スル中央會議ト同醫事登記法ニ關スル中央會議トヲ聯合セシムヘキ條例ナリ
- (ヘ) 一千八百六十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例改正條例、是レハ植民地ニ於ル開業醫ニ關スル法律ノ改正條例ナルモノト知ルヘシ
- (ト) 一千八百七十三年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ倫敦大學ニ關スル醫業取締條例改正條例

ナルモノト知ルヘシ

- (チ) 一千八百七十四年ノ發布ニ係ル藥劑師取締條例改正條例、是レハ英吉蘭及威爾斯ニ於ル藥劑師ノ業務實行ヲ改良セシムヘキ條例ノ改正條例ナルモノト知ルヘシ
- (リ) 一千八百七十五年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ欽定英吉蘭醫學校ニ關スル醫業取締條例ノ改正條例ナルモノト知ルヘシ
- (ヌ) 一千八百七十六年ノ發布ニ係ル開業醫取締條例、是レハ成法上適當ノ資格アル開業醫ヲシテ或ル公職ニ任セシムルコトヲ得ヘク、且ツ醫業取締條例ヲ改正スヘキ條例ナリ
- (ル) 一千八百七十六年ノ發布ニ係ル條例、(醫師ノ資格ニ關スルモノ) 是レハ從來ノ醫業取締條例ニテハ女性ニ醫業登記ノ資格ナキ規定ナリシヲ廢止スヘキ條例ナリ
- (ヲ) 一千八百七十八年ノ發布ニ係ル齒科醫取締條例、是レハ齒科開業醫ニ關スル法律ノ改正條例ナルモノト知ルヘシ
- (ワ) 一千八百八十三年ノ發布ニ係ル醫業取締條例(一千八百五十八年ノ發布ニ係ルモノ)改正條例
- (カ) 一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例、是レハ從來ノ醫業取締條例ヲ改正スヘキ條例ナリ
- (ヨ) 一千九百年ノ發布ニ係ルバーミンハム大學條例、此條例中第九章及第十章ニハ同大學ニ左ノ如

キ權能ヲ與フヘキコトヲ規定セリ、曰ク内科醫師、外科醫師及產婆ヲ試驗シテ相當ノ資格ヲ與フヘキ權能ヲ有セシムルコト及中央醫事會議ニ參與セシムヘキ代表者ヲ選定スヘキ權能ヲ有セシムルコト是レナリ

(タ) 一千九百二年ノ發布ニ係ル產婆條例、此條例ハ三章ヨリ成レルモノナリ

(レ) 一千九百三年ノ發布ニ係ルリヴハーブール大學條例、此條例ハ十章若クハ十一章ヨリ成レルモノナリ

(ソ) 一千九百四年ノ發布ニ係ルリーズ大學條例、此條例ハ八章若クハ九章ヨリ成レルモノナリ

(ツ) 一千九百五年ノ發布ニ係ルセツフヒルド大學條例、此條例ハ七章若クハ八章ヨリ成レルモノナリ

(ネ) 一千九百五年ノ發布ニ係ル醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ルモノ)改正條例、此條例ハ一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例第二編ノ意義ヲ一層擴張シテ聯合植民地ノ各地方ニ及ホスノ權能ヲ與フルモノナリ

(ナ) 一千九百七年ノ發布ニ係ル藥劑師條例

(ラ) 一千九百八年ノ發布ニ係ル愛蘭大學條例

(ム) 一千九百九年ノ發布ニ係ルプリストル大學條例

(ウ) 一千九百十一年ノ發布ニ係ル偽醫取締條例

(キ) 一千九百十一年ノ發布ニ係ル威斯大學條例(醫師ニ對シテ學位ヲ與フヘキモノ)

(ニ)表 左記ノ二者ヨリ醫事登記ノ謄本ヲ受ケタル官衙及官吏ノ數者ヲ示セルモノ

(一) 政府

(二) 醫務會議

(ホ)表 英吉蘭、蘇格蘭及愛爾蘭ノ各地方ノ登記所ニ於テ(イ)登記ヲ經タルモノ及(ロ)尙ホ其地方ニ留マレル者ノ全數(總人口ニ對スル百分比ト共ニ)ヲ示セルモノ

(ヘ)表 一千八百七十六年ヨリ一千九百十三年ニ至ルマテノ期間ニ於テ醫事登記所ノ臺帳ニ記載セラレ若クハ除名セラレタル者ノ氏名員數ヲ示セルモノ

(ト)表 醫業條例(一千八百八十六年ノ發布)ニ記載サレタル指定時日(一千八百八十七年六月三十日)ニ於テ若クハ其他ノ時日ニ於テ規定サレタル登記ヲ受クヘキ資格ヲ示セルモノ、但シ醫事登記臺帳ニハ略語ヲ以テ此等ノ資格ヲ記載セリ

(チ)表 衛生學、公衆衛生等ニ就テ熟達セル者ニ對シテ授與シタル登記證書ヲ示セルモノ、但シ醫事登記臺帳ニハ略語ヲ用ヒテ此等ノ事ヲ記載セリ

(リ)表 醫學ニ關シ外國ノ學位ヲ得タル者(一千八百八十六年六月二十五日以前ニ得タルモノナランニハ)ニシテ既ニ登記ヲ經タル開業ト見做サルヘキ實例ヲ示セルモノ

- (ヌ)表 醫學ニ關シ植民地ノ學位ヲ得タル者ニシテ植民地ノ臺帳ニ於テ登記セラルヘキ實例ヲ示セルモノ
- (ル)表 醫學ニ關シ植民地ノ學位ヲ得タル者ニシテ外國ノ臺帳ニ於テ登記セラルヘキ實例ヲ示セルモノ
- 醫事登記ノ詳細ナル事ニ關スル解釋
- 一千九百十三年ニ於ル醫事登記
- 一千九百十三年ニ於ル植民地ノ臺帳
- 一千九百十三年ニ於ル外國ノ臺帳
- 醫務會議ノ公表事件ノ表

醫事登記法

登記吏及登記所ノ事

登記手数料ノ事

登記出願者ノ注意スヘキ重要事件

(イ)表 一千九百十三年一月一日ヲ以テ制定セラレタル中央醫務會議ノ議長、議員、會計掛及登記吏ノ氏名ヲ示セルモノ

(ロ)表 一千八百五十八年ノ創設當時ヨリ一千九百十三年ニ至ルマテノ期間ニ於ル中央醫務會議ノ議長、議員、會計掛ノ登記吏ノ氏名及任期ヲ示セルモノ

- (ハ)表 一千八百五十八年醫業取締條例ノ發布セラレタルヨリ、一千九百十三年一月一日ニ至ルマテノ期間ニ於テ、毎年開催セラレタル中央醫務會議、實行委員會及三支會議ノ度數ヲ示セルモノ
- 一千八百五十八年ヨリ一千八百八十六年ニ至ルマテノ期間ニ於テ發布セラレタル醫業取締條例
- (イ) 一千八百五十八年發布ノ醫業取締條例
- 一、(略)名)
- 二、(條例ノ開始)
- 三、一ノ會議カ創設セラレ最初『聯合王國醫學教育及同登記中央會議』ト名ケラレシカ、其後中央會議ト唱ヘラレ、又々英吉蘭、蘇格蘭及愛爾蘭ニ夫々支會議カ設ケラレタリ、但シ此等ノ支會議ノ組織ハ後段ニ記載スヘシ
- 四、醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ルモノ)發布ノ結果トシテ廢止セラレタル條例
- 五、同上
- 六、(英吉蘭、蘇格蘭及愛爾蘭ニ於ル支會議)
- 七、(中央會議々員ノ資格)
- 八、(中央會議々員ノ辭職若クハ死亡)
- 九、(中央會議開催ノ時日及場所)

- 十、(登記吏及他ノ吏員ノ任命)
- 十一、(支會議ニ於ル登記吏及他ノ吏員ノ任命)
- 十二、(會議ニ於ル助手ニ對スル俸給)
- 十三、(會議ノ費用)
- 十四、(登記ヲ正確ニ爲スヘキ登記吏ノ職責)
- 十五、登記出願者ハ何人ニ限ラス相當ノ資格ヲ有スルモノニシテ成規ノ登記手数料ヲ納メンコトヲ要ス、蓋シ所謂ル其資格トハ本條例末段ノ(イ)表中ニ記載セル資格ノ一若クハ二以上ニ該當スルモノト知ルヘシ、又タ其納付スヘキ登記手数料ナルモノ、金額ハ其事情如何ニ依リテ多少ノ差異ナクンハアラス、即チ一千八百五十九年一月一日以前ニ其資格ヲ得タルモノナラン場合ニハ、其登記手数料ニ封度ヲ踰ヘサル金額ニテ然ルヘキモ、若シ同年月カ或ハ同年月以後ニ其資格ヲ得タルモノナラン場合合ニハ、其納付スヘキ登記手数料五封度ヲ踰ヘサル金額ナランコトヲ要ス、斯クテ登記出願者其出願セントスルニ際シテ、其登記所ハ英吉蘭、蘇格蘭及愛爾蘭ノ内何レノ支會議ナリトスルモ其登記吏ニ對シテ自カラ有資格者タルノ實證ヲ示サ、ルヘカラス、所謂ル其實證トハ他ニアラス、其登記ヲ經ント欲スル業務ニ就テハ資格ヲ有スル旨其筋ヨリノ證明ニ係ル書類是レナリ、或ハ登記出願者自カラ登記所ニ出頭スルコトヲナサス、其登記願書ヲ郵送スルモ妨ケナキナリ、蓋シ此登記願書ニ認ムヘキ

- 事柄ハ其住所姓名ハ云フマテモナク、其登記ヲ經ント欲スル業務ニ就テハ適當ノ資格ヲ有スルコト及此等ノ資格ヲ其筋ヨリ得タル年月日等ヲ記載スルコト是レナリ
- 又タ右ニ述ヘタル(イ)表ニ記載セラレタル學校及其他ノ團體ヨリ或ル人ニ或ル資格ヲ授與シタラン場合ニハ、其人ノ住所姓名等ヲ登記吏ノ許ヘ通知スヘキコトハ、法律上然カセシムルコト、ナリ居レリ、既ニ斯ル資格アルコトヲ登記吏ノ許ヘ通知セラレタランモノハ、登記手数料タニ納付シタランニハ、其他ノ手續ヲ要セスシテ直チニ登記ヲ結了セラルヘキナリ
- 十六、(會議ハ登記ヲ整頓セシムヘキ命令ヲ發スヘキモノトス)
- 十七、茲ニ或ル人アリ一千八百十五年八月一日以前ニ於テ既ニ英吉蘭中ニ實際醫業ヲ營ミ居タリトセシカ、斯ル人ハ中央會議ノ定ムル所ニ從ツテ登記手数料ヲ納付シタランニハ、登記セラルヘキ資格アルモノトス、但シ斯ク登記セラレントスル場合ニハ、英吉蘭、蘇格蘭及愛爾蘭ニ於ル支會議ノ登記吏ニ對シテ一ノ證明書ヲ差出サンコトヲ要ス、即チ其證明書トハ本條例(ロ)表中ニ記載セル様式ニ從ツテ認メ之ニ自カラ調印セルモノ是レナリ、或ハ斯ル證明書ヲ封入シテ右ノ登記吏ノ許ニ郵送スルモ妨ケナキモノトス
- 十八、(會議ハ登記出願者ヲシテ其資格ヲ得ルニ必要缺クヘカラサル修學ノ模様ヲ具申セシムルコトヲ得ヘシ)

- 十九、(試験ヲ行フ場合ニハ若干ノ學校互ニ相聯合スルコトヲ得ヘシ)
- 二十、(登記出願者ノ修學上若クハ其試験上不完全ナル點之レアリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其旨中央會議ヨリ樞密院ヘ通知センコトヲ要ス)
- 廿一、(學校ヨリ授與シタル資格ニ關シテ不完全ナル點之レアリタル場合ニハ、樞密院ハ登記サレ得ヘキ權利ヲ一時中止スルコトヲ得ヘシ、但シ此中止ハ解除スルコトヲ得ヘシ)
- 廿二、何人ト雖モ右ノ如キ有様ニテ登記セラルヘキ權利ヲ中止セラレタランニハ、其後本條例ニ規定セラレタル登記ヲ受クルコト能ハス、好シ又タ某中止命令ヲ解除セラレタル場合ト雖モ、其以前得タル資格ニテハ登記セラルヘキモノニアラス
- 廿三、(樞密院ハ左ノ如キコトヲ禁止スルヲ得ヘシ、曰ク資格ヲ授與スヘキ權能アル團體ニシテ内科若クハ外科ノ或ル學說ニ關シテ制限ヲ設クルコトヲ禁止スルカ如キコト是レナリ)
- 廿四、醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ルモノ)ノ廢止
- 廿五、(支會議ノ登記吏ノ爲スヘキ登記事務ニ關スルコト)
- 廿六、(登記セラレサルニ先ンシテ資格ヲ有スルコトヲ證明スヘキ事)
- 廿七、(登記シタル事實ヲ公表スヘキ事)
- 廿八、(學校ノ臺帳ヨリ削除セラレタル人名ハ之ヲ中央會議ヘ通知スヘキ事)

- 廿九、(重罪ヲ犯シタル證據アル開業醫ハ登記名簿ヨリ削除セララルヘキ事)
- 三十、(登記セラレタル者ハ其登記セラレタル資格ヲ引續キテ有スヘキモノトス)
- 卅一、(登記セラレタル者ノ特權)、醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ルモノ)ノ廢止
- 卅二、(登記ヲ經タルモノニアラスンハ損害賠償ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス)
- 卅三、(一千八百五十九年ニ於ル『醫業取締條例改正條例(一千八百五十八年ノ發布ニ係ルモノ)』ノ廢止ノ事)
- 卅四、(一千八百五十九年一月一日以降『法律上有資格開業醫』若クハ『適當ニ資格ヲ有スル開業醫』ノ數語或ハ法律上開業醫若クハ醫ヲ營業ト爲セル者ト認定セララルヘキ數語ハ皆ナ是レ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ經タルモノト解釋センコトヲ要ス)
- 卅五、(苟クモ登記ヲ經タラン者ハ陪審官トナルコトヲ免除セララルモノトス)
- 卅六、(一千八百五十九年一月一日以降本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ經タル者ニアラスンハ、何人ト雖モ左ニ列舉スル所ノ箇所ニ奉職スル事ヲ得ス、曰ク醫師トシテ或ル官衙ニ任命スルコトヲ得ス、海軍若クハ陸軍ノ醫官トシテ任命セララル、コトヲ得ス、移民船若クハ其他ノ船舶ノ醫師ニ任セララル、コトヲ得ス、全ク有志家ノ寄附金等ニ依ラサル病院等ノ醫員トナルコトヲ得ス、癲狂院、監獄、懲治監、感化院、工場、救貧院、其他ノ公共團體、相互疾病救濟會、養老協會、衛生局等ノ醫員若クハ醫

卅七、如何ナル證明書ヲ有スルモ登記ヲ經サル以上ハ其證明書ハ無効タルヘキモノトス
卅八、(登記出願書中故意ニ詐僞ノ事實ヲ記載シタランニハ相當ノ罰金ニ處セララル、モノトス)
卅九、(詐僞ノ事實ヲ具申シテ以テ登記ヲ經タランモノモ亦タ同シク罰金ニ處セララル、モノトス)
四十、(實際登記ヲ經サリシ者カ自カラ僞リテ登記セラレタルモノト稱スル場合モ同シク罰金ニ處セラ
ル、モノトス)

四十一、(罰金取消ノ事)

四十二、(罰金處分適用ノ事)

四十三、(會計掛ノ收受シタル罰金處分ノ事)

四十四、(罰金ノ高公告ノ事)

四十五、(登記吏ニテ取扱フヘキ開業醫死亡届ノ事)

四十六、中央會議カ左記ノ如キ處分ヲ行フハ其職責上適法ノ事ト謂ツヘキナリ、曰ク中央會議カ本條例
ヲ實行セントスルノ際自カラ適當ナリト思惟スル規則等ヲ設ケテ、大不列顛及愛爾蘭以外ナル我皇帝
陛下ノ御所領内ノ何レカニ於テ開業セル醫師ノ利便ヲ計ルコト即チ本條例中(イ)表ニ記載セル資格中
何レニカ該當セル此等ノ醫師ノ利便ヲ計ルコト、又タ本條例發布以前ヨリ海外ニ於ル我所領内若クハ

植民地ニ於テ開業セル醫師ノ利便ヲ計ルコト、又タ陸海軍ノ醫員若クハ醫員助手、東印度會社ノ醫員、
公衛ノ醫員、慈善團體ノ醫員、及本條例發布以前ヨリ醫學研究ニ從事セル學生、其他中央會議カ自カ
ラ適當ト思惟スル者ノ爲メニ利便ヲ計ルカ如キコト是レナリ

四十七、(倫敦醫學校ニ對シテ更ニ一ノ特權ヲ與ヘラル、コト)

四十八、(醫學校ニ齒科醫ノ試験等ヲ爲スヘキ特權ヲ與ヘラル、コト)

四十九、(エジンバルブ醫學校ニ對シテ更ニ一ノ特權ヲ與ヘラル、コト)

五十、(具羅斯哈ノ大學ハ之ヲ合併スヘキ事)

五十一、(愛爾蘭ニ於ル兩陛下直轄ノ醫學校ニ對シテ更ニ一ノ特權ヲ與ヘラル、コト)

五十二、(好シ右ノ如キ特權ヲ與ヘラル、モ内科醫若クハ外科醫カ其業務ヲ實行スル上ニテ新タニ制限
ヲ加フヘキモノニアラス)

五十三、(倫敦大學ニ關スル勅令第十七號乃至十八號ノ規定ハ尙ホ實行セララルヘキモノトス)

五十四、(英國ノ藥局方ヲ公表スヘキ事)

五十五、本條例ノ規定中左ニ記載スルカ如キ事柄ニ對シテハ毫モ影響スル所之レナキモノト知ルヘシ、
曰ク化學士、藥劑師及齒科醫等カ法律上許サレタル職業ヲ爲シ、商業ニ從事シ、事務ヲ取扱フ上ニ於
テ毫モ關係ヲ及ホスコト之レナキ事、又タ愛爾蘭ニ於テ適當ニ其筋ヨリ許可サレタル藥種商ノ權利特

權等ニ對シテ更ニ影響ヲ及サ、ルコト、即チ此等ノ藥種商カ藥品ヲ販賣シ或ハ調劑等ニ對シテ毫モ干渉スルコト之レナキ事、又タ今マ茲ニ人アリ英國臣民ニアラスシテ外國ノ大學ニ於テ醫學ニ關スル學位ヲ得タル者或ハ自國ニ於テ醫學ヲ營マンカ爲メニ規定ノ試験ヲ受ケテ及第シタル者カ或ル場所ノ居住醫トシテ開業セントスルカ、若クハ專ラ外國人タル患者ノ治療ニ從事スル爲メニ設立セラレタル病院ノ醫官タラント欲スル場合アリトセンカ、本條例ハ決シテ斯ル場合ニ干涉スヘキモノニアラス、夫本人ノ隨意タランノミ、但シ右ノ如ク或ル場所ノ居住醫若クハ醫官トシテ働クノミニシテ其他ノ醫業ニ從事セサルモノニ限ルモノトス

方形於ノ括弧内ノ文字ハ『一千八百五十八年發布醫業取締條例改正條例』ヲ示モノスト知ルヘシ(一千八百五十九年ノ發布ニ係ル)

.....

(イ)表

- 一、欽定倫敦醫學校ノ出身者、校友、卒業者若クハ特別卒業者
- 二、欽定エジンバルフ醫學校ノ出身者、校友、若クハ卒業者
- 三、兩陛下直轄ノ愛爾蘭醫學校ノ出身者若クハ卒業者

- 四、欽定英吉蘭外科醫學校内産婆學校ノ出身者、校友若クハ卒業者
- 五、欽定エジンバルフ外科醫學校ノ出身者若クハ卒業者
- 六、具羅斯哈醫學校ノ出身者若クハ卒業者
- 七、欽定愛爾蘭醫學校ノ出身者若クハ卒業者
- 八、倫敦藥學協會ノ卒業者
- 九、ダブリン藥學院ノ卒業者
- 十、我聯合王國中ノ或ル大學ノ醫學部ノ「ドクトル」得業生若クハ卒業者、或ハ本條發布以前ニ於テ「ドクター」ノ學位ヲ得タル者
- 十一、外國若クハ植民地ノ大學ニ於テ醫科「ドクトル」ノ學位ヲ得タル者カ、一千八百五十八年十月一日以前既ニ我聯合王國內ニ在リテ醫師トシテ開業シ、而シテ其學位ヲ得タルハ成規ノ試験ニ及第シタル結果ニ外ナラサルコトヲ證明シ、彼ノ會議カ視テ以テ正當ト認メタル者。若クハ本條例第四十五條同四十六條ノ規定ニ照シテ登記セララルヘキ資格アル者ト會議ノ確カニ認メタル者

方形ノ括弧内ノ文字ハ『一千八百五十八年發布ノ醫業取締條例改正條例』ヲ示スモノト知ルヘシ(一千八百五十九年ノ發布ニ係ル)

(ロ)表

(開業醫トシテ登記セラレンコト願ヒ出ル者ノ告白スヘキ事件ノ様式)

(ニ)表

登記事項……………姓名、住所及資格等公表ノ様式)

(ロ)一千八百五十九年發布ノ醫業取締條例

醫業取締條例(一千八百五十八年ノ發布ニ係ル)改正條例

序論

一、(一千八百五十九年一月一日發布ノ條例ヲ廢シテ更ニ一千八百五十九年七月一日發布ノ條例ヲ實行スヘキ事)

二、(右條例ノ第三十三條ヲ廢止スヘキ事)

三、(ニ表中四行目ヲ廢止スヘキ事)

四、(イ表中第一、第二ノ冒頭ニ『校友』ナル文字ヲ加フヘキ事)

五、(イ表中『四十五』トアルヲ改メテ『四十六』トナスヘキ事)

六、英國ノ臣民ニアラサル者ニシテ其本國ニ於テ醫學上ノ學位ヲ得タルモノアランカ、斯ル醫師ハ専ラ外國人タル患者收容ノ病院内ノ居住醫トナルコトヲ得ヘシ、(但シ一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例中第五十五條ヲ參照セヨ)

(ハ) 醫業取締條例改正條例

(一千八百六十年ノ發布)

醫業取締條例改正條例

(一千八百六十年三月廿三日ノ發布)

序論

一、(愛爾蘭ニ於ル醫科大學ノ卒業者ハ前條例ノ規定ニ從ツテ登記セラルヘキ權能ヲ有スルコト醫學士ノ學位ヲ得タルモノト異ナラス)

二、(醫務會議ヨリ與ヘラレタル或ル權能ハ本條例ニ適用セラルヘキモノトス)

- 三、(一千八百五十九年七月一日發布ノ條例ヲ廢シテ、之ニ代フルニ一千八百六十一年一月一日發布ノ條例第三十二章、第三十四章、第三十六章及第三十七章ヲ以テス、蓋シ是レ本條例ニ從ツテ登記セラ
ルヘキ權能アル者ニ關スル規定ナリト知ルヘシ)
- 四、(本條例ノ規定ニ從ツテ登記セラルヘキ權能アル者ハ、何人ニ限ラス或ル官衙ニ奉職スルコトヲ得
ヘシ、但シ登記ヲ經サル場合ハ此限ニアラス)
- 五、(前段ニ掲ケタル條例ト本條例トハ同一體ト見做サルヘキモノトス)
- 六、(略名ノ事)

(ニ) 欽定醫學校ニ關スル醫業取締條例

(一千八百六十年ノ發布)

醫業取締條例(一千八百五十八年ノ發布ニ係ル)改正條例

(一千八百六十年八月六日ノ發布)

序論

- 一、(用語ノ解釋)
- 二、(學校ニ授與セラルヘキ新條件ノ事)
- 三、(學校ハ好シ其名義ヲ變更スルモ尙ホ從來ノ權能ヲ維持シ得ヘキ事)
- 四、(學校ハ好シ其名義ヲ變更スルモ尙ホ其資産ヲ繼續シ得ヘキ事)
- 五、(ヘンリー、第七世ノ定メ給ヒシ選舉規定ヲ廢スヘキ事)
- 六、(欽定倫敦醫學校長選舉ノ事)

(ホ) 醫業取締條例

(一千八百六十二年ノ發布)

聯合王國ノ中央醫事教育會議ト登記事業トヲ合同セシムヘキ條例

(一千八百六十二年八月七日ノ發布)

序論

- 一、(會議ノ合同)

- 二、(會議ニ委任セラレタル藥局方ヲ印刷スヘキ權能ノ事)
- 三、(英國ノ藥局方カ公告サレタル場合ニ於テ新聞紙ニ與フヘキ注意ノ事)

(ハ) 醫業取締條例改正條例

(一千八百六十八年ノ發布)

植民地ニ於ケル開業醫ニ關スル法律ノ改正條例

序論

- 一、(略名)
 - 二、(本條例ノ解釋)
 - 三、(『醫業取締條例』ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラレタル者ノ登記ノ實行ニ關スル植民地ノ立法權)
- 本條例ハ醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布)ノ發布ニ從ツテ廢止セラレタリ

(一千八百六十年五月廿九日ノ發布)

(ト) 倫敦大學ニ關スル醫業取締條例

(一千八百七十三年ノ發布)

倫敦大學ニ關スル醫業取締條例改正條例

(一千八百七十三年七月廿八日ノ發布)

序論

- 一、(醫業取締條例ニ關シテ附則ヲ設クヘキ權能ヲ倫敦大學ニ與フル事)
- 二、(本條例ノ略名及編成法)

(チ) 藥劑師取締條例改正條例

(一千八百七十四年ノ發布)

セオージ王第三世在位第五十五年ノ發布ニ係ル條例改正條例、蓋シ『英吉蘭及威爾斯ニ於ル藥劑師ノ營業

ヲ一層改良セシムヘキ條例』是ナリ

序論

一、(略名)

二、(藥劑師條例中第四章、第九章及第十五章ヲ廢止スヘキ事)

三、(試驗員ノ員數及試驗手數料ノ制限ヲ廢止スヘキ事)

四、(或ル場合ニ於テハ卒業證ヲ取り消スコトアルヘシ)

五、(女子ヲシテ或ル試驗ヲ受ケシムヘキ協會ノ權能ヲ有セシメサル事)

(リ) 欽定英吉蘭醫學校ニ關スル醫業取締條例

(一千八百七十五年ノ發布)

欽定英吉蘭醫學校ニ關スル醫業取締條例改正條例

(一千八百七十五年七月十九日ノ發布)

序論

一、(醫業取締條例ニ關シテ附則ヲ設クヘキ權能ヲ欽定英吉蘭醫學校ニ與フル事)

(或ル場合ニ於テハ會議ヲシテ校友ヲ許スヘキ權能ヲ有セシメサル事)

(樞密院ヲシテ附則ヲ承認セシムヘキ事)

二、(婦人ヲシテ或ル試驗ヲ受ケシムヘキ權能ヲ學校ニ有セシメサル事)

三、(本條例ノ命名及編成法)

(ヌ) 開業醫取締條例

(一千八百七十六年ノ發布)

法律上正當ナル資格アル開業醫ヲシテ公衛ノ醫官ニ任命セラレ得ヘキ條例及醫業取締條例改正條例

(一千八百七十六年八月十一日ノ發布)

序論

一、(略名)

二、(法律上正當ナル資格アル開業醫ハ愛爾蘭ニ於ル郡立病院ノ醫員ニ選定セラルヘキ權能ヲ有スル事)

三、(醫學得業生ノ資格ヲ有スルモノハ醫業取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラルヘキモノトス)

(ル) 醫業取締條例(資格ニ關スルモノ)

(二千八百七十六年ノ發布)

醫業取締條例ノ規定スル所ニ從テ登記ヲ得ヘキ資格上從來男女別ノ故ヲ以テ制限アリシヲ廢止スヘキ條例

(二千八百七十六年八月十一日ノ發布)

序論

一、各團體ハ從來醫業取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ、登記ヲ得ヘキ資格ノ男性ニ限リテ授與スルノ權能ヲ有シ居タリシカ、自今以後男性タルト女性タルトヲ問ハス何人ニモ斯ル資格ヲ有スルモノトス、但シ各團體ハ好シスル權能ヲ有スルトモ之ヲ強壓的ニ用フルコトヲ得ス、又本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記資格ヲ得タルモノニアラスンハ、何人ト雖モ政府ノ官吏若クハ大學等ノ職員タルコトヲ得ス

二、「ヱキクトリア」第二十二號第二十一編ヲ以テ改正サレタル醫業取締條例)

(二千八百七十八年ノ發布)

(ヲ) 齒科醫取締條例

開業齒科醫ニ關スル法律改正條例

(二千八百七十八年七月二十二日ノ發布)

序論

- 一、(略名)
- 二、「ヱキクトリア」第二十一號、第二十二號第九十編ノ解釋) 登記法
- 三、(登記ヲ經サル者ニシテ「齒科醫」ノ稱號ヲ用フル者ニ對スル處罰法)
- 四、(登記ヲ經サル者ニシテ他ノ氏名ヲ用フル者ニ對スル處罰法及實際自カラ有シ居ラサル稱號ヲ用フル者ニ對スル處罰法)
- 五、苟クモ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ經タル者ハ、我女帝陛下ノ御所領内中何レノ箇所ニ於テモ齒科醫トシテ營業スルコトヲ得ヘキモノトス、(但シ地方々々ニ於テ實行セラレ居ル所ノ法律ニハ必ラス從ハサルヘカラス)而シテ一千八百七十九年八月一日以降何入ト雖モ齒科營業等ノ爲メ、一旦或ル裁判所ニ納付シタル手数料ハ之ヲ取り戻スコトヲ得ス、但シ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ經

タル者、若クハ法律上正當ナル資格ヲ有スル開業ハ此限ニアラス

六、何人ニ限ラス左記ノ内何レニカ該當スルモノハ登記セラルヘキ資格ヲ有スルモノトス

(イ) 醫學校中ノ何レカニ於テ齒科學ヲ卒業シタル者

(ロ) 外國若クハ植民地ノ齒科醫トシテ登記セラレ得ヘキ者

(ハ) 本條例發布前既ニ齒科醫トシテ開業シ居タリシ者、其他齒科醫ニシテ内科醫、外科醫若クハ藥劑師等ヲ併セ兼ヌル場合モ亦タ同シク本條例ニ從ツテ登記セラルヘキモノトス

七、齒科醫登記臺帳ヘ登記セラル、手續

八、茲ニ一人アリテ我カ聯合王國內ニ居住セサルカ、若クハ我カ聯合王國以外ニ於テ十ヶ年以上開業シタルカ、或ハ本條例發布ノ當時ニ於テ十ヶ年ヨリ少ナカラサル期間内我カ聯合王國內若クハ其他ノ箇所ニ於テ開業シタル者ニシテ、英國所領内ニ於テ其筋ヨリ與ヘラレタル認許證ヲ所有シ居ルコトヲ證明シ且ツ其品性良善ナル場合アリトセンカ、斯ル人ハ登記手数料サヘ納付シタルニハ我カ聯合王國內ニ於テ試験ヲ受クルヲ要セス、植民地ノ齒科醫トシテ齒科醫登記臺帳ニ登録セラル、モノトス

九、茲ニ一人アリテ英國臣民ニアラス、若クハ我カ聯合王國以外ニ於テ十ヶ年以上開業シタルカ、或ハ本條例發布ノ當時ニ於テ十ヶ年以上我カ聯合王國內若クハ其他ノ箇所ニ在リテ開業シタルモノニシテ、外國ニ於ケル其筋ヨリ與ヘラレタル認許證ヲ所有シ居ルコトヲ證明シ、且ツ其品性良善ナル場合

アリトセンカ、斯ル人ハ登記手数料サヘ納付シタルニハ、我カ聯合王國內ニ於テ試験ヲ受ルヲ要セス、齒科登記臺帳ヘ外國ノ齒科醫トシテ登録セラル、モノトス

十、英國ノ所領内若クハ外國ニ於テ與ヘラレタル免許證即チ本條例ノ規定ニ從ツテ要求セラル、所ノ免許證ト認定セラルヘキモノヲ所有スル者アリトセンカ、斯ル免許證所有者ハ齒科醫タル實務ヲ執ルニ妨ケナキ智識ト熟練トヲ有スルコトヲ證明スルモノナルカ故ニ、英國所領内若クハ外國ニ於テ營業スルモ妨ケナキモノトス、蓋シ斯ル免許證ナルモノハ其學藝ノ卒業證書、學位ノ證書等ト謂ツヘキモノニシテ中央會議カ有効ナルモノト認ムヘキモノナレハナリ

今マ茲ニ一人アリ植民地若クハ外國ノ齒科醫トシテ登記セラル、コトヲ拒否セラレタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ登記所ニ長タル者カ、他ヨリ要求セラレタランニハ、其拒否シタル理由ヲ書面ニ認メテ回答センコトヲ要ス、而シテ其拒否ノ理由トスル所カ其登記出願者ノ差シ出シタル免許證ノ不完全ナリト云フニアランカ、即チ其免許證ナルモノカ右ニ述ヘタルカ如キ正確ナルモノニアラストノ理由ノ下ニ拒否セラレタリトセンカ、斯ル場合ニ於テ其登記出願者カ其拒否セラレタルヲ不當ナリト思惟シタランニハ、樞密院ヘ上告スルコトヲ得ヘシ、而シテ樞密院ハ此事件ニ關シテ中央會議ヘ諮詢シタル後、或ハ其上告ヲ却下シ或ハ其免許證ヲ承認スヘキ旨中央會議ヘ命令ヲ下スヘキモノトス、中央會議ハ適ニ此命令ニ服從セサルヘカラス

- 十一、(齒科醫登記臺帳ノ内容、様式其他此臺帳ニ關スル規定)
- 十二、(齒科醫登記臺帳ノ正誤)
- 十三、(一旦登記セラレタル齒科醫ニシテ犯罪ノ證據舉リタルカ或ハ不名譽ノ行爲アリタラン場合ニハ、臺帳ヨリ其氏名ヲ削除スヘキ事)
- 十四、(齒科醫ノ氏名ヲ恢復シテ再ヒ登記臺帳ヘ登録セラル、事)
- 十五、(登記臺帳ヨリ削除及再登録ニ關スル中央會議ノ委員會)
- 十六、(登記手数料ノ事)
- 十七、(中央會議ノ命令)
- 十八、(齒科醫術ニ關スル試験ノ事)
- 十九、(試験委員局ノ事)
- 二十、(試験料ノ事)
- 廿一、(欽定英吉蘭醫學校ニ於ル齒科醫術試験ヲ繼續スル事)
- 廿二、(中央會議ハ試験ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ)
- 廿三、(試験ノ不成績ヲ樞密院ヘ上申スル事)
- 廿四、(樞密院ハ右ノ上申ニ對シテ命令ヲ發スヘキ權能ヲ有スル事)

廿五、(右命令ノ結果)

- 廿六、(樞密院ハ免許證ヲ與フヘキ權能ヲ有スル團體カ齒科學上ノ學說ニ對シテ制限ヲ置カント欲スルニ際シ、之ヲ禁止スルコトヲ得ヘキモノトス)
- 廿七、(「ゾキクトリア」第二十一號、第二十二號ノ九十編ニ規定サレタル登記事項ヲ取消スヘキ事)
- 廿八、(醫務局「設立セラレタランニハ」ニ於テ試験ヲ實行スルニ就テノ規定)

追 加

.....

廿九、(登記シタルコトノ證據)

- 三十、凡ソ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ經タル者ハ何人ニ限ラス、自カラ然カセンコトヲ希望スル場合ニ於テハ、左ニ列記スル職務ニ服セサルモ妨ケナキモノトス、曰ク總テノ陪審官ノ職ニ就ク事、アラユル團體ノ役員トナルコト、市町村等ノ公職ニ就クコト、義勇兵ニ編入セラル、等皆ナ是レ本人ノ望ミニ從ツテ免除セラル、如キコト是レナリ
- 卅一、(樞密院ノ權能行使ノ事)
- 卅二、(手数料適用ノ事)
- 卅三、(計算公表ノ事)

- 卅四、(登記出願事項中故意ニ詐僞シタル者ニ對スル處罰法)
- 卅五、(詐僞ノ申立ヲ爲シテ登記ヲ經タル者ニ對スル處罰法)
- 卅六、(開業醫死亡届出ノ事)
- 卅七、(或ル學生ニ對スル規定)
- 卅八、(附則ノ事)
- 卅九、(郵便ニ托スル届出ノ事)
- 四十、(罰金處分等不當ナリト申シ出ル事)

表

此表ハ一千八百七十八年ノ發布ニ係ル齒科醫取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ、登記セラレレンコトヲ希望スル者ニ對シテ要スル所ノ告白ノ様式ナリ

- (ワ) 醫業取締條例(一千八百五十八年ノ發布)改正條例(一千八百八十三年ノ發布)
- 〔此改正條例ハ一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例ニ依リテ全然廢止サレタリ〕

醫業取締條例(一千八百五十八年ノ發布)改正條例(一千八百八十三年七月十六日ノ發布)

序論

- 一、(中央醫務會議ノ議員一名ヲ選定スヘキ權能ヲ欽定大學ニ與フル事)
- 二、(略名)

(カ) 醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布)

醫業取締條例改正條例(一千八百八十六年六月二十五日ノ發布)

序論

- 一、(略名及編成法)

第一篇

醫師開業許可及中央會議ノ憲法
資格ヲ與フヘキ試験ノ事

二、(登記セラル、ニ先ンシテ試験ヲ受クヘキ事)

三、(一)資格ヲ與フヘキ試験トハ内科、外科及産婆學等ノ試験ヲ受クルコト是レナリ、蓋シ此等ノ試験ニ及第シタル者ハ登記ヲ受クヘキ資格アルコトヲ證明スル證書ヲ授與セラル、モノトス、而シテ此等ノ試験ハ左ニ記載スル諸團體ノ内タランコトヲ要ス

(イ) 我カ聯合王國內ニ於ル或ル大學、若クハ或ル醫學的團體是レナリ、蓋シ此等ノ大學及團體ハ本條例發布ニ從ツテ法律上内科及外科ノ醫學ニ關シテ免許證ヲ授與スヘキ資格ヲ有スルモノト知ルヘシ

(ロ) 我聯合王國內同一ノ地方ニ於テ醫學的團體ノ二者若クハヨリ以上聯合シタルモノ是レナリ、蓋シ此等ノ團體ハ内科、外科及産婆學ニ關シテ聯合試験ヲ行ハンカ爲メニ結合一致シタルニ外ナラス、而シテ斯ク聯合シタルモノ、内少ナクモ何レノ團體カ一團體カ内科學ニ就テ免許證ヲ與フヘキ資格ヲ有スルコト、若クハ外科ニ就テ免許證ヲ與フヘキ資格ヲ有シ居ランコトヲ要ス

(ハ) 右ニ述ヘタル如キ大學ト同一ナル他ノ大學ト聯合シ、若クハ此等ノ大學ト他ノ醫學的團體ト聯合シタルモノ是レナリ、但シ斯ク聯合スヘキ團體ハ共ニ是レ我カ聯合王國內同一ノ地方ニアラシコトヲ要ス

(二) 受験候補者ニ取りテ必要ナル素養ノ程度如何ト云フニ、内科、外科及産婆學ヲ充分實地ニ應用

スルニ必要ナル智識ト熟練トヲ有スルコトヲ確認スルニ至レハ足ランノミ、而シテ受験者ニシテ斯ル素養アルヤ否ヤヲ確カメンハ、是レ中央會議ノ職責ト謂フヘキナリ、中央會議ハ既ニ斯ル職責ヲ有スルカ故ニ試験監督者ナルモノヲ多數ニ任命セサルヘカラス、斯クテ中央會議ハ右ニ述ヘタル團體カ試験ヲ行ハントスルニ際シ此等ノ監督者ヲ派遣シテ夫々之ヲ監督セシメンコトヲ要ス

(三) 此規定ニ從ツテ任命セラレタル試験監督者ハ試験施行ノ事ニ就テハ之ニ干涉スルコトヲ得ス、然レトモ自カラ立チ合フタル各試験ノ成績ノ良否ニ就テ、自家ノ意見ヲ中央會議ニ報告スルハ其職責タラスンハアラス、尙ホ其他斯ル試験ニ關シテ爾々ノ事ニ注意セヨト命セラレタランニハ、試験監督者ノ職責上此等ノ事ニ就テ復命セサルヘカラス、而シテ中央會議ハ斯クノ如クシテ試験監督者ヨリ得タル報告書ノ謄本ヲ其試験ヲ實行シタル團體ヘ送付スヘク、又タ斯ル謄本ト各團體ヨリ中央會議ヘ差出シタル試験關係書類ヲ一括シテ樞密院ヘ回送センコトヲ要ス

(四) 此規定ニ從ツテ任命セラレタル試験監督者ハ中央會議ヨリ相當ノ報酬ヲ受クヘキモノトス、蓋シ此報酬ハ中央會議ノ總費用中ヨリ支出セラルヘキモノニシテ、其報酬金額ニ至リテハ中央會議ニ於テ之ヲ定メ、而シテ樞密院ノ裁決ヲ仰カンコトヲ要ス

四、(或ル資格ヲ與フヘキ試験實行ノ權能ヲ醫學的團體ヨリ撤去スル事)

五、(醫學的團體カ試験掛助手ト共ニ資格ヲ與フヘキ試験ヲ實行スル事)

六、開業醫ニシテ規定ノ日ニ於テ登記ヲ經たらんニハ、我カ聯合王國內ニ於テ醫術及産婆術ヲ開業スルコトヲ得ヘキモノトス、尙ホ其他我カ女帝陛下ノ御所領内ナル他ノ部分ニ於テモ同様ナルモノトス、蓋シ斯ル場合ニ於テハ其地方々々ノ法律規定ニハ必ラス從ハサルヘカラス、又タ治療其他醫術上ニ要シタル所ノ損害費用等ハ法律上ノ手續ヲ踐ンテ夫々賠償セシムルコトヲ得ヘシ、但シ醫學校ニ奉職スル場合ハ此限ニアラス

中央會議ノ憲法

- 七、(中央會議ニ列セシムヘキ代表者ヲ醫師中ヨリ選定スルニ就テノ規則)
- 八、(中央會議々員ノ事)
- 九、(中央會議々長選定ノ事)
- 十、(中央會議ノ憲法改正ノ事)

第二編

植民地及外國ノ開業醫

十一、茲ニ一ノ醫師アリ植民地ノ開業醫トシテ登記セラレシコトヲ登記掛ヘ出願セントスル時ハ、五封度ニ超過セサル登記手数料(此手数料ノ金額ハ中央會議ニ於テ時々定ムル所ニ從フヘキモノトス)ヲ納付シテ左記ノ手續ヲ踐マンコトヲ要ス、但シ左記ノ條項ニシテ全ク具備シ居ラン場合ニハ我カ聯合王國內ニ於テ試験ヲ要セスシテ直チニ植民地ノ開業醫トシテ登記臺帳ニ登録セラルヘキ資格ヲ有スルモノトス、曰ク英國ノ所領ナル植民地ニ於ル其筋ヨリ本條例ニ該當セル醫術開業免狀ヲ有スル事。其品性ノ良善ナル事。英國所領内ニ於テ法律上内科、外科及産婆術ヲ實行スルニ足ルヘキ資格ヲ有スルコト等ヲ一々證明スル事

尙ホ左ノ事項ヲ開業シテ登記掛ノ嘉納スル所トナランコトヲ要ス

(一) 右ニ述ヘタル開業免狀ヲ授與セラレタルハ聯合王國內ニ住居セサリシ時ナルコトヲ證明スヘキ事、若クハ滿五ヶ年以上聯合王國內ニ住居セサリシ期間ニ於テ此免狀ヲ受ケタルコトヲ證明スヘキ事

(二) 本條例發布ノ時ニ方リテ聯合王國內ニ於テ現ニ内科若クハ外科ノ醫術ニ從事シツ、アルコトヲ證明スヘキ事、又タ本條例發布ノ當日ヨリ以前ニ滿五ヶ年以上以上繼續シテ聯合王國內若クハ其

他ノ箇所ニ於テ右ノ如キ醫業ニ從事シタルコトヲ證明スヘキ事

十三、(一) 英國ノ所領内カ若クハ外國ニ於テ授與セラレタル醫術開業免狀ニシテ果シテ本條例ノ規定ニ該當スルモノナリトセンカ、是レ即チ中央會議カ左記ノ如キ承認ヲ與フヘキモノト謂ツヘキナリ、曰ク斯ル免狀ヲ有スル者ハ内科、外科及産婆術ヲ實行スルニ足ルヘキ智識ト熟練トヲ有スルニ足ルヘキモノト承認ヲ與フルコト是レナリ

(二) 然ルニ中央會議ニシテ植民地若クハ外國ニ於テ授與サレタル醫術開業免狀ニ對シテ、右ノ如キ承認ヲ與フルコトヲ肯ンセサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ此免狀所有シタラン者ハ、斯ル中央會議ノ處置ヲ不當ナリトシテ樞密院ヘ告訴スルコトヲ得ヘキモノトス、樞密院ハ斯ル告訴ニ就テ審理ヲ遂ケタル結果承認ヲ與フルコトヲ至當ナリト思惟シタランニハ、該免狀ヲ承認スヘキ旨中央會議ニ命令スヘキモノトス、而シテ中央會議ハ適ニ此命令ニ服從セサルヘカラス

(三) 茲ニ一人アリ植民地若クハ外國ノ開業醫トシテ登記セラレンコトヲ出願シタルニ、之ヲ拒絕セラル、コトアリ、其之ヲ拒絕セラル、ノ理由カ出願者ノ有スル醫術開業免狀カ上述シタルカ如キモノニアラストノ理由ニアラスシテ、其他ノ理由ニ基ケリトセンカ、斯ル場合ニ於テ中央會議ノ登記掛カ他ヨリ要求セラレタランニハ、其拒絕シタル理由ヲ書面ニ認メテ回答センコトヲ要ス、而シテ此拒絕ヲ不當ナリトセル登記出願者ハ樞密院ヘ告訴スルコトヲ得ヘキモノトス、樞密院ハ斯ル告

訴ヲ受ケテ後審理ヲ遂ケ中央會議ト交渉シタル結果或ハ之ヲ却下シ、或ハ其願意ヲ聽許シテ登記臺帳ニ其姓名ヲ登録スヘキ旨中央會議ニ命令ヲ下スヘキモノトス

(四) 茲ニ一人アリ本條例ニ規定サレタル資格ヲ有スルモノナランニハ、植民地及外國ノ開業醫トシテ登記セララルヘキモノトス

十四、醫師登記臺帳ニ植民地ノ開業醫ヲ登録セン場合ニハ、其姓名ト住所トヲ別々ニ記載シ置カンコトヲ要ス、外國ノ開業醫ヲ登録セン場合モ亦タ同様ナランコトヲ要ス、而シテ此等ノ姓名ヲ記載センニハ皆ナ是レ頭字ノイロハ順ナランコトヲ要ス、又タ一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例中、本條例ニ從ツテ登記セラレタル者ニ關スル規定、醫師登記臺帳ニ關スル規定及之ニ關スル犯罪ノ處分法等皆ナ是レ本條例ニ從ツテ登記セラレタル植民地及外國ノ開業醫ニ適用セラル、モノトス、且ツ本條例ノ規定モ亦タ是レ一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例ニ從ツテ登記セラレタル者ニモ適用セララルヘキモノトス

十五、指定サレタル當日及是レヨリ以後ニ於テ登記セラレタル或ル開業醫ニシテ左記ノ如キ事ヲ要求セシハ法律上當然ノ事ト謂ツヘキナリ、曰ク植民地若クハ外國ノ開業醫トシテ其筋ノ登記臺帳ニ登録セラレタル者ニシテ、指定サレタル當日若クハ其後本條例ニ該當セル醫師開業免狀ヲ有シ居ランカ、即チ英國ノ所領内若クハ外國ニ於テ正當ニ授與サレタル植民地若クハ外國ノ開業醫免狀ヲ有シ居ラン

カ、斯ル開業醫ハ登記臺帳ニ登録サレタル自家ノ姓名ノ側ニ、斯ル免狀ヲ有シ居ルコトヲ書キ加ヘラ
レンコトヲ要求スルハ、法律上當然ノ事ト謂ツヘキナリ

十六、指定サレタル當日及是レヨリ以後ニ於テ登記サレタル或ル開業醫ニシテ、左記ノ如キ事ヲ要求セ
ンハ法律上當然ノ事ト謂ツヘキナリ、曰ク英吉蘭、蘇格蘭若クハ愛爾蘭ノ人ニシテ醫師タルノ資格アル
ヲ以テ醫師登記臺帳ニ登録セラレタルカ、斯ル開業醫ニシテ外國ニ於テ得タル醫學ニ關スル學位ヲ有
シ居ランニハ、登記臺帳中自家ノ姓名ノ側ニ斯ル學位ヲ書キ加ヘラレンコトヲ要求スルハ、法律上當
然ノ事ト謂ツヘキナリ、但シ本條例發布前適當ナル試験ヲ經テ斯ル學位ヲ得タルコトヲ證明シ、中央
會議ニ於テ此證明ヲ正確ナリト信スル場合ニ限ルモノトス

十七、(一) 我カ女帝陛下ハ時々立法會議ノ命令ニ依リテ左記ノ如キ事ヲ布告シ玉フヘキモノトス、曰
ク立法會議ノ命令ヲ以テ指定サレタル某日以後、本條例中英國植民地若クハ外國ニ於ル開業醫ニ關
スル條項ハ英國ノ或ル所領地若クハ外國ニ適用セラルヘキモノトス、而シテ尙ホ陛下ノ御意見ニテ
ハ聯合王國中ニテ登記ヲ經タル開業醫ハ、右ニ述ヘタル英國ノ或ル所領地若クハ外國ニ於テ醫術開
業ヲ爲シ得ヘキ特權ヲ有スヘキモノトス、又タ右立法會議ノ命令ヲ以テ指定サレタル某日以後、所
謂ル英國ノ或ル所領地若クハ外國ト云ヘル意義ハ、本條例中此段ノ英國ノ或ル所領地若クハ外國ノ
謂ニ外ナラスト知ルヘシ

(二) 我カ女帝陛下ハ時々立法會議ノ命令ニ依リテ本條ノ規定實行ノ爲メ發布セラレタル或ル命令ヲ
廢止シ若クハ改正シ玉フヘキモノトス、既ニ英國ノ或ル所領地若クハ外國ニ關スル或ル命令ノ廢止
セラレタル以上ハ、斯ル所領地若クハ外國ハ本條例中此段ノ適用セラルヘキ所領地若クハ外國タラ
サルモノトス、然レトモ之カ爲メニ既ニ登記臺帳ニ其氏名ヲ登録セラレタル開業醫ノ權能ニハ毫モ
影響ヲ及ホスヘキモノニアラス

十八、既ニ醫術開業免狀ヲ有スル開業醫ニシテ本條例ノ所謂ル英國ノ或ル所領地ニ於テ營業シ得ヘキ權
能アル以上ハ、斯ル所領地ニ於テ登記ヲ經タル船舶ノ醫官トナルコトヲ得ヘキモノトス、蓋シ一千八
百五十八年發布ノ醫業取締條例中ノ規定ニ照シテ毫モ差支ヘ之レナケレハナリ

第三篇

雜則

十九、(中央會議ノ怠慢)

二十、(資格ノ追加「ヴェクトリア第廿一號第廿二號第九章ノ規定」)

- 廿一、(衛生學終了證書ノ登記)
- 廿二、(樞密會議權能ノ行使)
- 廿三、(命令ノ實證)

用語省略ノ事

- 廿四、(現在ノ開業醫ノ開業ニ關スル用語省略ノ事)
- 廿五、(地方的法律ニ關スル用語省略ノ事)
- 廿六、(「ヅキクトリア」第四十一號ヨリ第四十二號ニ至第三十三篇ニ於ル用語省略ノ事)

用語解釋ノ事

廿七、本條例中『聯合王國中ノ或ル箇所』ト云ヘルハ其時ノ事情ニ從ツテ英吉蘭、蘇格蘭若クハ愛爾蘭ノ何レカラ指示スルモノト知ルヘシ、『英國所領』ト云ヘルハ聯合王國ノ外ナルアイスル、ヲフ、マン瀬戸内ノ島嶼、中央立法部及地方立法部ノ管下ニ屬スル我カ女帝陛下ノ御所領ナリト知ルヘシ

『地方的法律』ト云ヘルハ英國所領中ノ立法部ニ於テ制定シタル條例若クハ法令ナリト知ルヘシ
 『指定サレタル時日』ト云ヘルハ一千八百八十七年六月一日、若クハ樞密院ニ於テ指定セル一千八百八十七年六月某日ナリト知ルヘシ

『醫學團體』ト云ヘルハ我聯合王國內ニ於テ醫學上ノ事ニ關シテ組織セラレタル團體ノ謂ナリ、而シテ斯ル團體ハ適當ナル試験ヲ行ヒ、此試験ニ及第シタル者ニ對シテ修業證書ヲ授與スルノ權能ヲ有スルモノナリ、苟クモ斯ル修業證書ヲ有スルモノハ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ經ヘキ資格ヲ有スルモノトス、但シ大學ハ斯ル醫學團中ニ加ハラサルモノト知ルヘシ

『登記ヲ經タル開業醫』ト云ヘルハ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラレタルモノト知ルヘシ
 『證書』ト云ヘルハ左ニ記載スル所ノ諸種ヲ包含スルモノト知ルヘシ、曰ク或ル大學其他ノ團體若クハ或ル政府中ノ局課、我女帝陛下ノ御所領内及其以外ニ於ル官憲ヨリ授與セラレタルモノニシテ、某學位ヲ有スルコト若クハ某學術ヲ修得シタルコトヲ證明スルモノ是レナリ

『醫學證書』ト云ヘルハ內科學、外科學及產科學ヲ修得シタルコトヲ其向々ヨリ證明シタルモノ是レナリ

『人』ト云ヘルハ團體中ニ屬スルカ若クハ屬セサル人は是レナリ

『醫業取締條例』ト云ヘルハ一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例及本條例發布以前ニ係ル右條

例改正條例是レナリ

廢止

(表中ニ於ル規定ノ廢止)

表

第一部

條例ノ題名若クハ略名

廢止ノ範圍

一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例
第四章及第五章、第二十四章
改正條例

第二部

一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例
第三十一章
全部
一千八百六十八年ノ發布ニ係ル醫業取締條例改正條例

(ヨ) バーミンハム大學條例

(一千九百年ノ發布)

内科、外科及産科ニ關スル試験ヲ施行シテ適當ノ資格ヲ授與スヘキ權能、及中央醫務會議ニ列スヘキ代表者ヲ選定スヘキ權能ヲ同大學ニ與フル事

(タ) 産科取締條例

(一千九百二年ノ發布)

(レ) リヴハーブール大學條例

(一千九百三年ノ發布)

(ソ) リーズ大學條例

(一千九百四年ノ發布)

(ツ) セツフヒールド大學條例

(一千九百五年ノ發布)

(ネ) 醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ル)改正條例

(一千九百五年ノ發布)

此改正條例ナルモノハ一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例ヲ改正スルモノ是ナリ、即チ一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例中第十一編ノ意義ヲ一層擴張シテ、聯合植民所ノ各地方ニモ適用スルコト、ナシタルモノ是レナリ

序論

一、一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例ノ目的中英國所領中ノ箇所ハ、中央立法部ノ管轄ニ屬シ、又タ地方立法部ノ管轄ニ屬スヘキモノト定メラレタリ、然ルニ我カ皇帝陛下ノ御意見ニテ然カ爲スヲ適當ナリト思惟セラレタランニハ、立法會議ノ命令ニ依リテ左ノ如キ布告ヲ發セシムヘキモノトス、曰ク地方立法部ノ管轄ニ屬スヘキ箇所ハ英國ノ特別ナル所領ト見做サルヘキモノトス
二、本條例ハ醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ル)改正條例ト命名セラルヘキモノトス

(一千九百五年ノ發布)

(ナ) 藥劑師取締條例

(一千九百七年ノ發布)

(ラ) 愛爾蘭大學條例

(一千九百八年ノ發布)

(ム) ブリストル大學條例

(一千九百九年ノ發布)

(ウ) 偽誓取締條例

(一千九百十一年ノ發布)

(キ) 威爾斯大學條例

(一千九百十一年ノ發布)

(ニ)表、(一)政府ヨリ、(二)醫務會議ヨリ手数料ナクシテ醫師登記臺帳ノ謄本ヲ交付サレタル數個ノ官衙及官吏ヲ示セルモノ

(ホ)表、英吉蘭、蘇格蘭及愛爾蘭ナル三箇所ノ地方臺帳ニ(イ)登録セラレ及(ロ)尙ホ其臺帳ニ存在セルモノノ全數ヲ示セルモノ、但シ其臺帳ニ存在セルモノ、數カ全數ノ百分比例ノ幾干ニ當ルヤヲモ示セルモノ
(ハ)表、一千八百七十五年ヨリ一千九百十二年ニ至ルマテノ期間ニ於テ、醫師登記臺帳ニ姓名ヲ登録セラレタルモノ、數若クハ斯ル臺帳ヨリ除名セラレタルモノ、數ヲ示セルモノ

(ト)表、醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ル)中ニ記載サレタル『指定時日』(一千八百八十七

年六月三十日)以後ニ於ル數種ノ登記資格ヲ示セルモノ、但シ醫師登記臺帳ニ此等ノ資格ヲ記載スルニ當リテ用フヘキ略語ヲモ示セリ

(イ) 現今若クハ以前ニ得タル資格ノ事

登記資格ノ事

資格ヲ與フヘキ團體

第一ニ登記セラルヘキモノ

内科、外科若クハ産科ニ關シテ附屬ノ資格ヲ有スルモノ

欽定倫敦醫學校

卒業者

出身者、校友、卒業者

欽定倫敦醫學校

卒業者及校友

出身者、校友、卒業者

欽定英吉蘭醫學校

卒業者

産科ニ於ケル出身者校友、卒業者

欽定エジンバルフ醫學校

卒業者

出身者、校友、卒業者

欽定エジンバルフ醫學校

卒業者

出身者、卒業者

具羅斯哈醫學研究所

卒業者

出身者、卒業者

欽定愛爾蘭醫學校

卒業者

産科ニ於ケル出身者、校友、卒業者

欽定愛爾蘭醫學校

卒業者

産科ニ於ケル出身者、卒業者

欽定愛爾蘭醫學校

卒業者

産科ニ於ケル出身者、卒業者

ジュープリン藥學研究所

卒業者

卒業者

(ト)表、承前

(イ) 現今若クハ以前ニ得タル資格ノ事

登記資格ノ事

資格ヲ與フヘキ團體

第一ニ登記セラルヘキモノ

内科、外科若クハ産科ニ關シテ追加ノ資格ヲ有スルモノ

倫敦藥學協會

卒業者

卒業者

ジウプリン藥學研究所

卒業者

卒業者

ワツキスフホルド大學

醫學博士

醫學博士

ケムブリッジ大學

內科醫學博士

內科醫學博士

ダルハム大學

內科學得業士

倫敦大學

內科學得業士

「ウキクトリア」大學

內科學得業士

バーミンハム大學

醫學及外科得業士

エジンバルフ大學

內科學得業士

アベルジーン

內科學得業士

(と)表、承前

(イ) 現今若クハ以前ニ得タル資格ノ事

登記資格ノ事

醫外內醫	外內醫	外內醫	醫內醫	醫外內醫	醫醫外內醫
科科	科科	科科	科	科科	學科科
學得	得得	得得	學得	學得	學卒得
業業	業業	業業	業	業業	業業業
士士士	士士士	士士士	士士士	士士士士	士者士士士

資格ヲ與フヘキ團體

第一ニ登記セラルヘキモノ

テ追加ノ資格ヲ有スルモノ

具羅斯哈大學

內科學得業士

セント、アンドリウス大學

內科學得業士

ジウプリン大學

內科學得業士

欽定愛爾蘭大學

內科學得業士

(ロ) 現今得タルニアラサル資格ノ事

欽定エジンバルフ醫學校

卒業者

欽定エジンバルフ醫學校

欽定エジンバルフ醫學校

外醫內醫	外外醫內醫	醫外內醫	醫外內醫
科科	科科	科科	科科
學得	得卒學卒	學得	學得
業業	業業業	業業	業業
士士士	士者士者士	士士士士	士士士士

欽定エジンバルフ醫學校

卒業者

具羅斯哈醫學研究所

アベルジーン大學

內科學博士

女帝直轄愛蘭大學

醫學博士

(イ)醫業取締條例(一千八百八十六年ノ發布ニ係ル)第二章ノ規定スル所ニ據ルニ、以上述ヘタル資格中ノ何レヲカ有シ居ルコトヲ證明センカ爲メニハ、此等ノ所有者タル者ハ、內科、外科及産科等ノ試験ニ合格シタル事實ヲ證明セン事ヲ要ス、而シテ此等ノ資格ハ既ニ登記セラレタル資格中ニ加ヘラルヘキモノトス、但シ衛生學ニ關スル學位ハ別種ノ表中ニ編入センコトヲ要ス
且ツ右ニ述ヘタル資格ハ一千八百八十七年七月一日カ或ハ其以後受ケタル者、若クハ一千八百九十七年五月三十一日カ或ハ其以後受ケタルモノナランコトヲ要ス

大學教育條例(一千八百七十九年ノ發布ニシテ愛爾蘭ニ關スルモノ)ノ第十一章ニ於テ左記ノ如キ事カ規定セラレタリ、曰ク女帝直轄大學ノ解散ノ時、ニ際シテ愛爾蘭ニ於ル女帝直轄大學ヨリ學位ヲ受ケ居タリシ者ハ、何人ニ限ラス皆ナ是レ欽定愛爾蘭大學ノ學位(前者ト同等ノ學位)ト見做サルヘキモノトス、但シ欽定愛爾蘭大學條例ノ規定ニ從ハンコトヲ要ス

(チ)表、登記セラルヘキ又ハ登記セラレタル證書、衛生學、公衆衛生學、若クハ國家醫學ニ熟達シタル證書、

及斯ル證書ノ名稱、又タ醫師登記臺帳ニ記載スヘキ此等ノ證書ノ略名等ヲ示セルモノ

證書ヲ與フヘキ團體

證書ノ名稱

欽定倫敦醫學校及欽定英吉爾醫學校

公衆衛生證書

ワツキスフホルド大學

公衆衛生證書

ケムブリッヂ大學

公衆衛生證書

ダルハム大學

衛生證書及公衆衛生證書

倫敦大學

國家醫學、公衆衛生學、醫學博士證書

ヅキクトリア大學

衛生證書公衆衛生證書

バーミンハム大學

公衆衛生證書

欽定エジンバルフ醫學校具羅斯哈醫學研究所

公衆衛生證書

エジンバルフ大學

公衆衛生學得業士及ドクトル

アベルジーン大學

公衆衛生證書

具羅斯哈大學

公衆衛生證書

セント、アンドリュウズ大學

公衆衛生證書

欽定愛爾蘭醫學校

ジウブリン大學

欽定愛爾蘭大學

(リ)表、既ニ登記ヲ經タル開業醫ニシテ醫學ニ關スル外國ノ諸種ノ學位ヲ有スル者(一千八百八十六年六月二十五日ヨリ以前ニ於テ斯ル學位ヲ得タル者ニ就テ云フ)ハ、此等ノ學位ヲ追加トシテ登記臺帳ニ記入セラルヘキ實例ヲ示セルモノ

公衆衛生證書

國家醫學證書

衛生學證書

登記セラルヘキ資格ノ事

資格ヲ與フヘキ團體

稱 號

證書面ニ記載サレタル資格ノ性質

パウル大學

醫學博士

内科、外科及産科

伯林大學

醫學博士

内科及外科

ベルン大學

醫學博士

内科、外科及産科

ボンヌ大學

醫學博士

内科及外科

ブラツセルス大學

醫學博士

内科、外科及産科

イルランゲン大學

醫學博士

内科

フレイバーク大學

醫學博士

内科

ギイツセン大學

醫學博士

内科、外科及産科

ヘイデルバルグ大學

醫學博士

内科、外科及産科

コッチンゲン大學

醫學博士

内科、外科及産科

マルタ大學

醫學博士

内科及外科

マルバルグ大學

醫學博士

内科、外科及産科

ネーブルス大學

醫學博士

内科及外科

巴里大學

醫學博士

内科

ペンシルヴァニア大學

醫學博士

内科、外科及産科

ピッサ大學

醫學博士

内科

ストラスバルグ大學

醫學博士

内科

ウオルツバルグ大學

醫學博士

内科、外科及産科

ヂウリツチ大學

醫學博士

内科、外科及産科

パツフハロウ大學

醫學博士

内科

ハーグハード大學	醫學博士	內科
紐育大學	醫學博士	內科
紐育市大學	醫學博士	內科
ウハーモント大學	醫學博士	內科
紐育ベレヅユース醫學校	醫學博士	內科
フヒラデルフピア、シヨツフヘルソン醫學校	醫學博士	內科及外科
シンシニナツチー、ミアミ醫學校	醫學博士	內科及外科

(ヌ)表、外國ニ於テ授與サレタル數種ノ學位(一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例中第二編第十章ノ規定ニ從ツテ授與セラレタルモノ)ヲ有スモノニシテ外國人ノ名簿中ニ登記セラレヘキモノ
 一千八百八十六年ノ發布ニ係ル醫業取締條例第二編ハ一千九百一年三月九日内閣會議ノ命令ヲ以テ伊太利國ニ適用セラレタリ、即チ欽定伊太利大學ヨリ採與セラレタル醫學博士ノ稱號ヲ有スルモノハ外國人ノ名簿中ニ登記セララル、コト、ナリタリ
 又タ同條例第二編ハ一千九百五年十二月十一日内閣會議ノ命令ヲ以テ日本國ニ適用セラレタリ、即チ日本帝國大學ヨリ授與セラレタル醫學士及醫學博士ノ稱號ヲ有スルモノハ、外國人ノ名簿中ニ登記セララルコト、ナリタリ

醫師取締條例 Medical Act. 1886

一千八百八十六年之制定

醫師取締條例目錄

條項ノ編成

第一條 略名及從來ノ法令ニ編入ノ事

第一編

醫術開業ノ認可及中央會議ノ組織、資格試験ノ事

第二條 登記セラル、ニ先ンシテ試験ヲ受ケンコトヲ要ス

第三條 醫學團體等ニ於テ資格試験ヲ施行スル事

第四條 或ル場合ニ於テ資格試験ヲ施行シ得ヘキ醫學團體等ノ權能ヲ褫奪スル事

第五條 數個ノ醫學團體カ互ニ相聯合シ試験委員助手ヲモ加ヘテ資格試験ヲ行フヘキ事

登記ノ効力ノ事

第六條 登記ヲ經タル者ノ有スヘキ權能、

中央會議ノ組織

- 第七條 中央會議ノ議員
- 第八條 開業醫ノ代表者選舉ニ關スル規則ノ事
- 第九條 中央會議ノ議長選舉ノ事
- 第十條 中央會議ノ憲法改正ノ事

第二編

植民所開業醫及外國開業醫ノ事

- 第十一條 適當ナル試験證書ヲ有スル植民所開業登記ノ事
- 第十二條 適當ナル試験證書ヲ有スル外國開業醫登記ノ事
- 第十三條 植民所開業醫及外國開業醫ノ有スル醫術免狀ハ確實ナルモノト認メラレンコトヲ要ス
- 第十四條 醫師登記臺帳ノ表中ニハ植民所開業醫ト外國開業醫トヲ別々ニ爲シ置カンコトヲ要ス
- 第十五條 植民所開業醫及外國開業醫ノ有スル學位ノ事
- 第十六條 登記ヲ經タル外國開業醫ノ有スル外國學位ヲ登記スヘキ事
- 第十七條 中央會議ハ本條例ノ所謂植民所及外國ノ意義ヲ解釋スル權能ヲ有スルモノトス
- 第十八條 船舶乘組醫官ニ關スル條例ノ改正（此條例ト云ヘルハ「ウキクトリア」第二十一號及第二十二號九十編第三十六章ニ記載セラレタルモノ是レナリ）

第三編

雜則ノ事

- 第十九條 中央會議ノ行動ニ失態アリタル場合ノ事
- 第二十條 「ウキクトリア」第二十一號及第二十二號九十編ニ規定サレタル資格ニ對シテ追加スル事
- 第二十一條 衛生學免狀登記ノ事
- 第二十二條 樞密院ノ權能實行ノ事
- 第二十三條 命令ノ證據書類トナルヘキモノ
除外例
- 第二十四條 現在ノ開業醫ノ營業上ニ關スル除外例
- 第二十五條 地方的法令ニ關スル除外例
齒科醫ニ關スル件
- 第二十六條 「ウキクトリア」第四十一號及第四十二號第三十三編ニ關スル規定
用語ノ解釋
- 第二十七條 用語ノ解釋
以上

醫師取締條例

第四十八編

醫師取締條例改正條例

一千八百八十六年之制定

五二四

(一千八百八十六年六月二十五日發布)

現時開會中ナル國會即チ貴衆兩院ノ協賛ヲ經女王陛下ノ御裁可ヲ得テ茲ニ左ノ如キ法律ヲ公布ス

第一條 本條例ヲ名ケテ一千八百八十六年制定ノ醫師取締條例ト云ヒ從來ノ醫師取締條例中ニ編入スヘキモノトス

第一編

醫師開業ノ認可及中央會議ノ組織、資格試験ノ事

第二條 何人ニ限ラス本條例ノ規定スル所ニ從ツテ内科、外科及産科ニ關スル資格試験ニ合格シタル者ニアラスンハ登記セラル、コトヲ得ス、所謂ル此登記トハ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ、指定ノ日限及其以後ニ於テ本條例ニ記載サレタル或ル資格ヲ有スルコトヲ登記セラル、コト是レナリ

第三條 (一) 所謂ル資格試験トハ内科、外科及産科ニ關スル試験ニシテ、此試験ニ及第シタルモノハ本條例

ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラルヘキ權能アル證書ヲ交付セラル、モノトス、而シテ此試験ヲ行フヘキ團體ハ左記ノ内何レニカ屬センコトヲ要ス

- (イ) 本條件ノ規定スル所ニ從ツテ内科、外科等ニ關スル證書ヲ成法上交付スヘキ資格ヲ有スル聯合王國內ノ或ル大學若クハ或ル醫學團體
- (ロ) 聯合王國內同一ノ地方ニ於ケル二個若クハヨリ多數ノ醫學團體カ互ニ一致協同シテ内科、外科及産科ニ關スル聯合試験ヲ行フ者、但シ此數團體ノ内少ナクモ一團體ハ内科ニ關スル試験合格證書ヲ交付スヘキ資格ヲ有シ居リ、及同シク少ナクモ一團體ハ外科ニ關スル試験合格證書ヲ交付スヘキ資格ヲ有シ居ランコトヲ要ス

(ハ) 右ノ外數個ノ大學カ互ニ一致協同スルカ、或ハ大學カ他ノ醫學團體ト一致協同シテ聯合試験ヲ行フコトヲ得ヘキモノトス、但シ此等ノ大學及醫學團體ハ共ニ是レ聯合王國內同地方ニアランコトヲ要ス

(ニ) 苟クモ右ニ述ヘタル受験候補者タランモノハ固ヨリ充分ナル實力ヲ有シ居ラサルヘカラス、即チ其實力トハ内科、外科及産科ヲ實地ニ應用スヘキ智識ト經驗トヲ有スルコト是レナリ、而シテ受験候補者カ果シテ斯ル實力ヲ有シ居ルヤ否ヤヲ確カメンハ中央會議ノ職責ト謂ツヘキナリ、此ニ於テカ中央會議ハ試験監督者ヲ任命シテ右ニ述ヘタル試験ニ立會サシメンコトヲ要ス

五二五

(三) 本條ノ規定スル所ニ從ツテ任命サレタル試験監督者ナルモノハ、試験實行ノ事ニ關シテ毫モ關係スヘキモノニアラス、斯ル監督者ノ職責トスヘキ所ハ自カラ親シク立會フタル各試験ノ方法、果シテ其宜シキヲ得タルヤ否ヤニ就テ有スル所ノ意見ヲ中央會議ニ報告シ、且ツ斯ル試験ニ關シテ中央會議ヨリ爾カノ事ニ注意セヨト命セラレタル事ニ就テ報告スル等是レナリ、而シテ中央會議ハ斯ル報告ヲ取り纏メタル上試験ヲ實行シタル各團體へ送付スヘク、且ツ試験ヲ行フタル團體ヨリノ報告ト併セテ樞密院へ回送センコトヲ要ス

(四) 本條ノ規定スル所ニ從ツテ任命サレタル試験監督者ハ若干ノ報酬ヲ受クヘキモノトス、但シ此報酬ハ中央會議費用中ノ一部分トシテ支拂ハルヘキモノニシテ、其報酬金額如何ニ至リテハ樞密院ノ承認ヲ經テ定ムヘキモノトス

第四條

(一) 今マ假リニ或ル場合ニ於テ彼ノ資格試験ノ實行セラレタル時不都合ノ點アリシコトヲ中央會議ノ見出シタルコトアリトセンカ、斯ル場合ハ中央會議ハ適當ノ處置ヲ取ランコトヲ要ス、尙ホ之ヲ詳言センカ、曰ク彼ノ大學若クハ其他ノ醫學團體ニ於テ資格試験ヲ實行スルノ際、受験候補者タルモノノ内科、外科、産科、其他必要ナル科目ニ關シテ有スル實力ノ程度ノ不充分ナルコトヲ中央會議ノ見出シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ中央會議ヨリ其由樞密院へ通報センコトヲ要ス、而シテ樞密院ハ此通報ト其關係團體ヨリ提出シタル反對論トヲ精讀シ熟慮シタル後中央會議ノ方ヨリ送付シタ

ル通報ヲ適當ナリト思惟シタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ樞密院ハ命令ヲ發シテ左ノ如ク公布センコトヲ要ス曰ク爾カ々々ノ團體若クハ爾カノ聯合團體ノ行フタル試験ハ、醫師取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記ヲ目的トセル資格試験ト見做スコトヲ得スト、然レトモ樞密院ヨリ一旦斯ル命令ヲ發スト雖モ、爾後全ク反對ノ實證舉リタル場合ニ於テハ此命令ヲ取消スコトアルヘキモノトス

(二) 樞密院ヨリ發シタル右ノ如キ命令ニシテ尙ホ効力ヲ有スル期間ハ、關係團體若クハ關係聯合團體カ好シ試験ヲ施行スル場合アルモ、其試験ハ本條例ノ所謂ル資格試験ト見做スヘキモノニアラス、從ツテ斯ル試験ニ合格シタル證書ヲ有スルモノト雖モ、本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラルヘキ資格ヲ有セサルモノトス、且ツ斯ル團體若クハ聯合團體ハ代表者ヲ選定シテ中央會議ニ參列セシムルコトヲ得ス

第五條

(一) 茲ニ一ノ醫師團體アリ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ資格試験ヲ施行スルノ目的ヲ以テ他ノ團體ト聯合シ得ヘカラサル事情アリ、然レトモ此醫師團體ハ斯ル聯合ヲ爲サンカ爲メニ充分ニ盡力シタル所アリ、而シテ中央會議ニ於テ此等ノ事實ヲ充分ニ認識シタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ自カラ然カ爲スヲ適當ト思惟シタランニハ、若干ノ試験委員ナルモノヲ任命シテ斯ル醫師團體へ派遣シ其試験ヲ幫助セシメンコトヲ要ス、而シテ斯ル團體ノ資格試験ニ及第シタルモノハ、本條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラルヘキ權能ヲ有スルモノトス

- (二) 右ノ如ク中央會議ヨリ派遣セラレタル試験委員助手タルモノ、職責トスル所ハ概ネ左ノ如シ、曰ク資格試験ノ受験候補者ニシテ内科、外科及産科ニ關シテ充分ノ實力ヲ有スルヤ否ヤヲ確カメ得ルコトナリ、既ニシテ斯ル試験ニ合格シタルモノハ所謂ル本條例資格試験ニ適合シタルモノト知ルヘシ
- (三) 本條ノ規定スル所ニ從ツテ任命セラレタル試験委員助手ハ、其試験ヲ施行スル醫學團體ヨリ相當ノ報酬ヲ受クヘキモノトス、但シ其報酬額ハ中央會議ノ定ムル所ニ從ハンコトヲ要ス
- (四) 一ノ醫學團體カスル試験ヲ行ハンカ爲メニ右ノ如キ試験委員助手ノ立會ヲ承認シタル場合ニハ、諸事本條ノ規定スル所及此試験ニ關スル其筋ノ命令ニ從ハサルヘカラス

登記ノ効力ノ事

第六條 開業醫ニシテ一旦登記セラレタルニハ其登記濟當日及其以後聯合王國內ニ於テ内科、外科及産科ノ業ヲ營ムコトヲ得ヘク、又タ我英國ノ所領内何レノ箇所ニ於テモ此等ノ業ヲ營ムコトヲ得ヘキナリ、但シ地方ニ於テ營業スル場合ニハ其地方ノ法規ニ從フヘキハ勿論ナリト知ルヘシ、此外醫術ヲ執リ行フ上ニ就テ要スル所ノ諸費用若クハ報酬等ヲ法律ニ依リテ要求スルコトヲ得ヘキモノトス

中央會議組織ノ事

第七條 (一) 本條例ノ制定セラレタルニ就テハ中央會議ナルモノヲ組織センコトヲ要ス、中央會議ハ左記

ノ會員ヨリ組織セララル、モノトス

五名ハ樞密院ノ推薦ニ據リテ女帝陛下ノ御指定ニ係ルモノトス、蓋シ此内三名ハ英吉蘭ヲ代表シ、一名ハ蘇格蘭ヲ代表シ残り一名ハ愛爾蘭ヲ代表スルモノトス又タ左記ノ各團體ヨリ一名ツ、選出センコトヲ要ス

欽定倫敦醫學校

欽定英吉蘭醫學校

倫敦藥劑師協會

オックスフールド大學

ケンブリッジ大學

倫敦大學

ダラム大學

マンチエスターノ『ヴキクトリア』大學

欽定エヂンバルフ醫學校

欽定エヂンバルフ外科醫學校

具羅斯哈醫學研究所

エヂンバルフ大學

具羅斯哈大學

アベルジーン大學

セント、アンドリウス大學

兩陛下直轄愛爾蘭醫學校

欽定愛爾蘭外科醫學校

愛爾蘭藥劑師會

ジウブリン大學

欽定愛爾蘭大學

英吉蘭在住ニシテ登記ヲ經タル開業醫ヨリ隨時三名ヲ選出センコトヲ要ス

蘇格蘭在住ニシテ登記ヲ經タル開業醫ヨリ隨時一名ヲ選出センコトヲ要ス

愛爾蘭在住ニシテ登記ヲ經タル開業醫ヨリ隨時一名ヲ選出センコトヲ要ス

(二) 本條ニハエヂンバルフ大學及アベルジーン大學ヨリ夫々代表者ヲ選出スヘキ規定アリシカ、本條例

制定ノ時ニ際シテハ、斯ル代表者ヲ中央會議ニ差出シ居ラス即チ缺員ノ姿ナルヲ以テ更ニ選出センコ

トヲ要ス、且ツ具羅斯哈大學及セント、アンドリウス大學ヨリ選出スヘキ代表者モ亦タ前者ト同様ナ

リトス、然レトモ本條例制定ノ際既ニ中央會議ノ會員タリシモノ、任期如何ハ更ニ本條ノ規定スル所ニアラサルナリ

第八條

(一) 中央會議ノ議員タルモノハ我聯合王國內ノ各所ニ居住シ登記ヲ經タル開業醫ノ代表者タルヘ

キモノナリ、故ニ此議員自カラモ亦タ是レ登記ヲ經タル開業醫タラサルヘカラス、而シテ當選議員ノ任

期ハ之ヲ五ヶ年ト定メ、滿期改選ノ際再選セラレ、コトヲ得ヘキモノトス、又タ議員中時ニ或ハ辭職セ

ント欲スルモノアラン場合ニハ、其辭職願ヲ中央會議ノ議長ノ手許マテ差シ出サンコトヲ要ス、議員中

ニ斯ク辭職者アルカ若クハ死亡者アリタラン場合ニハ成規ニ從ツテ補缺選舉ヲ行ハンコトヲ要ス、然レ

トモ、議員中ニ斯ク辭職者若クハ死亡者アリテ一時缺員ノ生シタル場合アルモ、中央會議ノ行動ニハ毫

モ影響之レナキモノト知ルヘシ

(二) 聯合王國中或ル地方ヨリ選出サレ代表者トナリテ中央會議ノ議員トナリタルモノハ、其選出地方ニ

於ル支會議ノ議員タルヘキモノトス、而シテ支會議ニ列シタル報酬及旅費等ハ中央會議ノ議員ト全ク

同一ナルモノトス

(三) 茲ニ選舉管理官ナルモノアリ、中央會議ノ議長自カラ之ニ當ルコトアリ、或ハ中央會議カ其他ノ人

ヲ任命スルコトアリ、今マ此選舉管理官ノ重モナル職責ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク中央會議ノ議員選舉

ヲ管理スルモノ是レナリ、尙ホ之ヲ細言センカ、中央會議ノ議員中某地方選出ノ議員ニシテ其任期將ニ

盡キントスルノ際、恰カモ其任期滿了當日ニ先キタツ六週間ヨリ少ナカラス、二ヶ月ヨリ多カラサル期間ニ、又タ議員中ニ死亡者アルカ若クハ辭職者アリテ缺員ノ生シタル場合ニ於テ、出來得ヘキ丈ケ速カニ改選若クハ補缺選舉ヲ行フヘキ通知ヲ地方ニ於ル中央會議支部ヘ發スルカ如キ事是レナリ、而シテ所謂ル其支部トハ滿期改選ヲ要スヘキ議員ヲ選出シタル地方、及死亡若クハ辭職シタル議員選出ノ地方ニ於ル支部ト知ルヘシ、乃チ此等ノ地方ニ居住シテ登記ヲ經タル開業醫カ自カラ選舉人トナリテ代表者ヲ選定スルモノ是レナリ、而シテ其選舉執行ノ期日ハ選舉管理官ヨリ右ノ如キ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ廿一日以内ナラシメテ要ス

(四) 議員選舉手續ハ總テ樞密院ノ定メタル規則ニ從ハンコトヲ要ス、其規則ハ概ネ左ノ如シ

(イ) 指名ハ自書タルヘク而シテ各候補者ノ指名用紙ニハ登記ヲ經タル開業醫十二名以上ノ調印ナカルヘカラス

(ロ) 選舉ニハ投票用紙ヲ用ヒンコトヲ要ス、而シテ此投票用紙ナルモノハ聯合王國內ニテ選舉ヲ行フヘキ地方ノ支會議ノ職責トシテ夫々選舉人ヘ宛テ郵便ニテ配布センコトヲ要ス、然レトモ支會議ヨリ斯ル投票用紙ヲ配布セサルコトアレハトテ選舉ヲ無効トスヘキ謂レ之レナキナリ、若シ登記ヲ經タル開業醫ニシテ投票用紙ノ配布ヲ受ケサル場合アラシカ、斯ル場合ニ於テハ支會議ヘ其由申出テ之ヲ請ヒ受ケンコトヲ要ス

(ハ) 登記ヲ經タル開業醫ニシテ選舉權ヲ有スルモノハ何人ニ限ラス、選ハルヘキ代表者ヲ幾名ニテモ選舉スルコトヲ得ヘキモノトス

(五) 各支會議ハ聯合王國內其支會議ノ管轄内ニ居住シ登記ヲ經タル開業醫ノ選舉シタル人名ヲ選舉管理官ノ許ヘ通知シテ之ヲ證明センコトヲ要ス

(六) 或ル議員ノ任期滿了ノ爲メ改選ヲ行フタル結果當選シタル代表者ハ、前者ノ任期滿了スルト共ニ就任スルモノトス、又タ議員中死亡者アルカ若クハ辭職者アリテ補缺選舉ヲ行フタル結果當選シタル代表者ハ、支會議ヨリ其由選舉管理官ノ許ヘ通知シタルト共ニ其任ニ就クヘキモノトス

(七) 中央會議ヘ列セシムヘキ代表者ノ選舉ニ要スル費用ハ、其代表者選出地方ニ於ル支會議ノ費用中ノ一部分トシテ支出セラルヘキモノトス

(八) 選舉管理官カ本條例發布後中央會議ヘ列スヘキ議員第一回ノ選舉ヲ行ハントスルニ際シテハ左ノ如キ手續ニ從ハンコトヲ要ス、曰ク樞密院ノ定ムル所ノ手續ニ從ヒ本條例發布後七日以内ニ聯合王國內各所ニ於ル支會議ヘ一ノ通知書ヲ發センコトヲ要ス、其通知書ノ主意ハ此通知書ノ到着當日ヨリ起算シテ廿一日内ニ、其支會議ノ管轄區域ヨリ定數ノ議員ヲ選舉スヘク、而シテ其當選議員ハ一千八百八十七年一月一日ヨリ來リテ中央會議ノ任務ニ服サンコトヲ要スト云ヘル是レナリ

第九條 中央會議ノ議長ニ缺員ノ生シタル場合ニハ隨時其議員中ノ一名ヲ選舉シテ議長トスヘク其ノ任期

ハ五ヶ年ヲ踰ユヘカラス、且ツ斯ク議長ニ當選シタル者ト雖モ議員トシテ選出セラレタル任期滿了後ハ其議長席ニ留マルコトヲ得ス、然レトモ本條例發布ノ時既ニ中央會議ノ議長ノ職ニ在リシ者ノ任期如何ハ本條例ノ關スル所ニアラサルナリ

第十條 (一) 中央會議ハ或ル時ニ於テ左ニ記載スル事項ノ全部若クハ或ルモノヲ樞密院ヘ申告センコトヲ要ス

(イ) 我聯合王國內ニ於ル或ル大學若クハ其他ノ團體アリ、而シテ此等ノ大學及團體ハ自カラ醫師免狀ヲ交付スヘキ資格ヲ有スレトモ、從來其組織充分ナラサル所アリテ中央會議ニ屬シ居ラザリシカ、今日ニ至リテハ中央會議ノ意見ニテ中央會議ニ屬セシムヘキ資格アルモノト認ムルカ故ニ、自今以後然カク屬セシメテ中央會議ヘ一ノ代表者ヲ出サシメテ然ルヘシ、但シ此等ノ團體ヨリ代表者ヲ差シ出スニ就テハ其團體カ自カラ單獨ニ差シ出スカ、若クハ同一ノ地方ニ於ル他ノ團體(此團體モ亦タ是レ自カラ醫師免狀ヲ交付スヘキ資格ヲ有スルモノ)聯合シテ差シ出スカ二者其一ニ從ハムンコトヲ要ス

(ロ) 從來組織ノ完キ團體ニシテ他ノ團體ト互ニ相聯合シテ中央會議ヘ一ノ代表者ヲ差シ出シ居レルカ、今日ニ至リテハ中央會議ノ意見ニテ單獨ニ一ノ代表者ヲ差シ出スヘキ資格ヲ有スルモノト認ムルカ故ニ、自今以後單獨ニ代表者ヲ中央會議ヘ差シ出サシメテ然ルヘシ

(ハ) 我カ聯合王國內ノ或ル地方ニ居住セル登記ヲ經タル開業醫ニ對シテ、中央會議ヘ列セシムヘキ代表者ニ尙ホ一名ヲ加ヘテ選出セシムヘキ權能ヲ與ヘン方然ルヘシ

(ニ) 中央會議ノ視ル所ヲ以テスレハ從來中央會議ヘ代表者ヲ列セシメタル或ル團體カ、今日ニ至リテハ其資格上缺點アリト認ムルカ故ニ、中央會議ヘ代表者ヲ差シ出スヘキ權能ヲ全ク取り上ルカ、若クハ單獨ニ代表者ヲ出サシムルコトヲ禁止シテ、他ノ團體ト聯合シテ代表者ヲ出サシムル方然ルヘシ

(三)(二) 樞密院カスル申告ヲ受ケタランニハ之ヲ論議セサルニ先ンシテ國會兩院ヘ提出センコトヲ要ス
右ノ如キ問題カ兩院ヘ提出セラレテ後四十日以内(此問題整理ノ爲メニ要スル一週間餘ハ此内ニ算入セス)ニ兩院ヨリ女帝陛下ニ上奏スルニ斯ル申告ノ全部若クハ或ル部分モ之ヲ實行セサルヲ然ルヘシト云ヘル主意ヲ以テセンカ、是レ此問題ノ解決シタルモノト見做スヘキナリ、然レトモ兩院カ右ニ云ヘルカ如キ四十日間ニ於テ斯ル上奏ヲモ爲サ、ル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ樞密院カ自カラ然カナスヲ適當ナリト思惟シタランニハ、斯ル申告ヲ有効ナラシムル方然ルヘシト女帝陛下ヘ上奏センコトヲ要ス、此ニ於テカ女帝陛下ノ御裁可ヲ經テ勅令ヲ以テ法律上之ヲ有効ナラシムヘキモノトス、而シテ此勅令ナルモノハ法律條例ト全ク同一ナル効力アルモノト知ルヘシ

第十一條 何人ニ限ラス英國ノ所領内ニ於テ内科、外科及産科ノ醫業ヲ營マント欲スル者ハ、必ラス左記ノ如キ手續ヲ踐マサルヘカナス、曰ク指定サレタル日限若クハ其後本條例ノ適用セラルヘキ英國所領内ニ於テ交付セラレタル醫術開業免狀ヲ所有セルコトヲ中央會議ノ登記掛ヘ證明センコトヲ要ス、且ツ品性善良ニシテ英國所領内ニ於テ法律上内科、外科及産科ノ醫術ヲ營ミ得ヘキコトヲ證明シ、醫師登記臺帳ヘ植民地開業醫トシテ登録セラレンコトヲ出願シ、之ト同時ニ中央會議ノ定メタル五封度以内ノ登記料ヲ納付センコトヲ要ス、斯クノ如クセハ聯合王國內ニ於テ試験ヲ受クルヲ要セス

(一) 斯ル醫術開業免狀ヲ受ケタリシハ聯合王國ニ住居セサリシ時ニ係ルコト、ヲ證言スルカ、或ハ五ケ年間全ク聯合王國以外ニ住居シ居タルコトヲ證明スルコト

(二) 自分ハ指定サレタル日ニ於テ現ニ内科及外科ノ醫業ヲ營ミ居タリシコト、且ツ其指定ノ日ヨリ以前ニ溯ホリテ十ケ年餘繼續シテ聯合王國內若クハ其他ノ箇所ニ於テ斯ル醫業ヲ營ミ居タリシコトヲ證明スルコト

第十二條 中央會議ノ登記掛ヘ左記ノ如キ事實ヲ證明シテ之カ承認ヲ受ケンコトヲ要ス、曰ク自カラ所有スル所ノ醫術開業免狀ハ外國ニ在リテ交付セラレタルモ本條例ニ適用セラルヘキモノナリ、且ツ自分ハ

品性善良ナルモノニシテ斯ル免狀ヲ受ケタル外國ニ於テハ法律上内科、外科及産科ニ關スル醫業ヲ營ミ得ヘキモノナリト證明シ、且ツ中央會議ノ定メタル登記手数料五封度ヲ踰ヘサル金額ヲ納付シテ、醫師登記臺帳ヘ外國開業醫トシテ登記セラレンコトヲ出願スヘキモノトス、斯クノ如ク爲シタランニハ聯合王國內ニ於テ試験ヲ受クルコトヲ要セス

又タ左記ノ事項中ノ何レヲカ登記掛官ニ證明シテ其承認ヲ受ケンコトヲ要ス

(一) 自分ハ英國ノ臣民ニアラサル事

(二) 自分ハ元是レ英國臣民ナレトモ醫術開業免狀ナルモノハ聯合王國內ニ居住セサリシ時交付セラレタルモノ、若クハ五ケ年以上全ク聯合王國內ニ居住セス外國ニアリシ時交付セラレタル事

(三) 自分ハ英國ノ臣民ニシテ彼ノ指定サレタル日ニ於テ聯合王國內ニアリテ現ニ内科若クハ外科ノ醫業ヲ營ミツ、アリシ事、又タ彼ノ指定サレタル當日ヨリ以前ニ溯ホリテ十ケ年以上繼續シテ聯合王國內カ若クハ其他ノ箇所ニ於テ同様ノ醫業ヲ營ミ居タリシ事

第十三條

(一) 醫術開業免狀ナルモノカ英國ノ所領内カ若クハ外國ニ於テ交付セラレタルモ、本條例ノ要求スル所ニ適合シ居ランニハ全ク有効ナルモノト謂ツヘキナリ、即チ此免狀所有者ハ内科、外科若クハ産科ニ關スル學識及經驗ヲ充分ニ有シ居ルモノト斷定スルニ足ルヘキモノトス

(二) 右ニ述ヘタルカ如キ醫術開業免狀カ植民地若クハ外國ニ於テ交付セラレタル場合アランニ、中央會

議ニ於テ之ヲ不當ナルモノトシテ之ヲ承認セサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ樞密院カ此等ノ免狀所有者ヨリノ出願書ヲ見テ之ヲ正當ナリト認メタランニハ、其由中央會議ヘ通報シ而シテ斯ル免狀ヲ承認スヘキ旨中央會議ヘ命令ヲ下サンコトヲ要ス、而シテ中央會議ハ此命令ニ服從セン事ヲ要ス

- (三) 今マ茲ニ一ノ人アリ植民地ノ開業醫若クハ外國ノ開業醫トシテ登記セラル、コトヲ拒絕セラレタラシニ、其拒絕セラル、ノ主意カ其人ノ所有スル開業免狀ノ不備ナリト云フニアラスシテ他ノ理由ニ基クトセンカ、斯ル場合ニ於テハ中央會議ノ登記掛官ハ其拒絕サレタル人ノ要求ニ應ジテ其拒絕シタル理由ヲ書面ニ認メテ交付センコトヲ要ス、而シテ斯ク拒絕セラレタル人ハ此拒絕ヲ不當ナリト信シタランニハ、中央會議ヲ相手取りテ樞密院ヘ上告スルコトヲ得ヘキモノトス、而シテ樞密院カ斯ル上告ニ接シタランニハ之ニ就テ審理ヲ遂ケ、且ツ中央會議ト交渉談判ヲ重ネタル後或ハ此上告ヲ棄却シ、或ハ其上告者ノ姓名ヲ登記臺帳ニ登録スヘキ旨中央會議ヘ命令スルコトヲ得ヘシ
- (四) 茲ニ人アリ本條例ニ規定サレタル資格ヲ有シタランニハ植民地及外國ノ開業醫トシテ登記セラルヘキモノトス

第十四條 植民地ノ開業醫ノ姓名住所ハ醫師登記臺帳中全ク別表ニ爲シ置カンコトヲ要ス、外國ノ開業醫ノ姓名住所モ亦タ是レ前者ト同様ニ爲シ置カンコトヲ要ス、而シテ此等ノ姓名住所ハ皆ナ是レ『エ、ビ、

シ』順ニ整理シ置カンコトヲ要ス、又タ一千八百五十八年ノ發布ニ係ル醫師取締條例ナルモノアリ、同條例ニ從ツテ登記ヲ經タル人ニ關スル規定、醫師登記臺帳ニ關スル規定及同條例違犯事件ニ關スル規定等ハ皆ナ是レ本條例(一千八百八十六年發布ノ醫師取締條例ヲ云フ)ニ從ツテ登記サレタル植民地ノ開業醫及外國ノ開業醫ニモ適用スヘキモノトス

第十五條 植民地ノ開業醫若クハ外國ノ開業醫ニシテ登記臺帳ニ登録セラル、ノ當日既ニ英領若クハ外國ニ於テ交付サレタル醫術開業免狀ヲ有シ居タルカ、若クハ其後斯ル免狀ヲ英領若クハ外國ニ於テ交付サレタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其筋ヨリ指定サレタル日時及其後ニ於テ斯ル免狀ヲ所有シ居ルコトヲ登記臺帳中其姓名ノ下ニ加入センコトヲ要ス、是レ法律上當然ノ手續ナリ

第十六條 茲ニ登記ヲ經タル或ル開業醫アリ、醫師登記臺帳ヲ見ルニ英吉蘭出生、蘇格蘭出生若クハ愛爾蘭出生ナリシカ、此開業醫ハ醫學ニ關スル外國ノ學位ヲ有シ居レリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ醫師登記臺帳中其姓名ノ下ニ斯ル學位ヲ有スルコトヲ記入センハ法律上當然ナリト謂ツヘキナリ、但シ中央會議ヘ左記ノ如キ事實ヲ證明シテ之カ承認ヲ受ケンコトヲ要ス、曰ク自分ハ本條例制定以前ニ於テ既ニ適當ナル試験ヲ經テ斯ル學位ヲ得タルモノニ相違ナキナリ

第十七條 (一) 女帝陛下ノ御名ヲ以テ隨時勅令ニ依リ左記ノ如キ事ヲ布告セラル、コトアリ、曰ク此命令ニ依リテ規定セラレタル時月以降我聯合王國內ニ於テ登記ヲ經タル開業醫ハ或ル英領若クハ外國ニ於テ

營業シ得ヘキ權能ヲ有スルモノトス、但シ或ル英領若クハ外國ト云ヘルハ此命令ニ依リテ定メラルヘキモノト知ルヘシ

(二) 女帝陛下ノ御名ヲ以テ隨時勅令ニ依リ本條實行ノ爲メ既ニ發セラレタル命令ヲ取消スコトアルヘキナリ

第十八條 本條例ヲ適用シ得ヘキ英領ニ於テ内科若クハ外科ノ醫業ヲ營ミ得ヘキ醫術開業免狀ヲ有スルモノハ、其英領ニ於テ登記ヲ經タル船舶ノ醫官ニ任命シ得ラルヘキモノトス、是レ決シテ一千八百五十八年ノ制定ニ係ル醫師取締條例ニ牴觸スヘキモノニアラス

第三編

雜則

第十九條 或ル時中央會議ノ行動中失態アルコトヲ樞密院ノ認メ得タル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ樞密院ハ適宜ノ處分ヲ爲サ、ルヘカラス、所謂ル中央會議ノ失態トハ左記ノ如キ事實是レナリ、曰ク彼ノ資格試験ヲ施行スル場合ニ於テ受験者ノ學力ノ程度ニシテ不充分ナル所アルモ之ヲ等閑ニ付シ去リタルカ如キ、或ハ聯合醫師會ニ於テ試験ヲ行フノ際中央會議カ助手試験掛官ヲ任命スル場合ノ生シタル時、若クハ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ中央會議カ何等カノ職務ヲ遂行セント欲スルノ場合、樞密院ヨリ中央會議ニ對シテ云々ノ注意ヲ與フヘキモノトス、然ルニ中央會議カ樞密院ヨリ斯ル注意アルニモ拘

ラス自己ノ意見通りニ行動セントスルノ場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ樞密院ハ自カラ中央會議ニ代リテ自己ノ意見通りニ事ヲ處分センコトヲ要ス

第二十條 皇帝陛下及女帝陛下直轄愛爾蘭醫學校々員ノ所有セル卒業證書及聯合王國內ノ或ル大學ノ「產科醫學士」ノ學位ヲ受ケタルモノハ一千八百五十八年ノ制定ニ係ル醫師取締條例イ表中ニ記載サレタル資格ニ此等ノ學位ヲ加フヘキモノトス

第二十一條 登記ヲ經タル名開業醫ニシテ適當ナル特別試験ニ及第シテ衛生學、公衆衛生學若クハ國家醫學ヲ修了シタリトノ證書ヲ授與セラレ、而シテ樞密院若クハ中央會議カ視テ以テ醫師臺帳ヘ登錄スルニ足ルヘキ價值アルモノト認定シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ中央會議ノ定メタル登記手数料ヲ納付シテ醫師臺帳ヘ加入セラレンコトヲ要求シ得ヘキモノトス、即チ既ニ登記セラレタル他ノ證書ニ加ヘテ登記セラレンコトヲ要求シ得ヘキコト是レナリ

第二十二條 (一) 從來ノ醫師取締條例若クハ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ樞密院ヘ與ヘラレタル總テノ權能ハ、最高樞密院ノ老德及其他ノ者二名若クハヨリ以上ニテ實行セラルヘキモノトス

(二) 從來ノ醫師取締條例若クハ本條例ノ規定スル所ニ從ツテ樞密院ノ取ル所ノ行動ハ、左ノ如キ手續ニ從ハサルヘカラス、曰ク樞密院書記ノ調印シタル訓令ヲ以テ公告セラルヘキコト是レナリ、而シテ斯クノ如ク樞密院書記ノ調印シタル訓令ヲ以テ公告シタル命令及行動ハ、正シク樞密院ノ爲シタルモノ

ニ相違ナシト斷定セラルヘキモノナリ、且ツ斯ク調印セラルタル訓令ハ總テノ裁判所ニ於テ充分ナル證
憑ト見做サレ樞密院書記ヨリ其他ノ證憑ヲ徵スルニ及ハサル程ノ効力アルモノト知ルヘシ

第二十三條 從來ノ醫師取締條例、本條例若クハ一千八百七十八年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例遂行ノ爲
メ發セラレタル命令ニ關スル左ノ如キ謄本ハ、證據書類トシテ効力ヲ有スルモノトス

(一) 女帝陛下直轄ノ印刷所ニ於テ印刷セラルヘキ手筈ナル謄本、若クハ中央會議ヨリ依託ヲ受ケタル印
刷所ニ於テ印刷セラルヘキ謄本

(二) 中央會議ノ登記掛官ノ視テ以テ真正ノ謄本ナリト承認シタル或ル命令ノ謄本、若クハ中央會議ヨリ
任命サレタル其他ノ人ノ視テ以テ真正ノ謄本ナリト承認シタル謄本

除、外、例、

第二十四條 本條例發布前既ニ登記ヲ經タル開業醫ニシテ其業務ヲ營ミ居ル者アラシカ、本條例ハ決シテ
斯ル者ニ對シテ如何ナル影響ヲモ及ホスヘキモノニアラス、本條例カ發布セラレタルカラトテ斯ル者ノ
權利ヲ増スヘキモノニモアラサレハ減スヘキモノニモアラズ、本條例發布前ト全ク同一ノ行動ヲ取リテ
毫モ妨ケナキモノト知ルヘシ

第二十五條 茲ニ一ノ人アリ本條例發布ト共ニ廢棄セラルヘキ法例之レアルノ際、或ル植民地若クハ聯合
王國內以外ナル或ル英領地ニ於テ此廢棄セラルヘキ法例ニ從ツテ其業ヲ營ミ居レル場合アリトセンカ、

斯ル場合ニ於テハ本條例發布ト共ニ此法例廢棄セラル、後ト雖モ、尙ホ且ツ廢棄セラレサル以前ト同様
ニ其業務ヲ營ミテ更ニ妨ケナキモノト知ルヘシ

齒科醫ニ關スル件

第二十六條 一千八百七十八年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例中ニ用ヒラレタル「稱號、追加若クハ記載」ノ
語アリ此等ノ語ハ本條例ニテハ或ル名ニ就テノ稱號、追加若クハ記載ヲモ含メルモノト知ルヘシ、但シ
此等ノ事柄ハ口述トスルモ書面トスルモ或ハ一部分ヲ口述トナシ他ノ部分ヲ書面トナスモ妨ケナキモノ
トス

一千八百七十八年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例第四條中ニ於ル左ノ如キ規定ハ本條例發布ト共ニ廢止セ
ラルヘキモノトフ、曰ク當條例中以上掲ケタル所ノ條項ノ何レヲカ犯シタル者アラン場合ニ於テ一個人
ヨリ之ヲ告發スルコトヲ得ス、但シ中央會議若クハ支會議ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此限ニアラス、即チ
右ノ如キ犯則者アリタル場合中央會議等ノ承認ヲ得サヘスレハ一個人ヨリ告發スルコトヲ得ヘキモノト
知ルヘシ

一千八百七十八年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例第五條ノ規定如何ニ係ラス、茲ニ人アリ一千八百七十八
年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例ニ從ツテ登記ヲ經テ、聯合王國以外ナル英領ノ或ル部分ニ於テ齒科ノ業
ヲ營ムヘキ權能ヲ得タリトセンカ、斯ル人カ所謂英領ノ或ル部分ニ於テ營業スル場合ニハ其地方々々

ノ法例ニ從ハシコトヲ要ス

一千八百七十八年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例中第二十八條ニ規定サル、事項ハ、其發布ノ時月以後或ル時月ニ於テ勅令ノ發布ヲ待ツテ初メテ實行セラルヘキモノトス、斯ル勅令ノ發布セラル、マテハ同條ノ實行セラレサルコト勿論ナリト知ルヘシ

一千八百七十八年ノ制定ニ係ル齒科醫取締條例中右ニ記載シタルモノ、外本條例ノ影響ヲ受クヘキモノ更ニ之レナキナリ

用語ノ解釋

第二十七條 本條例中ノ用語ノ解釋ハ概ネ左ノ如シ、但シ特別ナル意義ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

『聯合王國ノ部分』トハ其時ノ事情如何ニ從ツテ英吉蘭、蘇格蘭若クハ愛爾蘭ノ謂ナリ

『英領』トハ聯合王國以外ナル英國ノ所領ト云ヘル義ナレトモアイスル、ヲフ、マン及瀬戸内ノ諸島モ亦タ此内ニ包含セラル、モノト知ルヘシ

『地方的法令』トハ英領立法部ニ於テ議決サレタル條例若クハ法令等ヲ云フ

『指定サレタル時月』トハ樞密院ノ指定シタル所ニシテ一千八百八十七年六月一日、若クハ一千八百八十七年六月ニ於ケル其他ノ日ヲ云フ

『醫學的團體』トハ大學以外ニ於ル醫學ニ關スル或ル團體ノ謂ナリ、蓋シ此等ノ團體ハ資格試験ヲ執行

シ之カ及第者ニ對シテハ醫師取締條例ノ規定スル所ニ從テ登記セラルヘキ權能ヲ授與セラルヘキモノトス

『登記ヲ經タル開業醫』トハ此醫師取締條例ノ規定スル所ニ從ツテ登記セラレタル者ノ謂ナリ

『證書』トハ左ニ記載スル所ノ數者ヲ包含シタルモノト知ルヘシ曰ク或ル大學、其他ノ團體若クハ政府部内ノ或ル部局或ハ我女帝陛下ノ統治ノ下ニアル政府ノ或ル役員若クハ斯ル統治以外ノ政府ノ或ル役員等ヨリ授與セラレタル卒業證書、許可證、認可證、免狀等是レナリ

『醫師開業免狀』トハ内科、外科若クハ産科、若クハ此等ノ内ノ或ル分科ニ關スル業ヲ營ミ得ヘキ證書ノ謂ナリ

『人』トハ多數結合シタルト否ラサルトヲ問ハス、人ノ或ル團體ヲ包含スルノ謂ナリ

『醫師取締條例』トハ一千八百五十八年ノ制定ニ係ル醫師取締條例及此條例發布前ノ制定ニ係ル醫師取締條例ノ改正條例ヲ包含スルモノ是レナリ

合衆國ノ巡回看護婦制度 Visiting Nursing in the United States

五四六

序論

抑モ本書發行ノ目的タルハ合衆國ノ巡回看護婦ノ組織等ヲ叙述セント欲スルニアリ、而シテ之ヲ叙述センニハ現今合衆國ニ於テ老練ナル看護婦カ如何ナル行動ヲ取り居レルカヲ論述セサルヘカラス、此等ノ看護婦ハ多年間『地方看護婦事業』トシテ世ニ知ラレタル事業ニ對シテ充分ニ其力ヲ盡シ居ルノミナラス、最近ニ至リテ大ニ其事業ヲ擴張シ結核病、醫學校、一般社會ノ安寧幸福及其他ノ公共事業ニマテ關係スルコト、ナレリ、乃チ本書ハ斯ル事柄ヲ網羅セント欲スルカ故ニ、此等ノ事業ト同一ノ事業ヲ企テント欲スルモノニ取リテモ一助トナルニ相違ナカルヘシト信ス

右ノ如キ次第ナルカ故ニ本書編纂ノ材料ヲ蒐集センカ爲メニ種々ノ方法手段ヲ回ラシタリ、即チ合衆國內ニ於テ巡回看護婦ノ機關備ハリタル箇所ニハ、夫々依頼狀ヲ發シテ之カ材料トナルヘキモノ、蒐集ニ力ヲ盡シタルカ如キコト是レナリ、故ニ本書ニ記載シタル事柄ハ決シテ荒唐無稽ノモノニアラス、皆ナ是レ根據アル正確ノモノナラサルハナシ、然レトモ或ハ其狀況ヲ報告シ來ラサルモノモアルヘク、又タ此書ノ原稿ヲ印刷ニ付シタル後組織セラレタルモノモアルヘキナリ、故ニ悉ク皆ナ網羅シ盡シタルモノト云フヲ得ス、近キ將來ニ於テ改竄補修正誤更訂ノ必要起ランハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、巡回看護婦ノ老練ナ

ルヲ使用セラル、協會ハ願ハクハ本書ニ誤謬ノアルコト、或ハ改廢スヘキ事項ノアリタラン場合ニハ、御腹藏ナク御申越シ下サレ度、又毎年御發行相成候年報ハ御寄贈ノ光榮ニ預カリ度此段希望ノ至リニ堪ヘス果シテ幸ニシテ然ルコトヲ得タランニハ、此書ノ再版ニ際シテハ正誤更訂改竄補修スル所アリ且ツ此事業ノ發達シタル最新式ヲモ加ヘ得テ大ニ面目ヲ新タニスルヲ得ヘキナリ

看護婦協會ノ行動ハ如何ニ嘉ミスヘク賞スヘキモノナリト雖モ、之ヲ組織スル看護婦ニシテ看護婦練習學校ノ卒業生ニアラス、又タ學生トシテ養成サレタルモノニアラストセンカ、斯ル看護婦協會ハ此書中ニ編入セサルナリ

各所ヨリ報告セラレタル事實ニシテ本書編纂ノ好材料トナリシモノ少ナカラス、此等ノ寄贈者ニ對シテ最も深く感謝スル所ナリ

再版ニ就テノ申告

本書ノ初メテ發行サレシヨリ二ケ年ヲ經過シテ再版ニ付スルコト、ナレリ、此二ケ年間ニハ新タニ組織セラレタル看護婦協會モ少ナカラス、又タ從來既ニ成立シタル看護婦協會ニシテ、曾テ聞キ及ハサリシモノヨリ新タニ報告セラレタルアリ、或ハ第一版ニ記載サレタル看護婦協會ニシテ既ニ廢滅ニ歸シ若クハ他ノ新協會ニ合併セラレタルモアリシ

五四七

從來ノ看護婦協會ヨリ得タル諸報告ヲ綜合シテ見ルニ看護婦ノ數ハ著シク増加シ且ツ其給料ノ如キモ從ツテ増額シ居ルヲ證スルニ足ルヘキナリ

一千九百九年ニ得タル報告ニ據レハ五百六十六ノ看護婦協會アリテ之ニ屬スル看護婦ノ總數ハ一千四百十三名ナリシカ、一千九百十二年一月一日ノ調査ニ據レハ大ニ其數ヲ増加シタリ、即チ看護婦協會ノ數八百九十九ニシテ之ニ屬スル看護婦ノ數ハ二千四百四十二名トナレルモノ是レナリ、尙ホ之ヲ細言センカ、第一版ノ本書中ニ記載サレタル看護婦協會ニシテ廢滅シ若クハ他ニ合併セラレタルモノ都合十五協會アリ、而シテ新設セラレタルモノ（此内ニハ初版ノ際報告洩ノ分モ含ミ居ルモノト知ルヘシ）三百四十八協會アリテ之ニ屬スル看護婦ノ數ハ五百七十八名ナリ、但シ廢滅ニ歸シ若クハ他ニ合併セラレタルモノハ本文ノ脚註等ニ於テ表示シアルモノナリ

今マ再版ノ準備ニ取リ掛リ居ル際ナレハ初版ノ書中ニ誤謬若クハ廢棄スヘキ事項之レアルヲ御見出シアリタラン方々ハ、願ハクハ速カニ紐育市ヘンリー街二百六十五號ナル予ノ許ヘ御通報アラシコトヲ

第一

巡回看護婦制度略史

一千九百九年五月英國リヴプールニ於テ巡回看護婦制度創業五十年記念祝賀會ヲ催シタリ、蓋シ同所

ハ創業ノ地ナレハナリ

抑モ巡回看護婦ノ制度タルヤ一千八百五十九年ニ於テ始メテ實行ノ端緒ニ就キタルモノナリ、即チウヰキリアム、ラスボン氏ノ發意ニ出テシモノニシテ、畢竟スルニ老練ナル看護婦ヲシテ貧民病者ノ家庭ヲ訪問シ以テ之カ補助ヲ爲サシメント欲スルニ外ナラス、フロレンス、ナイチンゲールト云ヘル婦人ハ女子ヲ教養シテ看護婦トナシ病者ヲ看護スルノ任ニ當ラシメ、且ツ衛生ノ途ヲ示シテ疾病ヲ未然ニ防止スルノ方法ヲ世ニ紹介シタリシナリラスボン氏ガリヴプールニ於テ其行動ヲ開始セサル以前ニ在リテハ、ナイチンゲール嬢ノ作業ハ戦争、病院及看護婦制度ノ方面ニ向ケラレ居タリシナリ、人ノ家庭内ニ看護婦ノ訪問シ來ルハ實益アルモノト謂フヘキナリ、蓋シ看護婦ハ獨リ患者保護ノ任ニ當ルノミナラス、衛生上諸般ノ教師ノ地位ニアレハナリ、ナイチンゲール嬢ハ看護事業ヲ以テ自カラ任シタル人ナリ、英國ニ於テハ地方看護婦事業ナルモノカ此看護婦制度創業ノ當時ヨリ一般ニ行ハレ居タリ、斯クテ此看護婦制度ナルモノハ種々ノ實驗ヲ經テ後終ニ今日ノ如ク完全ナルモノトナレリ、英國ノ女帝ウヰクトリア陛下在位五十年記念祝賀會開催ノ當時ヨリ歐羅巴ニ於テ看護婦事業ニ最モ重キヲ置クコト、ナレリ

米國ニ於テハ一千八百七十七年以前ニアリテハ曾テ看護婦事業ナルモノアラサリシナリ、即チ同年ニ至リテ紐育市教會婦人部ニ於テ始メテ老練ナル看護婦ヲシテ貧民ノ家庭ヲ訪問セシムルコト、セリ、是レ米國看護婦事業ノ嚆矢タリ

後二ケ年ヲ經過シテ倫理學研究協會（紐育市ノ設立ニ係ル）ハ市施療院ノ一ニ於テ一ノ看護婦ヲシテ同シク貧民ノ家庭ヲ訪問セシムルコト、セリ、然レトモ尙ホ多年間ハ此事業ノ進歩發達非常ニ遲緩ナリシト謂フヘキナリ、一千八百九十年ニ於テハ合衆國全般ニ亘リテ看護婦協會ナルモノ僅カニ二十一ニ過キス、且ツ此等ノ協會ノ大多數ハ只タ一人ノ看護婦アリシノミ、然ルニ一千八百九十四年ニ至リテ此事業カ實際大ニ刺戟セラレ、所アリ、從ツテ其發達一層迅速トナリ一千九百五年以降其發達ノ速力著シクナリ行ケリ、試ミニ同年ノ統計表ヲ視ルニ百十ヶ所ノ市府ニ於テ都合百七十一ノ看護婦協會アリテ、之ニ屬スル看護婦ハ總計四百四十五名アリシナリ

既ニシテ今日即チ一千九百九年八月一日ニ於ケル此事業ノ狀況如何ト云フニ、五百六十六ノ看護婦協會アリテ之ニ屬スル看護婦ハ總計一千四百十三名ニ達シ居レリ、尙ホ之ヲ詳言センニ一千九百七年ニ於テ新タニ看護婦協會ノ組織セラレタルモノ六十七、一千九百八年ニ於テ同協會ノ新設ニ係ルモノ百十二、一千九百九年ノ前半六ヶ月間ニ七十五ノ新看護婦協會ヲ設ケラレタリ、抑モ此看護婦事業ナルモノハ社會進歩發展ト最モ親密ナル關係ヲ有スルモノト謂フヘキナリ、即チ彼ノ巡回看護婦ハ社會ヲ進歩發展セシムル重要ナル動力ニ外ナラサルナリ、米國ニ於テ近年人民ノ安寧幸福ノ著シク増進シタルハ、主トシテ老練ナル看護婦ニ信賴シタルノ結果ニ外ナラサルナリ、看護婦ノ力量ニ偉大ナラスヤ

第二

原則

巡回看護婦ノ事業タルヤ其性質實ニ人生實地ノ職業タルノミナラス、人ノ精神靈魂上ニ關スルモノ多キニ居ラスンハアラス、情意ノ純清ナルコト、事ヲ執ルニ善意ナルコト、人類ニ對スル社會的責務ヲ有スル事等皆ナレ看護婦タルモノカ日常ノ業務ヲ完全ニ實行スルニ必要ナル心得ト謂フヘキナリ

然レトモ巡回看護婦ノ職責如何ニ關シテハ議論區々ニシテ紛議ナクンハアラス、是レ他ナシ看護婦ノ眞箇ノ職責以外ニ之ヲ使用セント欲スル誤謬ニ出テタルニ外ナラス、例之ヘハ福音ヲ傳フヘキ宗教上ノ使命ヲ帶ヒタルモノトシテ用ヒラル、コト珍ラシカラス其他看護婦ノ職責以外ノ事ニ用ヒントスルカ如キコト是レナリ、看護婦ノ行動カ布教上ニ効用アルコトハ固ヨリ疑フヘカラサル事實ナレトモ、之カ爲メニ其本務ヲ忽カセニスヘキモノニアラス又タ巡回看護婦組織ト現今成リ立チ居レル通常ノ看護婦團體トハ其趣ヲ異ニセルハ今更言フヲ要セス、然ルニ世人或ハ之ヲ混同視スルモノナキニアラス、右ノ如キ有様ニテ巡回看護婦ノ眞箇ノ職責カ充分社會ニ知ラレサリシナリ

抑モ巡回看護婦協會ナルモノ、目的ハ果シテ何クニアラヤト云フニ、貧民患者及資力乏シキ患者ヲ看護セシカ爲メニ老練ナル看護婦ヲ此等ノ家庭ニ訪問セシムルモノ是レナリ

巡回看護婦制度ノ經濟ナル事 貧民ノ患者ヲ其家庭ニ於テ看護スルハ獨リ慈善事業タルノミナラス、社會ノ經濟上利益アルモノト謂フヘキナリ、貧民ノ患者若クハ資力乏シキ患者ニアリテハ、其費用ノ點ニ於テ

病院ニ入りテ治療ヲ受クルコト能ハス、或ハ病院ニ入ルコトヲ好マサルモノモアルヘキナリ、然ルニ巡回看護婦ハ此等ノ患者ノ家庭ヲ訪問シテ適當ノ看護ヲナスモノナレハ、此等ノ貧民ノ利便ヲ得ルコト亦タ云フヘカラス、又タ病院カ貧民患者ノ入院シタルカ爲メ手狭ヲ感スルカ如キコトナカルヘキナリ

看護婦、看護婦ノ資格 醫師ハ常ニ巡回看護婦ト協同一致シテ事ヲナサ、ルナリ、此等ノ看護婦ハ實地經驗上當初病院ニ於テ其價值アルコト、其地位トヲ認識セラレンコトヲ勤メタリシカ、尙ホ其後モ此態度ヲ繰リ返シ居タリシナリ、又タ或ル醫師ハ其業務上決シテ看護婦ト協同シタルコトナク、從ツテ看護婦ノ効用ヲ知ラザリシナリ、然レトモ患者ヲ其家庭ニ於テ治療シ最良ノ效果ヲ得ント欲スレハ、必ラス老練ナル看護婦ノ力ヲ借ラサルヘカラス、即チ斯ル看護婦ト協同シテ事ニ當ラサルヘカラス

巡回看護婦制度ヲシテ充分ナル效果ヲ得セシメンニハ固ヨリ適當ナル看護婦ナカルヘカラス、即チ此等ノ看護婦タルニ適當ナル才能ト耐忍力ナカルヘカラス、凡ソ巡回看護婦ノ最モ必要ヲ感スル箇所ハ何クナルヤト云フニ、老練ナル看護婦ナク且ツ醫師ノ來ルコト極メテ稀レナルノ地方是レナリ、故ニ稍ヤ疾病ノ症候アルヲ見顯ハシ之ヲ知ラシムルノ責任ハ、皆ナ巡回看護婦ノ一身上ニアリト謂ツヘキナリ、尙ホ其外醫師ト患者ノ家族及其隣人トノ間ノ調停融和ヲ計ルモ亦タ是レ巡回看護婦ノ力ヲ藉ラサルヘカラス、巡回看護婦ノ職責ハ斯クノ如クナルカ、故ニ之ヲ選擇スルニ就テハ果シテ能ク其責任ヲ全フシ得ヘキヤ否ヤヲ確カメンカ爲メニ最モ深く留意スル所ナクンハアルヘカラス、今マ此巡回看護婦ノ資格中重モノノヲ

舉レハ概ネ左ノ如シ、曰ク第一公立ニシテ大ナル病院ニ於テ看護上必要ナル學科ヲ修メサルヘカラス、實驗上地方ニ發生スヘキ疾病ノ種類等ヲ調査シ置カサルヘカラス、尙ホ出來得ヘクンハ巡回看護婦ノ心得置クヘキ事柄ヲ研究シ置カントヲ要ス、殊ニ最モ必要ナル事柄ハ自カラ活動セント欲スル地方ノ範圍内ニ於ル一帶ノ人氣及博愛慈善事業ノ有様如何ヲ知ラシ置カント是レナリ

巡回看護婦ヲ呼ビ迎フルノ方法如何 巡回看護婦協會カ新タニ組織セラル、ノ場合先ツ第一ニ定メ置クヘキ必要ナル條件ハ、巡回看護婦ヲ呼ビ迎フルノ方法手續ヲ定ムルコト是レナリ、看護婦ノ派出ヲ願ヒ出ル場合ニハ必ラスヤ醫師ノ紹介ナクンハアルヘカラス、此紹介ナキ場合ハ之ニ應スルコトヲ許サス而シテ所謂此紹介ナルモノハ書面ニ限ルヘキモノトス、又タ此巡回看護婦ナルモノハ往々ニシテ格段ナル或ル醫師若クハ醫院ノ附屬トナル場合アリ斯ル場合ニ於テハ『ドクトル、某々氏』ノ看護婦若クハ『某醫院』ノ看護婦ト唱ヘラレ、從ツテ其醫師若クハ醫院ノ命スル所ニ據リテ行動センコトヲ要ス、去ルカラニ其他ノ醫師ニアリテハ自然スル看護婦ノ幫助ヲ受クルコトヲ欲セサルニ至レリ、又タ範圍ノ廣大ナル地方ニアリテハ實體上慈善團體ト聯絡セル醫師ノミニ屬スル巡回看護婦ニ依頼センハ得策ニアラサルコトヲ悟了スルニ至リタリ、然レトモ今日ニ至リテハ到ル所何レノ箇所ニテモ、總テノ醫師ヨリノ需メニ應シテ巡回看護婦ヲ派出スルコト、ナレリバルチモアー、ホストン、シカゴ、クリーヴランド及紐育等ニ於ル看護婦協會ハ各方面ヨリノ依頼ニ應スルコトヲ勤メサルハナシ

看護婦業務ノ真相如何。巡回看護婦及公衆ハ共ニ是レ此種ノ看護婦ノ業務ノ性質如何ヲ善ク知了シ居ランコトヲ要ス、此看護婦ノ巡回シ來レル期間ノ長短ハ其患者ノ症狀ト其身邊周圍ノ事情如何ニ從ツテ多少ノ差異ナクンハアラス、蓋シ其看護ヲ要スヘキ事情如何ニ係ラス痛ク其期間ヲ短縮スヘキモノニアラサルナリ、又タ此看護婦ノ巡回シ來レル日限時間等ハ一旦定メタル所ニ違ハサル様注意ヲ密ニスヘク、患者ノ取扱上諸事深ク留意スヘキコトハ今更云フヲ要セス患者ノ身邊ハ無論室内ノ衛生上ニモ須ラク意ヲ注カサルヘカラス、巡回看護婦協會ノ組織善ク整ヒ居ラン場合ニハ體温甚ハタ高キ患者ニ對シテハ一日一回以上看護婦ヲ派遣スルコトアルヘク、或ハ醫師ノ意見ニ從ツテ一日二回以上巡回セシムヘキ事アルヘキナリ、然レトモ長キ期間ニ亘リテ巡回看護婦ヲ要スル場合ニハ從ツテ幾分ノ費用モ嵩ムヘキモノト知ルヘシ

雜仕女ノ事、巡回看護婦ニシテ貧民ノ患者ヲ看護スルノ場合、其看護上必要ナル洗物等ヲ爲サント欲スルモ、其患者ノ家族無人ニシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス、去リトテ看護婦自カラ手ヲ下サンニハ餘暇之レナシト云ヘルコト往々ニシテ之レアルヘキナリ、斯ル場合ニ於テハ別ニ雜仕女ヲ使用スルコト策ノ得タルモノト謂ツヘキナリ

夜勤ノ事、巡回看護婦カ患者ヲ看護シテ最良ノ結果ヲ得ント欲セハ、晝間ノ看護ニ加ヘテ尙ホ夜間ノ看護ニ從事スルヲ許サス、即チ晝夜無差別ニ看護ノ勞ヲ取ラシムルハ決シテ策ノ得タルモノニアラス、但シ非常特別ノ場合若クハ其看護婦ニシテ差シ掛リ急務ノ事之レナキ場合ハ此限ニアラス、其他巡回看護婦協

會ト其協會ニ屬スル看護婦トノ間ニ晝夜共ニ看護ニ當ルヘキ契約成リ立チ居ル場合モ此限ニアラス、夜勤ニ服モサルト服スルトハ畢竟スルニ看護婦ノ給料ニ關係スルモノニ外ナラス、夜間ノ看護ノ必要ナル場合ハ豫シメ看護婦ト協商シテ其事ヲ了セサルヘカラス

給料ノ事、通常患者ヨリ看護婦ニ對シテ看護料ヲ仕拂フコト、ナリ居レルカ、是レハ巡回看護婦創始ノ際ヨリ實際行ハレ居ル所ニシテ經驗上其宜シキヲ得タルモノト謂ツヘキナリ、此看護料ナルモノハ看護婦ノ受クヘキ給料トハ全ク關係ナキモノナリ、此看護料ハ皆ナレ巡回看護婦協會ノ元資金ニ編入セラル、モノナリ、是レ患者及一般公衆モ認識スル所ナリ、巡回看護婦ニシテ慈善團體ト何等ノ關係之レナシトセンカスル看護婦ノ巡回ヲ受ケント欲スル場合ニハ、患者及醫師タランモノハ之ニ對シテ相當ノ看護料ヲ拂ハサルヘカラス、然レトモ巡回看護婦ノ用ヒラル、地方ニ於ル患者ノ大多數ハ、固ヨリ資力乏シクシテ到底看護料ヲ仕拂ヒ得ヘキモノニアラス、殊ニ勞働者ノ中ニテモ手ニ何等ノ習ヒ覺ヘタル職業ナクホンノ勞働ノミヲ主トセルモノニアリテハ、平生其得ル所ノ賃銀甚ハタ少額ニシテ辛フシテ其生活ヲ支フルニ過キス、斯ル勞働者ニアリテハ疾病ニ對スル手當杯ヲ爲シ得ヘキモノニアラサルナリ

而シテ巡回看護婦ニ對シテ仕拂フヘキ給料ハ幾許ナルヤト云フニ、一度ノ訪問ニ就キ十仙乃至二十五仙、時ニ或ハ五十仙乃至一弗ノ事アリト知ルヘシ、然レトモ是レ畢竟スルニ巡回看護婦協會カ正面上設ケタル規定ニ過キス、其實際ニ至リテハ決シテ然ラス、僅カニ一時間若クハ一時間以内ノ看護ニテモ相當ノ報酬

ヲ申シ受ケ、殊ニ引續キテ十二時間看護シタランハ其時間ニ準シテ報酬ヲ申シ受ルコト、セリ、即チ一週間ニ就キテ二十五弗以上ヲ申シ受ルコトアリ、之ヲ労働者ノ儲ケ得ヘキ賃銀ニ比フレハ労働者ノ方却ツテ一層少ナキヲ知ルニ足ルヘキナリ、蓋シ労働者ハ一日二弗ノ賃銀ヲ得ルニ過キサレハナリ、然ルニ彼ノ協會ハ何カ爲メニ看護婦ノ給料ヲ右ノ如ク少額ニ見積リタリヤト云フニ、患者ヨリ報酬トシテ如何ニ少額ノ金圓ヲ看護婦ニ差出スモ、看護婦ヲシテ甘シテ之ヲ受ケシメンノ意志ヨリ出テタルモノト謂ツヘキナリ、貧民中ノ患者ハ看護婦ニ對スル報酬如何ヲ氣遣フテ看護婦ヲ呼ヒ迎フルニ躊躇スル所ナクンハアラス、是レ看護婦ノ給料ヲ少額ニ見積リタル所以ナリ

看護婦ノ事 看護婦用ノ衣服如何ハ随分爭論スヘキ問題ト謂ツヘキナリ、乃チ原則中ノ一編トシテ論述スルヲ適當ナリト信スル程ナリ、巡回看護婦協會ノ大多數ハ之ニ屬スル看護婦ノ衣服、帽子及面纱等ニ就テハ最モ意匠ヲ費ス所ナリ、其恰好色合等皆ナレ人ヲシテ惡感情ヲ懷カシメサル様ニ注意シ、種々様々ニ變化シタル後終ニ一定ノ看護衣ナルモノヲ按出スルニ至リ、今日ニ至リテハ一見以テ直チニ看護婦タルヲ認識スルコト、ナレリ、然レトモ巡回看護婦ノ身ニ纏フヘキ衣服ハ、其業務ニ従事スルニ便利ナレハ足ラシノミ、其餘ハ個人々々ノ隨意ニシテ可ナリ、但シ其衣服ノ地質ハ綿布ニシテ洗濯スルニ都合好キモノナルヘク、其帽子ノ如キモ飾リヲ施コサスシテ可ナリ、又タ寒氣ノ甚ハタシキ季節ニ際シテハ長キ綿布ノ外衣ヲ着シタル儘業務ニ服シテ可ナリ

醫師トノ關係 巡回看護婦ト醫師トノ關係ハ最モ深く且ツ親シカラシコトヲ要ス、二者共ニ是レ患者ニ對

シテ謙遜忠實ニシテ且ツ懇切ナランコトヲ要ス、此看護婦ニシテ自カラ醫事ニ關係シ若クハ醫師ヲ呼ヒ迎ヘルコトヲ躊躇シテ早く運ハサランカ是レ看護婦タルノ責任ヲ盡サ、ルモノト謂ツヘキナリ、貧民ハ概シテ無智ナルモノ多ク殊ニ疾病ニ罹リタル時ハ其患者ハ言フマテモナク、其家族ノモノ等ノ行動カ常識ヲ逸スルハ珍ラシカラサルナリ、今マ其實例ヲ舉ケテ之ヲ證サンカ、謂レナク醫藥ノ事ニ關シテ疑念ヲ懷キ醫師ニ信賴スルノ念ヲ缺キ、其甚ハタシキニ至リテハ、看護婦ノ善ク辯護スルニモ拘ラス、僅カノ感情ニ制セラレテ醫師ヲ取替ヘルコト六七回若クハ其以上ニ達スルコトサヘアリ、或ハ患者ノ隣人カ突然入り來リテ無益ノ世話立ヲ爲スコト珍ラシカラス、斯ル不始末不都合ノ中ニアリテ看護ノ勞ヲ取ルハ最モ困難ナリト云ハサルヘカラス、然レトモ此間ニアリテ宜シク調停ノ勞ヲ取ルハ是レ亦タ巡回看護婦ノ義務ト謂ツヘキナリ苟クモ此看護婦タルモノハ飽クマテモ保護スルノ責任アルコトヲ忘ルヘカラス

救助ノ事 巡回看護婦ノ業務タルヤ貧民理濟上ノ救助ヲモ與フルモノナリトノ觀念ヲ有スルモノ或ハ之レアリ、然レトモ是レ一般ノ經驗上誤解ニ出テタル事判明シタリ、蓋シ巡回看護婦ナルモノハ財務ヲ善ク料理スルノ練習ナキモノ多キニ居レハナリ、若シ斯ル看護婦ニシテ患者ノ財政上ニ關係シタリトセンカ、其本職タル看護婦タルノ職務ハ從ツテ疎忽ニ流レンハアラス、是レ取リモ直サス醫師、患者及社會ノ誤解ニ外ナラサルナリ、然レトモ此等ノ巡回看護婦ニ相當ノ金圓ヲ供給センコトハ、種々ノ點ヨリ之ヲ考フル

ニ當然ノ事ト云ハサルヘカラス、是レ看護婦カ必要ニ應シテ臨時支出ヲ爲サ、ルヘカラサル場合アレハナリ、例之ヘハ看護婦ノ意見ニテ臨時ニ食物、藥品若クハ薪炭ノ類ヲ買ヒ入ル、カ如キ場合はレナリ、但シ斯ク看護婦ノ意見ニテ臨時ニ所用ノ物品ヲ買ヒ入レタル場合ニ於テハ直チニ其看護婦所屬ノ協會ニ報告セシムコトヲ要ス、此外患者ヲ病院、回復期患者收容所其他ノ療養所等ニ送致スルコト及臨時ニ助手ヲ雇ヒ入ル、事等ハ皆ナ是レ此巡回看護婦、若クハ監督看護婦ノ手ニ一任スヘク、而シテ此等ノ事ハ協會ノ事務取扱規程中ニ含マルヘキモノトス

第三

看護婦協會ノ組織及事務取扱法

個人保護者ノ事 巡回看護婦協會ノ組織如何ハ重モニ其協會ニ用ヒラル、看護婦ノ員數ト其會計上有様如何ニ準據セスンハアラス、僅カニ一個人若クハ一家一門ノ資力ヲ以テ看護婦ノ給料ヲ支拂ヒ且ツ其看護上ニ要スル費用全部ヲ支出シ、又タ看護婦ノ方ニアリテモ其身ヲ患者看護ノ事ノミニ委ネタリトセンカ、是レ則チ看護婦協會ノ組織セラレタルモノニシテ最早ヤ其他ヲ要セサルナリ、思フニ斯ル組織ノモノ少ナカラサルナリ、即チ斯ル巡回看護婦協會ハ小市邑及都會ヨリ隔タリタル地方ニ於テ往々見ル所ナリ、然レトモ此等ノ看護婦協會ハ多數ノ人民ニ便益ヲ與フル永久の組織ニ比フレハ、不便利ナル所ナクンハアラス、是

レ他ナシ、斯ル看護婦ノ從事ハ一個人ノ意見若クハ資力ヲ以テ如何トモ爲シ得ヘケレハナリ

委員會組織ノ事 巡回看護婦協會ノ組織中亞米利加國ニ於テ最モ多ク行ハル、ハ一ノ委員會アリテ之ヲ組織シ之ヲ監督スルモノ是レナリ、此委員會組織ニテハ一個人ノ經營ニ成レルモノヨリ金圓ヲ蒐集スルコト一層困難ナリト謂ツヘキナリ、然レトモ多數ノ人民ヲ益スル點ニ至リテハ大ニ優レル所ナクンハアラス
聯合協會ノ事 此聯合協會ト云ヘルハ數個ノ協會カ互ニ一致合同シテ經營スルモノ是レナリ、即チ若干ノ財産ヲ有シ且ツ他ノ遺産等ヲ收受スヘキモノニシテ、此協會ノ事業經營ニ就テハ憲法及其附則等ヲ設クルコト他ノ慈善團體ト均シキモノナリ

憲法及其附則ノ事 後段ニ記載サレタル看護婦ニ關スル憲法、其附則及其他ノ規則等ハ米國ニ於ル規模大ナル巡回看護婦協會ノ憲法等ニシテ模範ト謂ツヘキモノアリ、又タ通常任命セラレタル委員以外ニ實務ニ當ルヘキ準委員ナルモノアリ、而シテ此準委員ナルモノ、職責如何ト云フニ、物品供給所ヲ監理シ、特別ナル食物ヲ用意シ、回復期患者ニ注意ヲ拂ヒ其他患者ノ全ク本復シタルモノ、爲メニ適當ナル職業ヲ選擇スル等はレナリ

手工ノ嗜ミナキ労働者ヲ使用スル事 委員會々員中ニテ出來得ヘキ何等カノ業務ヲ患者ニ爲サシムルコトアリ、其業務ノ選擇ノ如キハ主トシテ看護婦ノ手ニ一任スヘキモノトス、患者ニシテ此等ノ業務ヲ忠實ニ成シ遂ケタランニハ、所謂ル一舉兩得ノ策ニ外ナラス、即チ其一ハ其業務ニ就キタルカ爲メ幾分ノ利益ヲ

得タルコト是レナリ、今一ツハ從來定マリナキホンノ勞働ニ服シテ僅カノ賃銀ヲ得タリシモノカ、何等カ一定ノ業務ヲ覺ヘ得テ生計上一層便益ヲ得ルコト是レナリ

年報ノ事 巡回看護婦協會ノ年報ハ公衆ニ對シテ一種ノ感動ヲ與フルモノナリ、凡ソ此等ノ協會カ何レモ皆ナ其年報編纂ノ順序體裁ヲ同一ニシタランニハ、容易ク對照比較スルコトヲ得テ、之カ爲メニ興味ヲ感スルコト極メテ深カルヘキナリ、獨リ數多ノ協會ノ結果ヲ互ニ比較シ得ヘキノミナラス、大ナル病院ノ結果トモ比較シ得テ大ニ趣味アルヘキナリ、尙ホ之ヲ詳言センカ一ノ巡回看護婦協會ノ成シ遂ケタル看護事業ヲ最モ精密ニ蒐集シ之ヲ統計表ニ作成シテ示シタランニハ、醫學士及社會學士ニ取リテ大ニ重要視セラレヘク、且ツ人類ノ慈惠救濟事業ニ關シテ信憑スヘキ報告ヲ得ント熱望スル公衆ヲ満足セシムルコトヲ得ヘキナリ

今マ此等ノ年報中公衆一般ニ一種ノ趣味ヲ與フヘキ事項ヲ舉レハ左ノ如シ

協會ノ業務取扱法

業務遂行ニ要スル費用

治療ヲ受ケタル患者ノ員數

疾病ノ診斷及症候

結果(全治、病院へ送致、死亡等)

看護ノ有様

新タニ巡回看護婦協會ヲ組織セント欲スルモノアラン場合ニハ之カ參考トナルヘキモノヲ與ヘンコトヲ要ス、即チ既ニ組織セラレシ以來多年ヲ經過シテ現ニ好成绩ヲ奏シツ、アル三ヶ所ノ巡回看護婦協會ニ於テ看護婦ニ關スル憲法其附則及其他ノ規則等ヲ與ヘンコトヲ要ス、尙ホ此事ニ關シテ一層詳細ナルコトヲ知ラント欲スル人アランニハ、紐育市ヘンリー街ナル當事務所マテ御申込ミアレヨ、當事務所ハ甘ンシテ之ニ應スヘシ

ミシガン州デットロキトニ於ル巡回看護婦協會ノ規則

吾人ハ本州條例ノ規定スル所ニ從ツテ聯合シタル協會タランコトヲ欲シテ茲ニ左記ノ如キ規則ヲ編成スルモノナリ、所謂本州條例トハ一千八百九十九年ノ制定ニ係ルミシガン州ノ公布條例ニシテ、同年六月二十三日ノ認可ニ係リ名ケテ『慈善協會聯合取締條例』ト云ヘルモノ是レナリ

第一條 設立當時ニ於テ協會ニ加名シタル者ノ姓名及住所ハ左ノ如シ、(第六條ヲ參照セヨ)

第二條 當聯合協會ハ名ケテ『巡回看護婦聯合協會』ト云ヒ、其事務所ヲミシガン州ウエーネ郡デットロキトニ置キ、其聯合年限ヲ三十ヶ年ト定ム

第三條 當聯合協會ヲ組織スルノ目的ハウエーネ郡デットロキト市ニ於ル地方看護事業ヲ秩序的ニ實行シ

以テ漸次ニ發展擴張セシメント欲スルニアリ、即チ同市ノ區域内ニ於ル貧民患者ヲ成ルヘク多ク救濟セント欲スル目的ニ出テタルモノ是レナリ、而シテ此目的ヲ達センカ爲メニ他ヨリ寄附セララル、金圓物品遺産其他法律上差支ヘナキ動産不動産ヲ收受スルモノトス

第四條 當聯合協會ノ事務員ハ十八名ト定メ其任期ハ三ケ年間トス、但シ特ニ規定アルモノハ此限ニアラス、又タ此事務員ヲ分チテ三種トス、事務員ノ任期ハ三ケ年ナリト雖モ設立當時ヨリ以後改選ハ左記ノ如キ順序ダランコトヲ要ス、曰ク次回即チ一千九百二年ノ年會ニ於テ三分ノ一ヲ改選シ、翌一千九百三年ノ年會ニ於テ三分ノ一ヲ改選シ、又タ其翌一千九百四年ノ年會ニ於テ残り三分ノ一ヲ改選スルモノトス、斯クノ如ク事務員ノ改選ハ一千九百二年ノ年會ヲ始メトシテ爾來毎年全數ノ三分ノ一ツ、ヲ改選シ三ケ年ニシテ全部改選セララル、モノト知ルヘシ、且ツ此等ノ事務員中ヨリ左記ノ如キ役員ヲ選定スルモノトス
會頭、副會頭、書記及會計掛各一名ツ、トナシ其任期ハ一ケ年ト定メ、其後任者ノ選定セララル、マテ勤續スヘキモノトス

第五條 聯合協會ナルモノハ附則ノ定ムル所ニ從ツテ其事務所内ニ於テ之ヲ開催スヘキモノトス、即チ毎年三月第二木曜日ニ開催スル規定ニシテ、其時間ノ如キハ隨時之ヲ定メテ通知センコトヲ要ス

第六條 何人ニ限ラス年ニ一弗ノ會費ヲ納付スルモノハ本協會々員タルコトヲ得ヘシ、但シ其會費納付ノ時期ハ附則ノ定ムル所ニ依ルモノトス、又此聯合ニ加入シタル協會ノ會員ト否ラサルトニ論ナク、當聯合

協會事務員ノ意見ニテ本協會ノ目的ヲ贊助スヘキモノト認定シタランニハ、皆ナ是レ會員トナシ會費ヲ要セサルモノトス、醫師タランモノハ悉ク皆ナ會員トシテ會費ヲ徴收セサルモノトス

志加古ノ巡回看護婦協會ノ附則

第一條 何人ニ限ラス年ニ五弗ヲ納付スルモノハ會員タルコトヲ得、但シ其納付期ハ毎年一月一日カ若クハ其以前タルヘキモノトス

第二條 當協會ノ役員ハ會頭一名、副會頭二名、書記一名及會計掛一名ヨリ組織セララル、モノトス、又タ其他ニ部長局ナルモノアリ、當協會ノ會頭、二名ノ副會頭、書記、會計掛其他二十七名ノ會員ヨリ組織セララル、モノトス、而シテ會頭、副會頭、書記及會計掛等ノ役員ハ、毎年一月開催セララル、年會ニ於テ會員ノ投票ヲ以テ選舉セララルヘキモノトス、但シ其任期ハ各々一ケ年ト定ム、又タ彼ノ部長局ヲ組織スル會員二十七名ノ内九名ハ一ケ年ノ任期、九名ハ二ケ年ノ任期、他ノ九名ハ三ケ年ノ任期ト定ム、斯クノ如クニシテ各年會ニ於テ九名ツ、改選セララル、手順トナリ皆ナ三ケ年ノ任期トナルヘキモノナリ、此外部長局ノ意見ニテ名譽局員ト云ヘルヲ選定スルコトアリ、此名譽局員ト云ヘルハ顧問官ノ地位ニアリテ發言權ヲ有セサルモノトス

第三條 當協會ノ年會ナルモノハ其年ノ一月第一ノ月曜日後第一水曜日ヲ以テ開催セララル、モノトス、又

タ時ニ或ハ特別會ナルモノヲ開催スルコトアリ、是レハ會員十名以上ノ同意書面ヲ以テ要求シタル場合ニ於テ開催スヘキモノトス

當協會ノ各集會ヲ開催セント欲スル場合ニハ書記ハ其旨郵便ニテ各會員ニ通知センコトヲ要ス、其通知期限ハ開會當日ヨリ少ナクモ四日前ナランコトヲ要ス、而シテ開會シ得ヘキ定員ハ四十名ナリトス

第四條 部長局ハ定例トシテ毎月會議ヲ開カンコトヲ要ス、其開會期日ハ毎月第一木曜日ト定ム、但シ七、八、九ノ三ヶ月ハ此限ニアラス、又部長局ハ時ニ或ハ臨時會議ヲ開催スルコトアリ、是レハ會長ノ意見ニ從フカ或ハ局員三名ノ要求書ニ基ツクヘキモノトス

右ノ如ク臨時會議ヲ開カント欲スル場合ニハ開會ノ案内狀ニ其議案ノ大要ヲ記載シ置カンコトヲ要ス、而シテ其會議ニ於テハ所謂ル其議案ノ外議スヘカラス、且ツ五名ヲ以テ開會定員トナス

第五條 部長局員タランモノハ各々其職責トシテ寄附金等ヲ募集シテ協會ノ業務ヲ補助センコトヲ要ス

第六條 部長局員中ニシテ引續キテ三回ノ定期會議ニ缺席シタルモノアラシカ、斯ル局員ハ辭職者ト見做シテ夫々處分スヘキモノトス、但シ會議ノ出席員三分ノ二カ反對ノ意見ヲ有スル場合ハ此限ニアラス

第七條 當協會々長ハ協會及部長局ノ開催スル會議ハ皆ナ自カラ之ヲ主宰シ、總テノ委員ヲ任命スヘキモノトス、但シ特別ノ規定アル場合ハ此限ニアラス

會長不在ナルカ若クハ會長缺員トナル場合ニ於テハ、副會長之ニ代リテ會長ノ權能及職責ヲ有スルモノトス

第八條 書記ハ協會及部長局ノ記録及通信事務ヲ司トリ、又ハ協會及部長局ヨリ委任サレタル職務ヲ盡サシコトヲ要ス

第九條 會計掛ハ協會ニ屬スル金圓ヲ殘ラス收受シテ適當ナル銀行ヘ預ケ入レンコトヲ要ス、即チ其銀行ト云ヘルハ部長局ヨリ時々指定シタルヘク、總テ金錢ノ收支ニ就テハ極メテ誠實ニ極メテ精密ナラサルヘカラス、此會計掛ニシテ不在ナル場合ニハ會長自カラ之ニ代リテ事ヲ執ルカ、或ハ特ニ會長ヨリ任命シタル役員ヲシテ之ニ代ラシメンコトヲ要ス

第十條 年會ノ終了スルト均シク出來得ヘキ丈ケ速カニ左記ノ如キ委員會ヲ任命センコトヲ要ス

(イ) 看護婦委員會 部長局ノ適當ト思惟スル丈ケノ看護婦ヨリ組織セラル、モノトス、而シテ其職責トスル所ハ看護婦事業ヲ總括シ看護婦ヲ使役シ指揮スルモノ是レナリ

(ロ) 看護衣需用品等調製委員會 部長局ノ適當ト思惟スル丈ケノ人員ヨリ組織セラル、モノトス、而シテ其職責トスル所ハ看護衣ヲ調製シ其他協會ノ需用品買入方ヲ司トルモノ是レナリ

(ハ) 會計委員會 之ヲ組織スル人員ハ前同様ニシテ其職責トスル所ハ協會ヲ維持センカ爲メニ必要ナル資金ヲ募集スルモノ是レナリ

(ニ) 印刷委員會 人員ハ矢張り前同様ニシテ其職責トスル所ハ隨時ノ印刷物及年報編纂等ノ事ヲ監督攝理スルモノ是レナリ

(ホ) 顧問委員會 是レ亦前同様ノ人員ヨリ組織セラル、モノニシテ、其職責トスル所ハ協會ノ業務上ニ關シ役員中ノ或ルモノ若クハ委員會ノ或ル人ニ對シテ忠告助言ヲ與フルモノ是レナリ

(ヘ) 會計検査委員會 尙ホ是レ前同様人員ヨリ組織セラル、モノニシテ、其職責トスル所ハ少ナクモ年一回協會ノ會計諸帳簿ヲ検査スルモノ是レナリ

第十一條 役員若クハ部長等ノ辭職スル場合ハ部長局ニ於テ之ヲ承認シ、臨時之カ補缺ヲ爲シ置キ次回ノ年會ニ於テ補欠選舉ヲ爲サンコトヲ要ス

第十二條 協會ノ總テノ會議ニ於テ事務報告ヲ爲スノ順序ハ左ノ如シ

- 一、前年度中協會ニ關スル事項ヲ讀ミ上クル事
- 二、通信事業ノ事
- 三、役員ノ報告ノ事
- 四、未完成事業ノ事
- 五、新事業ノ事
- 六、役員及部長選舉ノ事

第十三條 當協會部長局ノ定期會議ニ於テ出席局員ノ三分ノ二ノ決議ヲ經タランニハ、協會ノ定款規則ヲ變更改正スルコトヲ得ヘク、又タ其附則ヲモ然カシ得ヘキモノトス

バルチモアノ教諭的巡回看護婦協會ニ屬スル看護婦取締規則

第一、各看護婦ハ協會ニ對シテ少ナクモ六ヶ月間勤務スヘキコトヲ證明センコトヲ要ス、而シテ退會セント欲スル時ハ一ヶ月前ニ其旨申出テンコトヲ要ス

第二、各看護婦ハ日々八時間ノ勤務ニ服スヘク、而シテ一日間ニ二回即チ午前九時ト午後一時トニ協會ニ來ランコトヲ要ス、然レトモ日曜日及法定大祭日ニハ好シ新患者ノ申込アルモ之ニ應セスシテ可ナリ、但シ既ニ受持テル重症患者ハ此限ニアラス

第三、各看護婦ハ一ヶ月間ニ一ヶ月ハ其勤務ニ服セサルモ差支ヘナキモノトス、然レトモ其一ヶ月間ノ給料ハ平生ノ如ク支給セラル、カ故ニ、其期間ハ看護ノ勞ヲ取り居ラサリシコトヲ證明センコトヲ要ス

第四、看護婦ハ其受持區域内ニ於テハ何人ノ需メニモ應センコトヲ要ス、但シ不取締不始末ノ家庭ハ此限ニアラス

第五、看護婦ハ傳染病ノ看護ヲ爲スヘキモノニアラス、然レトモ如何ナル場合ト雖モ患者ノ家族ニ對シテ看護上ノ訓諭ヲ與ヘ且ツ出來得ヘク丈ケ幫助ヲ與ヘンコトヲ要ス

第六、看護婦ハ醫師ノ診察ヲ受ケ居ラサル患者ノ看護ヲ爲スヲ許サス

第七、看護婦ハ患者ヲ看護スルノ外其家族中ノ或ル者ニ對シテ空氣流通ノ事、食餌ノ事及清潔法等ニ就キ懇ロニ訓諭ヲ與ヘンコトヲ要ス

第八、看護婦ハ物質的幫助ヲ與フヘキモノニアラス、但シ眼前差シ迫リタル萬止ヲ得サル場合ハ此限ニアラス、斯ル場合ト雖モ尙ホ且ツ一時ノミノ救助ニ止マリテ他ニ救助者アルヲ待タンコトヲ要ス、斯ク看護婦ニシテ看護事務以外ノ事ニ關シテ救助ヲ與ヘタル場合、及他ノ者カ之ヲ救助シタル場合モ皆ナ一々之ヲ記載シ置キテ、一週間毎ニ協會ノ書記ノ許ヘ報告セン事ヲ要ス、患者カ偶然ノ事起リテ差シ當リ救助ヲ受ケンコトヲ申シ出ルモ、看護婦ノ方ニ於テ稍ヤ疑ハシキ點アリト思惟シタラン場合ニハ、自カラ救助ヲ與ヘスシテ其地方ニ於ル慈善團體ノ役員ニ救助方ヲ申シ出ル方然ルヘシト忠告センコトヲ要ス

第九、看護婦ハ患者ニ對シテ何タル種類ノ物ヲモ贈與スヘカラス

第十、各看護婦ヨリ患者ニ何等カノ物品ヲ貸與シタル場合ニハ、其貸與シタル月日及返濟期限ヲ書面ニ認メ置キ、其期限來ラハ返却ヲ促カサンコトヲ要ス

第十一、看護婦ハ其職務上患者ノ家ニ臨ミタル場合、其都度々々少ナクモ金拾仙ヲ徵收センコトヲ要ス、但シ其家族カ之ニ應スルノ資力ナキ場合ハ此限ニアラス

第十二、患者ノ宗教上ノ信念若クハ政事上ノ意見ニ對シテハ更ニ關與スヘカラス

ヘンリー街ナル看護婦本部ノ組織及業務取扱法

抑モヘリー街ナル看護婦本部ナルモノハ如何シテ組織セラレタリヤト云フニ、巡回看護婦制度ヲ設ケ且ツ之ヲ維持スルノ目的ヲ以テ、紐育州ノ會員聯合取締條例ニ基キテ組織セラレタルモノ是レナリ、尙ホ之ヲ細説センカ巡回看護ニ從事スル看護婦ノ居所ニ充ル事、看護婦ヲシテ巡回看護ニ關聯シタル諸事ノ準備ヲ爲サシムル事、社交上一層高尚ナル智識養成ノ中心タラシムル事、文庫、讀書室、談話集會室等ヲ設ケテ所謂ル智識養成ノ資ニ供スル事、其他疾病回復期ニ當レルモノヲ收容スル所トナシ、休養ノ目的ニ利用スル等はレ其重モノナルモト知ルヘシ

右看護婦本部ノ組織ハ何レノ所ノ巡回看護婦協會ニモ適用シ得ヘキヤト云フニ、地方々々ノ状態自カラ異ナリ居ルカ故ニ皆ナ是レ適用シ得ヘシト云フヲ得サルナリ、然レトモ巡回看護婦團體ノ業務取扱法ニ至リテハ甚ハタ單純ニシテ何レノ看護婦協會ニモ實行サレ得ヘキモノト謂ツヘキナリ、蓋シ看護婦ノ職責ノ如キモ大市邑ヨリモ小市邑ノ方一層單純無造作ナルモノナリ、是レ情勢自然ノ然ラシムル所ニ外ナラス、是レ他ナシ小市邑ニ於テ看護事業ニ從ハントスル場合ニハ、其業務取扱上諸事形式ニ依ラスシテ直チニ處理シテ毫モ差シ支フル所之レナケレハナリ、然ルニ大市邑ニ於ル看護事業ニ至リテハ其規模ヲ一層擴大ニスヘキ必要アルカ故ニ、從テ百事形式ニ依リテ處分セサルヘカラス、此ニ於テカ看護婦ノ職責モ自カラ複雑ナ

ラサルヘカラス
 看護婦本部々員ニ任命セラレ、手續ノ事 今マ左ニ掲ケント欲スル所ノモノハ看護婦本部へ提出スヘキ願
 書ノ様式ナリト知ルヘシ
 此願書ハ其筋ノ認可ヲ得タル看護婦練習學校ノ卒業生ノミニ限リテ差出スコトヲ得ヘク、且ツ本人自カラ
 差出サ、ルヘカラス

ヘンリー街看護婦本部々員タラント欲スル者ノ出願書々式

一千九百...年

姓 名.....年 齡.....
 住 所.....

グレイター紐育中ニ電話ヲ有シ居ラン場合ニハ其電話番号

練習學校.....何々級卒業生

保 證 人	
姓 名	住 所
姓 名	住 所
姓 名	住 所

健全無病ナルカ.....曾テ扁平足ノ徴候若クハ結核ノ徴候ナカリシカ.....心臟病ノ徴候ナカ
 リシカ.....

曾テ地方ノ看護業ニ従事セシ事アリシカ.....

其箇所.....

其期間.....月日ヨリ.....月日マテ

卒業後何等カ他ノ業務ニ就キシカ.....

其箇所.....

其期間.....月日ヨリ.....月日マテ

試験期間、新看護婦ハ常ニヘンリー街看護婦本部ニ在ランコトヲ要ス、但シ臨時ノ出來事アル場合ハ此限
 ニアラス、或ハ近傍ノ地方ニ於テ看護業ニ服スヘキモノトス、新來看護婦ノ試験期間ハ一定シ居ラスト雖
 モ、入所以來少ナクモ三ヶ月間其業ニ就キタル後ニアラスンハ、此本部々員ノ候補者トナルコトヲ得ス、斯
 クテ新來ノ看護婦カ愈ヨ其業務ニ適當セリトノ實證明ラカニナリタラン場合ニハ、茲ニ初メテ成規通りノ
 部員トシテ承認セラレ、從ツテヘンリー街看護婦本部ニ收容スルコト、ナルヘク、或ハマンハツタン若ク
 ハブロンキス地方ニ派遣セラルヘキモノトス

勤務時間 每日午前九時ヨリ午後六時マテ、但シ午後一時三十分ヨリ同二時マテ休憩時間トス、此外一週

一日ノ休日ヲ與フ、其休日ハ日曜日ト爲スモ若クハ本人ノ望ミニ依リテ他ノ日ニ繰リ替ヘルモ妨ケナキモノトス、苟クモ此巡回看護婦タランモノハ日日ト其勤務時間ハ必ラス其受持区域内ニアリテ、何レノ所ヨリ呼ビニ來ルモ直チニ之ニ應センコトヲ要ス

夜間ノ勤務ハ之レナシト雖モ其本部ノ内社交上止ムヲ得サル場合ハ此限ニアラス

月給ノ事 最初三ヶ月間ハ六十弗ツ、之ニ次ケル九ヶ月間ハ七十弗ツ、第二年及第三年目ハ七十五弗ツ、第四年目ハ八十弗ツ、其以後ハ八十五弗ツト定ム、又入所以來十二ヶ月ヲ經過シタランモノハ、毎年一ヶ月間ノ缺勤アルモ尙ホ給料ハ交付スルモノトス

出費ノ事 寄宿料トシテ毎週六弗ツ、ヲ支拂ハンコトヲ要ス、洗濯費ハ銘々自辨タルヘキ事

調度用意ノ事 看護婦ハ左記ノ如キモノヲ調ヘ置カンコトヲ要ス、曰ク洗濯セラレ得ヘキ「シャツ」四組帽子、外套、暴風雨ノ際用フヘキ外套、丈夫ナル靴、縋帶用ノ鉢、小鉢、外科用探針、挟子、時計、(前掛ハ所費ニテ給與セラレ且ツ洗濯セラレヘキモノトス) 袋等はレナリ

勤勞ノ性質 看護婦勤勞ノ性質ハ到ル所皆ナ同一ノモノニアラス、地方々々ニ於テ大ニ異ナル所ナクンハアラス、今マ看護スヘキ二三ノ疾病ヲ掲ケンカ、或ハ急性肺炎ノ流行スル箇所アリ、外科的の疾病ニテハ大ナル火傷、膿瘡及潰瘍ノ如キモノアリ、産科ニ關スルモノハ比較的少數ナレトモ或ハ一時ニ數名ノ看護婦ヲ要スル場合ナクンハアラス、斯ク疾病ニ種々様々ナルモノアルト均シク看護婦ノ勤勞ニ至リテモ自カラ

異ナラサルヲ得ス

衛生局ニハ之ニ附屬スル巡回看護婦ノ團體アリ、此團體ハ重モニ實布埜里亞、猩紅熱及麻疹ノ看護ニ從事スルモノ是ナリ、故ニ看護婦本部ノ看護婦ハ斯ル傳染病ノ看護ニ從事セサルモ決シテ妨ケナカルヘキナリ看護婦ノ家庭トスヘキ所 彼ノヘンリー街ノ看護婦本部ニ屬スル看護婦ハ夫々受持ノ区域内ニ住居センコトヲ要ス、而シテ此本部内ニ住居スルモノアリ、或ハ其他ノ寄寓所若クハ借家群團中ニ住居スルモノアリ、斯クノ如キ有様ニテ此等ノ看護婦ハ市ノ慈善事業ト親密ナル關係ヲ有スルコト、ナリ、從ツテ自カラ慈惠救濟ノ手段ヲモ知了シテ看護上自カラ其宜シキヲ得ヘキナリ

勤務時間及休息時間ノ事 看護婦ノ勤務時間ハ午前九時ヨリ午後六時マテト定ム、但シ此時間中食事ニ相當ノ時間ヲ要シ且ツ正午ヨリ若干ノ休息時間ヲ要スルコト、知ルヘシ、然レトモ日曜日モ尙ホ平日ト同シク看護ノ勞ニ服サ、ルヘカラス、日曜日及大祭日ノ如キハ患者ノ診察ニ來ル醫師甚ハタ稀レナルカ故ニ、此等ノ日ニハ患者ノ看護婦ヲ頼リトスルコト平生ヨリ一層切ナリト謂ツヘキナリ、各看護婦ハ一週ニ付キ二十四時ノ休息時間ヲ與ヘ、且ツ一ケ年ノ間ニ全一ケ月ノ休業期間ヲ與ヘラルヘキモノトス、斯ク受持看護婦ノ休息シ若クハ休業スル間ハ、隣接セル地方ノ看護婦之ニ代ルカ若クハ臨時看護婦之ニ代ルヘキモノトス訓諭及監督ノ事 看護婦監督ナルモノアリ看護婦本部ニアリテ看護事業全般ノ事ヲ司トル、而シテ看護事業實施上ノ便利ヲ計ランカ爲メニ紐育市ヲ三大部ニ分チ一區毎ニ看護婦監督ヲ置キテ之ヲ總括セシム、復